

青森県埋蔵文化財調査報告書 第233集

西張(2)遺跡

—東北新幹線建設事業に係る遺跡発掘調査報告—

1998年3月

青森県教育委員会

西張（2）遺跡正誤表

ページ	行	誤	正
12	12行目	土器底部が埋設されていた。	土器底部が設置されていた。
17	5行目	8個のピットを	7個のピットを
51	29行目	下位の文様に帯施された	下位の文様帯に施された
60	2行目	円礫の長側縁を用いる	円礫の側縁を用いる
74	図65 タイトル	後期初頭の石器(1)	後期初頭以降の石器(1)
75	図66 タイトル	後期初頭の石器(2)	後期初頭以降の石器(2)

西張(2)遺跡

序

福地村内ではこれまで、東北新幹線建設事業に先立ち、三ヶ年に亘って発掘調査が実施されてまいりました。平成6・7年には西張(3)遺跡・石焼沢遺跡が発掘調査され、既に報告書が上梓されています。

本報告書は、平成8年度の西張(2)遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査によって本遺跡が、縄文時代早期白浜式及び縄文時代後期の集落跡であることが明らかになりました。特に早期の集落はこの時期の集落の広がりをとらえることができ、貴重な調査例といえるでしょう。

この成果が、今後、文化財の保護と活用の一助となれば望外の喜びです。

ここに、御指導・御協力いただいた関係各位・各機関に厚く御礼申し上げます。

平成10年3月

青森県教育長

松 森 永 佑

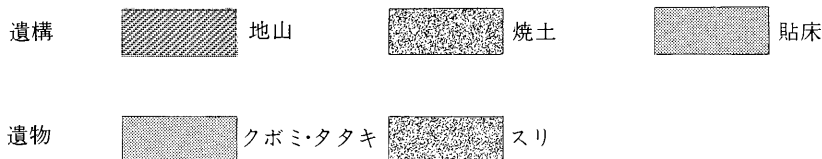
例 言

- 1 本報告書は、東北新幹線建設事業に伴い、平成8年度に発掘調査を実施した、三戸郡福地村に所在する西張(2)遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書の執筆者名は、依頼原稿については文頭に、その他については末尾に付した。
- 3 出土した植物遺体の同定は株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 4 発掘調査および報告書作成にあたって、下記の諸氏・機関から御協力・ご助言を得た。

青森県立郷土館、阿部千春、石本省三、岩手県埋蔵文化財センター、右代啓視、宇部則保、小保内浩之、小笠原善範、大野亨、神原雄一郎、工藤竹久、越田賢一郎、工藤竹久、佐々木浩一、富永勝也、田中哲郎、津嶋知弘、長尾正義、市立函館博物館、八戸市博物館、平川善祥、北海道開拓記念館、村木淳、盛岡市教育委員会、領塚正浩

凡 例

- 1 本書で使用したスクリーントーンの指示は次の通りである。



- 2 文中の縄文原体に関する記述は、『日本先史土器の縄文』（山内清男 1979）に準拠した。ただし、観察表中では略して記述した場合がある。用例は下記の通りである。
0段多条→0多 単軸絡条体→単絡
- 3 本文・観察表中の縄文・絡条体の施文方向は回転方向を示す。したがって、単に横位、縦位、斜位と記した場合、それぞれ横位回転、縦位回転、斜位回転を表している。
- 4 観察表中の→は、調整や文様が重複する場合の先後関係を示す。「・」は重複しないが器面に同居する場合を示す。
条痕後に縄文が施された場合 条痕→縄文
縄文と沈線が器面に同居する場合 縄文・沈線
- 5 観察表中の石質は略して表記したものがある。用例は次の通りである。
玉髄質の珪質頁岩→玉珪 珪質頁岩→珪頁 緑色細粒凝灰岩→緑細凝
- 6 土層注記は、基本層序をローマ数字で、遺構堆積土を算用数字で表記した。土色は新版標準土色帳（農水省農林水産技術会議・財団法人日本色彩研究所監修）を用いて表現した。
- 7 写真図版の縮尺は、遺構については不同、遺物については図版中に記載した。
- 8 本書図中の北は、座標北を示す。ただし、1/25,000地形図は真北である。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次・挿図目次	
第1章 調査要項・調査経過・調査方法	
第1節 調査要項	1
第2節 調査方法	1
第3節 調査経過	2
第2章 遺跡の地理・地形・層序	
第1節 遺跡の地理・地形	2
第2節 遺跡の層序	4
第3章 検出遺構と出土遺物	
第1節 縄文時代の遺構	7
第2節 時期不明の遺構	49
第4章 遺構外出土遺物	
第1節 縄文時代早期の遺物	51
第2節 縄文時代後期初頭以降の遺物	60
引用・参考文献	84
付編 西張(2)遺跡から出土した大型植物化石	86
抄録	

挿 図 目 次

図1 遺跡位置図	3
図2 基本層序	5
図3 遺構配置図	6
図4 第1号住居跡	7
図5 第1号住居跡出土遺物(1)	8
図6 第1号住居跡出土遺物(2)	9
図7 第2号住居跡および出土遺物	10
図8 第3号住居跡および出土遺物	11
図9 第4号住居跡(1)	12
図10 第4号住居跡(2)	13
図11 第4号住居跡出土遺物(1)	14
図12 第4号住居跡出土遺物(2)	15
図13 第5号住居跡および出土遺物(1)	16
図14 第5号住居跡出土遺物(2)	17
図15 第6号住居跡	18
図16 第6号住居跡出土遺物(1)	19
図17 第6号住居跡出土遺物(2)	20
図18 第6号住居跡出土遺物(3)	21
図19 第6号住居跡出土遺物(4)	22

図20	第7号住居跡	23
図21	第7号住居跡出土遺物	24
図22	第8号住居跡	24
図23	第8号住居跡遺物出土状況および出土遺物	25
図24	第8号住居跡出土遺物(2)	26
図25	第9号住居跡および出土遺物(1)	27
図26	第9号住居跡出土遺物(2)	28
図27	第2号土坑	29
図28	第3号土坑および出土遺物	30
図29	第4・5・6号土坑	31
図30	第7・8・10号土坑	32
図31	第9号土坑	33
図32	第11・12・13・14号土坑	34
図33	第15号土坑	35
図34	第16・17・18号土坑	36
図35	第18号土坑出土遺物	37
図36	第19号土坑および出土遺物	38
図37	第20号土坑	39
図38	第21・22・23号土坑	40
図39	第24・25号土坑	42
図40	第25号土坑出土遺物および第26・27・28号土坑	43
図41	第29・30・31号土坑	44
図42	第30・31号土坑出土遺物	45
図43	第32・33号土坑	46
図44	集石遺構	47
図45	集石遺構出土遺物	48
図46	第1・2号焼土	48
図47	第1号土坑	49
図48	道路状遺構	50
図49	第Ⅲ層遺物出土状況(1)	52
図50	第Ⅲ層遺物出土状況(2)	53
図51	土器属性分類図(1)	52
図52	土器属性分類図(2)	53
図53	早期の土器(1)	55
図54	早期の土器(2)	56
図55	早期の土器(3)	57
図56	早期の石器(1)	61
図57	早期の石器(2)	62
図58	早期の石器(3)	63
図59	平行沈線文分類模式図	67
図60	後期初頭～晩期の土器(1)	69
図61	後期初頭～晩期の土器(2)	70
図62	後期初頭～晩期の土器(3)	71
図63	後期初頭～晩期の土器(4)	72
図64	後期初頭～晩期の土器(5)・ミニチュア土器・土偶・土製品	73
図65	後期初頭以降の石器(1)	74
図66	後期初頭以降の石器(2)	75

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査要項

1 調査目的

東北新幹線建設工事に先立ち、当該工事予定区域に所在する西張(2)遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施し、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

2 発掘調査期間

平成8年7月9日から平成8年11月1日まで

3 遺跡名及び所在地

西張(2)遺跡（県遺跡番号64-007） 三戸郡福地村大字法師岡字西張57-1、外

4 発掘調査対象面積

7,435m²

5 調査委託者

日本鉄道建設公団・青森県土木部道路建設課

6 調査受託者

青森県教育委員会

7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査協力機関

福地村教育委員会、三八教育事務所

9 調査参加者

調査指導員 市川 金丸 青森県考古学会会長（考古学）

調査協力員 玉川 勝義 福地村教育委員会教育長

調査員 滝沢 幸長 八戸市文化財審議委員（考古学）

七崎 修 元県立八戸北高等学校教諭（地質学）

小林 和彦 八戸市縄文学習館主査兼学芸員（動物考古学）

調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター

調査第二課 総括主幹・課長 鈴木 克彦

主 事 中村 哲也

主 事 野村 信生

調査補助員 片山幾子、堤淳子、永洞佐哉子、深畑哲哉

第2節 調査方法

現地表面から表土のみを重機で除去した後、建設省告示によって定められた平面直角座標第X系に準拠した4mグリッドを設定した。X=51800, Y=48800をII A-5と呼称し、東西軸をA~TのA

ルファベットとローマ数字の組み合わせで、南北軸を算用数字で表記した。グリッドの呼称は、北東側のグリッドライン交点を用いて表した。標高原点（ベンチマーク）は、日本鉄道建設公団が設置したBM. 1（標高29.974m）からレベル移動を行い、調査区域内に数箇所設定した。包含層を手掘りで掘削し、遺構検出を行っていった。遺構実測は、1/20で実測図を作成した。土層観察は、『標準土色帖』を用いて注記を行っていった。写真撮影は、適宜行うこととし、カラーリバーサルとモノクロームの2種類のフィルムを使用した。

第3節 調査経過

平成8年7月9日、調査器材を現地に搬入し、西張(2)遺跡の調査を開始した。

7月中旬、20mグリッドを設定し、遺構・遺物の分布を確認をするための試掘トレンチを設定し掘り下げを開始した。その結果、縄文時代早期の遺物・後期の遺構が広域にわたり確認された。また調査範囲外に溝が延びることから、調査対象範囲を広げ調査を行った。

8月初旬、土層観察用のベルトを残し、調査区東部の表土を重機で除去した。表土の除去は調査の進行状況により随時行った。

9月初旬、ベルトコンベヤーを設置し調査の円滑化をはかる。

9月中旬、調査区西部に遺構の広がり確認されたため、重機で倉庫基礎の除去を行う。光波トランスミットを使用して、Ⅲ層から出土した早期遺物の取り上げを開始した。

9月下旬、早期住居（1H）をⅢ層で検出し、精査を開始した。

10月初旬、調査区南西部で後期の集石遺構を検出。

11月1日、調査器材を当センターに移動して、作業員を使つての作業を終了した。一部遺構実測等が残つたため、11月5日～8日まで残務整理を行った。

11月8日、発掘調査を終了する。

（野村）

第2章 遺跡の地理・地形・層序

第1節 遺跡の地理・地形

西張(2)遺跡の所在する福地村は青森県の南東部に位置し、東・北は八戸市、西は名川町、南は南郷村に接する。東南東方約17kmには階上岳が、南西方約12kmには、名久井岳が所在する。

本地域の地形は、馬淵川と、その両岸の河岸段丘によって特徴づけられる。岩手県北東部葛巻町を源とする馬淵川は、青森県三戸郡名川町諏訪ノ平付近で北東へと方向を変える。名川町福田付近から蛇行を繰り返し、遺跡の北東約3kmの地点で沖積地に入り、太平洋へと注ぐ。

この地域の段丘群は、上位より天狗平段丘、高館段丘、根城段丘、田面木段丘、名久井段丘に区分されている（大池・中川 1979）。遺跡をのせる段丘は田面木段丘に相当する。田面木段丘は、段丘構成層の上に、高館火山灰・及び完新世の火山灰をのせる。本段丘は八戸市田面木付近を模式地とし、標高10m程度であるが、上流方へ向かって高度を増し、三戸付近では80mに達する。本遺跡周辺では

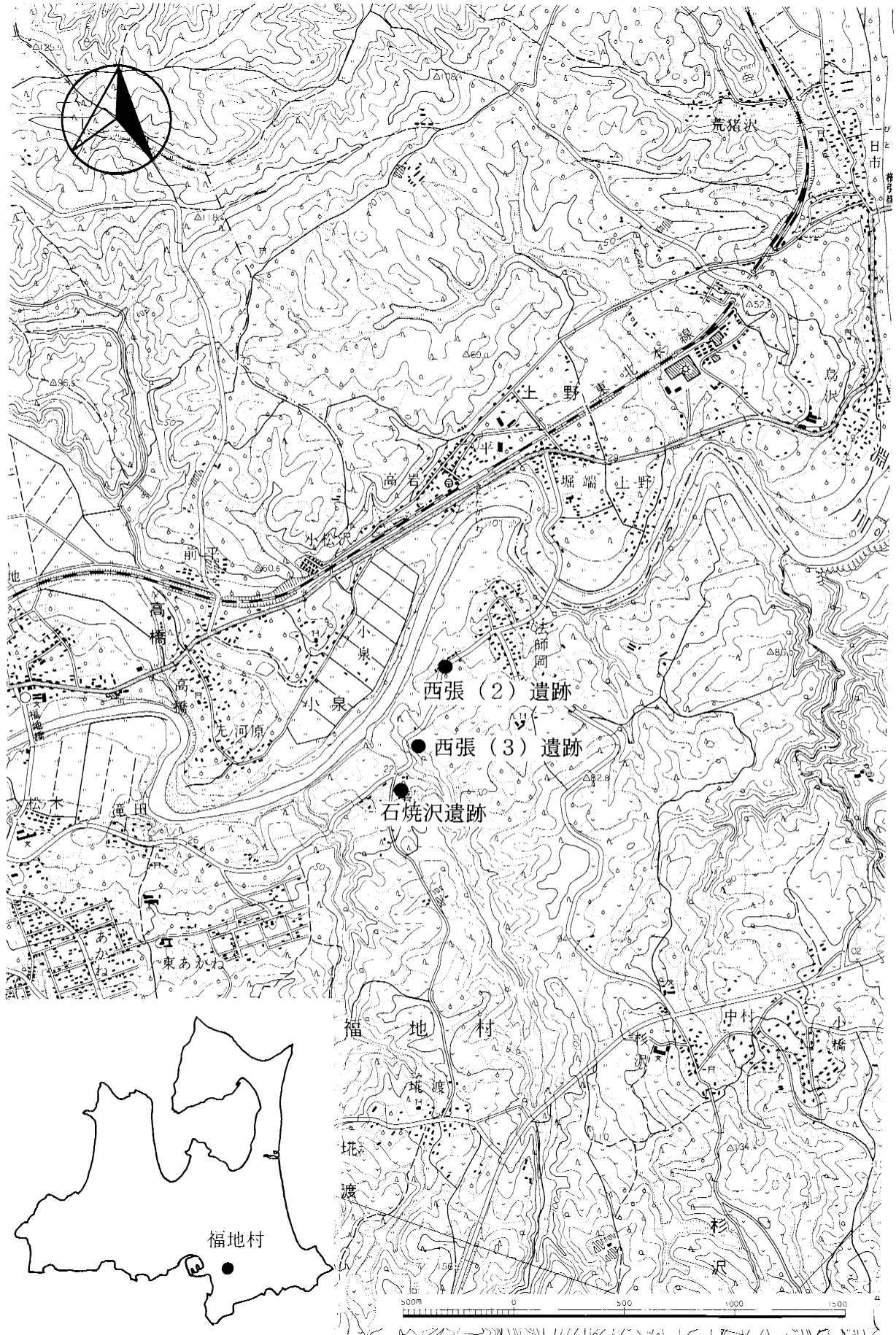


図1 遺跡位置図 (S-1/25,000)

標高30m前後、幅3～500m程度である。

馬淵川右岸の段丘は枝谷によって開析され、舌状の台地をなしている。遺跡はこの舌状台地の一つに立地する。枝谷を挟んで南西方の台地に西張(3)遺跡が、さらに枝谷を挟んで同じ段丘上に石焼沢遺跡が所在する。遺跡がのる台地の北縁は比高差数mの段丘崖をなしている。

第2節 遺跡の層序

本地域の基盤は、第三紀中新世の安山岩、角礫凝灰岩などの堆積岩類である。馬淵川左岸では、これら基盤岩の上に第三紀鮮新世の斗川層がのる。基盤層の上には段丘構成物及び高館火山灰、八戸火山灰(12700±260 B. P.)、及び完新世火山灰がのっている。本地域で確認される完新世火山灰は下位から、二ノ倉(9000 B. P.)、南部浮石(8600±250 B. P.)、中振浮石(縄文時代前期中葉)、十和田b(弥生時代初頭)、十和田a、白頭山の各火山灰である。十和田a、白頭山の両火山灰は遺構堆積土から検出される場合が多い。

本遺跡で確認した火山灰は下位から、八戸火山灰、南部浮石、十和田b火山灰である。八戸火山灰以外は成層状態にない。中振浮石は確認できなかったものの、これを母材の一部とする可能性の高い黒色砂質土が発達している。

本遺跡の土層は、八戸火山灰を最下層としてⅦ層に細分した(図版2・図版17)。

- 第Ⅰ層 黒褐色(10YR2/2)中粒砂質シルト。φ3～5mmの白色浮石(十和田b火山灰)を含む。
- 第Ⅱa層 黒褐色中粒砂質シルト(10YR2/3)。Ⅰ層より粘性に乏しい。調査区北半分では堆積が薄く、
Ⅱb層との区分が困難な部分もある。調査区南西部で堆積が厚い。
- 第Ⅱb層 黒褐色粘質シルト(10YR2/3)。φ5mm～1cmの黄褐色浮石(南部浮石)を微量含む。
- 第Ⅲ層 暗褐色(10YR3/4)シルト。φ5mm～1cmの黄橙色(10YR8/8)浮石を微量含む。上下層との境は漸移的である。
- 第Ⅳ層 黄褐色(10YR5/6)火山灰土。粘性なし。固くしまっている。
- 第Ⅴ層 黄褐色(10YR5/8)火山灰土。粘性なし。固くしまっている。
- 第Ⅵ層 明褐色(7.5YR5/8)火山灰土。粘土化している。部分的に認められる。二ノ倉火山灰に類似。
- 第Ⅶa層 明黄褐色(10YR6/8)浮石。最大径3cm程度。
- 第Ⅶb層 にぶい黄橙色(10YR7/4)浮石層。最大径5mm。
- 第Ⅶc層 灰白色(2.5Y8/2)火山灰。上位はφ5mmの風化した浮石だが、下位に行くに従って粘土化する。
- 第Ⅶ層は八戸火山灰に相当する。上述した各層のうち、Ⅰ～Ⅱ層より縄文時代早期～後期の土器、Ⅲ層より早期の土器が出土した。Ⅱa層中に後期の、Ⅲ層中に早期の生活面が存在したものと考えられる。(中村)

註 上記火山灰の年代は大池・中川(1979)、松山(1983)、青森県教委(1994)による。

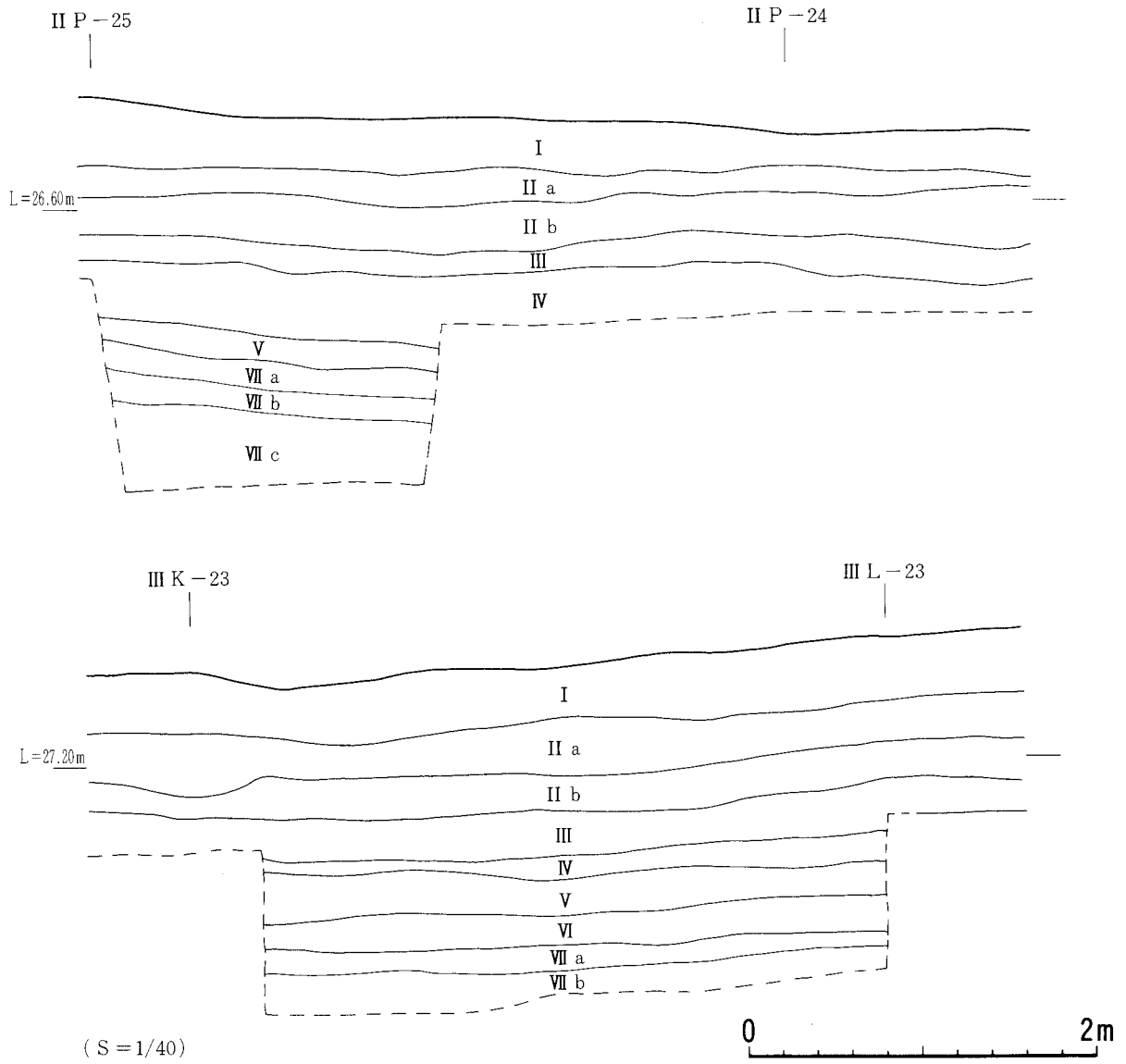


図2 基本層序

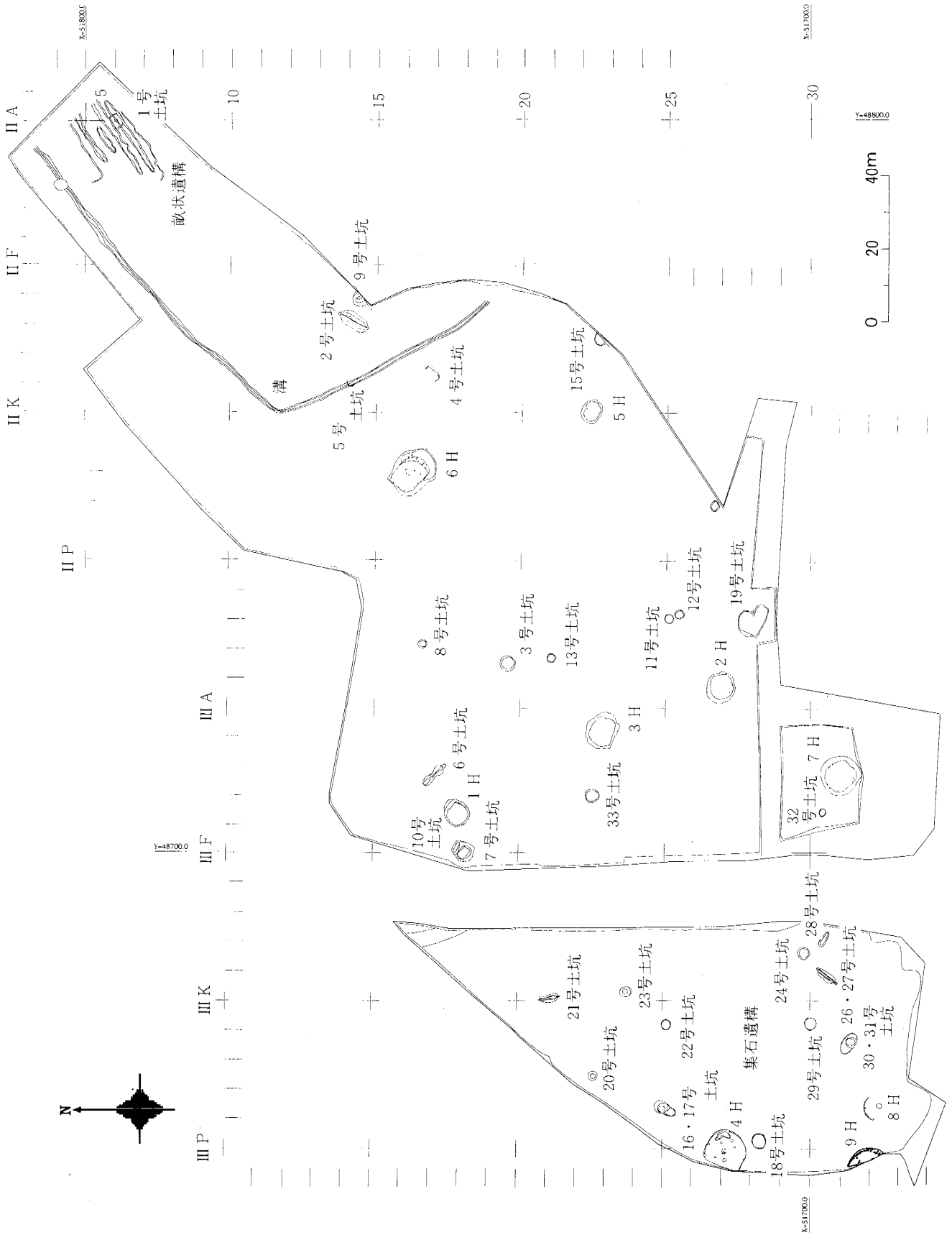


図 3. 遺構配置図 (1/750)

第3章 検出遺構と出土遺物

検出された遺構は、縄文時代早期・後期を主体とし、住居跡9軒（早期6、後期2、後期末～晩期初頭1）、土坑33基（うち、早期2、後期3）、焼土2基、集石（後期）、溝1条（時代不明）、畝状遺構（時代不明）、道路状遺構（時代不明）である。早期の住居跡からは炉跡は検出されなかった。

第1節 縄文時代の遺構

第1号住居跡（図4～図6、図版1）

[位置] III D-18・19に位置する。[確認] III層中で周囲に比較して南部浮石を多く含む、黒褐色土の範囲を確認し、トレンチにより落ち込みであることを確認した。[重複] 認められない。[平面形] 壁柱穴（後述）の配置から隅丸方形を呈すると考えられる。上場は後述するように堆積土と壁の判別が難しかったため掘りすぎ、円形に近いものとなってしまった。

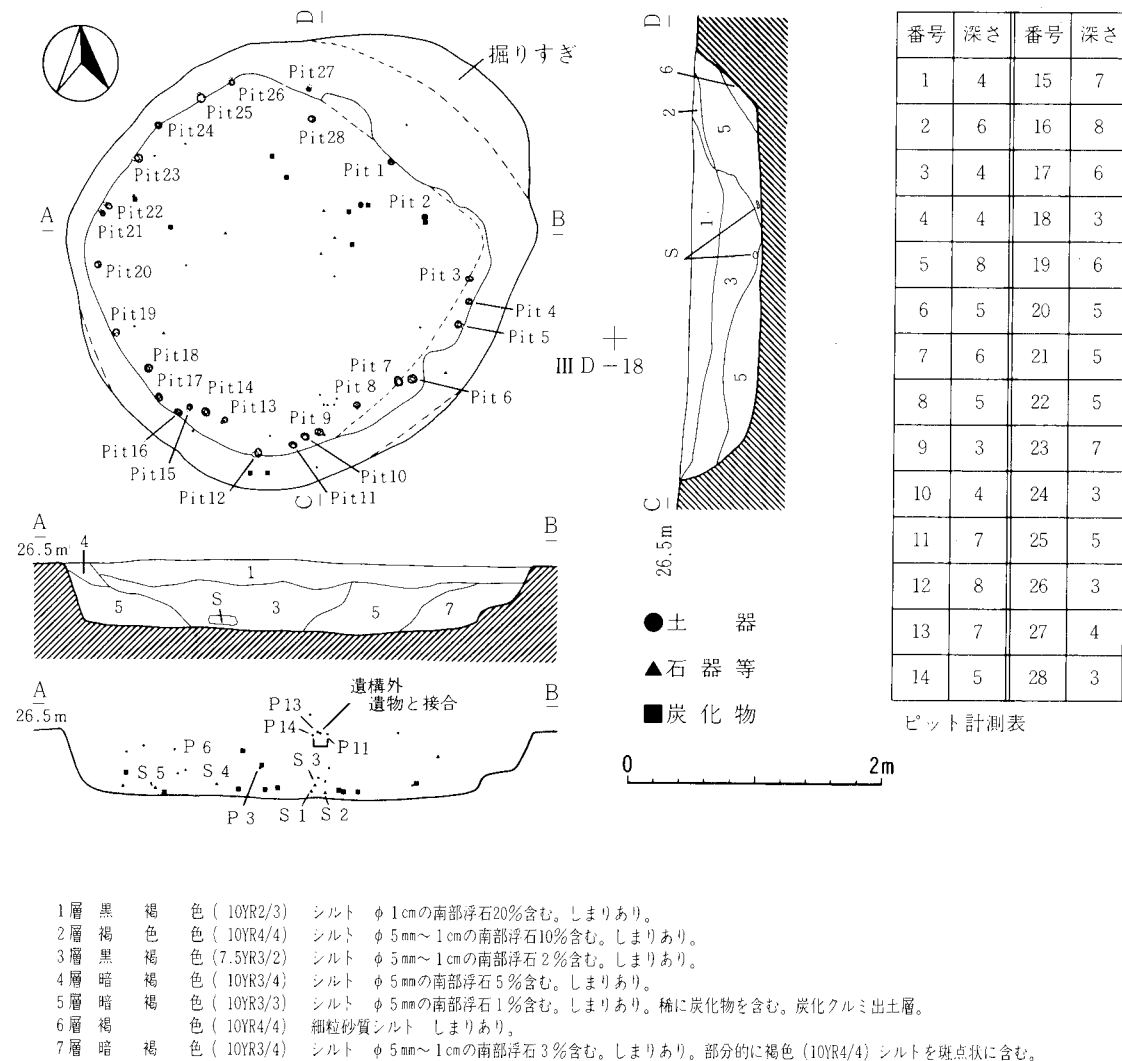
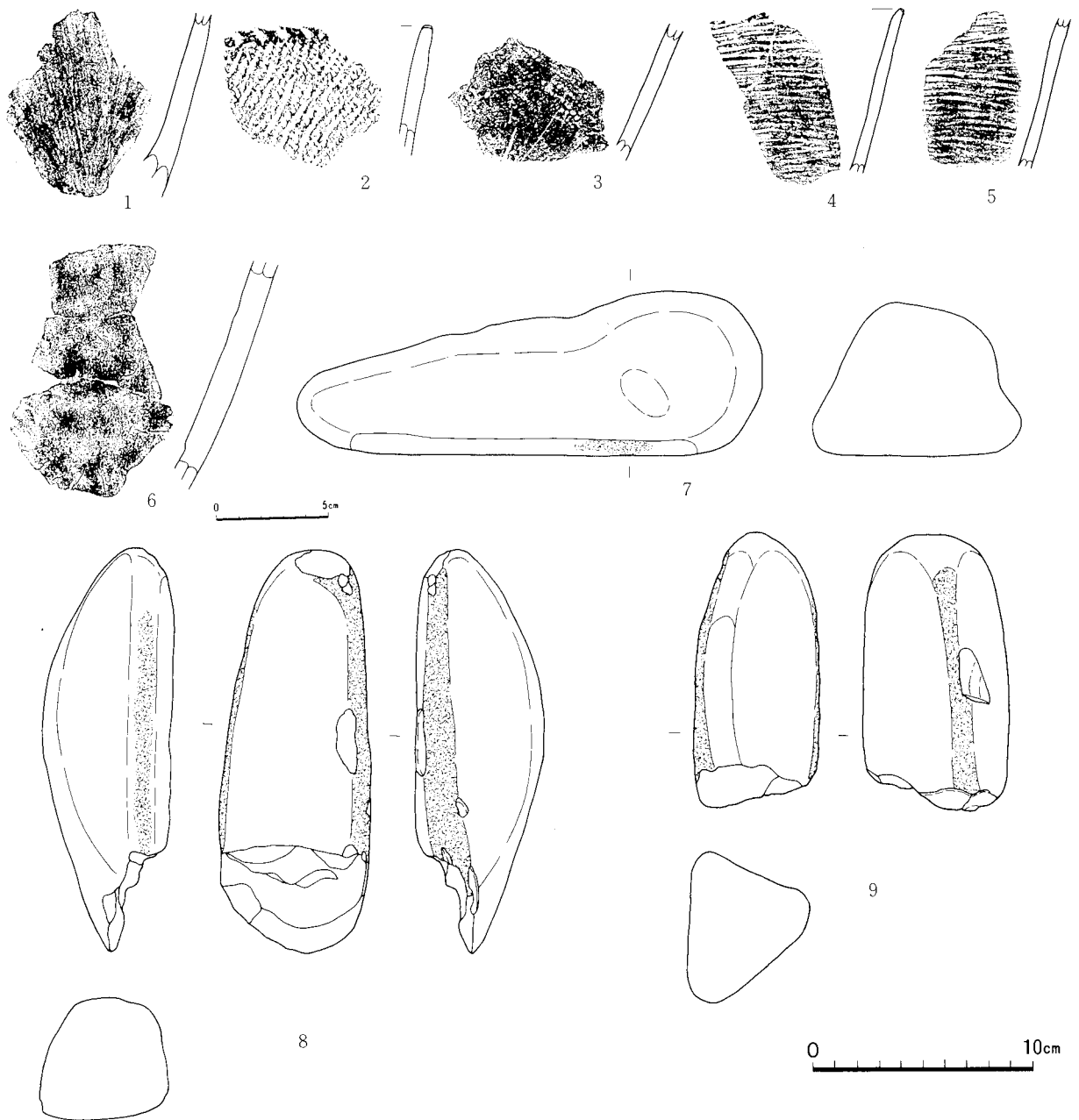


図4 第1号住居跡



図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
5-1		5	早期中葉	ミガキ	ナデ				
5-2	139	5	早期中葉	口唇部刻み 0多LR横位	ナデ				P-6
5-3		5	早期中葉	LR横位	ミガキ				P-3
5-4		3	早期中葉	口唇部刻み 条痕横位	条痕→ミガキ				P-13
5-5		3	早期中葉	条痕横位	条痕→ミガキ				
5-6	324	3	早期中葉	ミガキ	ナデ				1H・P-11・14と遺構外P-570接合

図版番号	整理番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	分類	備考
5-7	272	5(床直)	21	9.7	7.4	1691.9		8d	S-2
5-8	273	5(床直)	18	6.9	5.8	938.4		8d	S-3
5-9	275	5(床直)	12.3	6.6	5.6	616.6		8d	S-5

図5 第1号住居跡出土遺物(1) (1/3)

[規模] 長軸3.34m、短軸3.50m。深さ約55cmである。床面積は6.3㎡である。[堆積土] 7層に細分された。第1層には南部浮石が多く含まれ、下位層には含まれない。5～7層は壁との境界を明瞭に識別することが困難であった。[壁] 底面から丸みをもって、開き気味に立ち上がる。[床面] 中央部

付近はタタキ状に踏み締められており周囲に行くにしたがって柔らかくなる。VI層を床面とする。
 [柱穴] 壁際に28個のピットが検出された。壁柱穴と考えられる。[出土遺物] 堆積土から土器片、礫石器等が出土した。土器片はいずれも周辺から流れ込んだ状況を呈する。土器片は縄文時代早期中葉のものである。また覆土中から炭化クルミが出土した。床面直上からは炭化物が少量検出された。
 [時期] 確認面、堆積土、周辺の出土遺物、堆積土出土遺物より考えて早期中葉と考えられる。

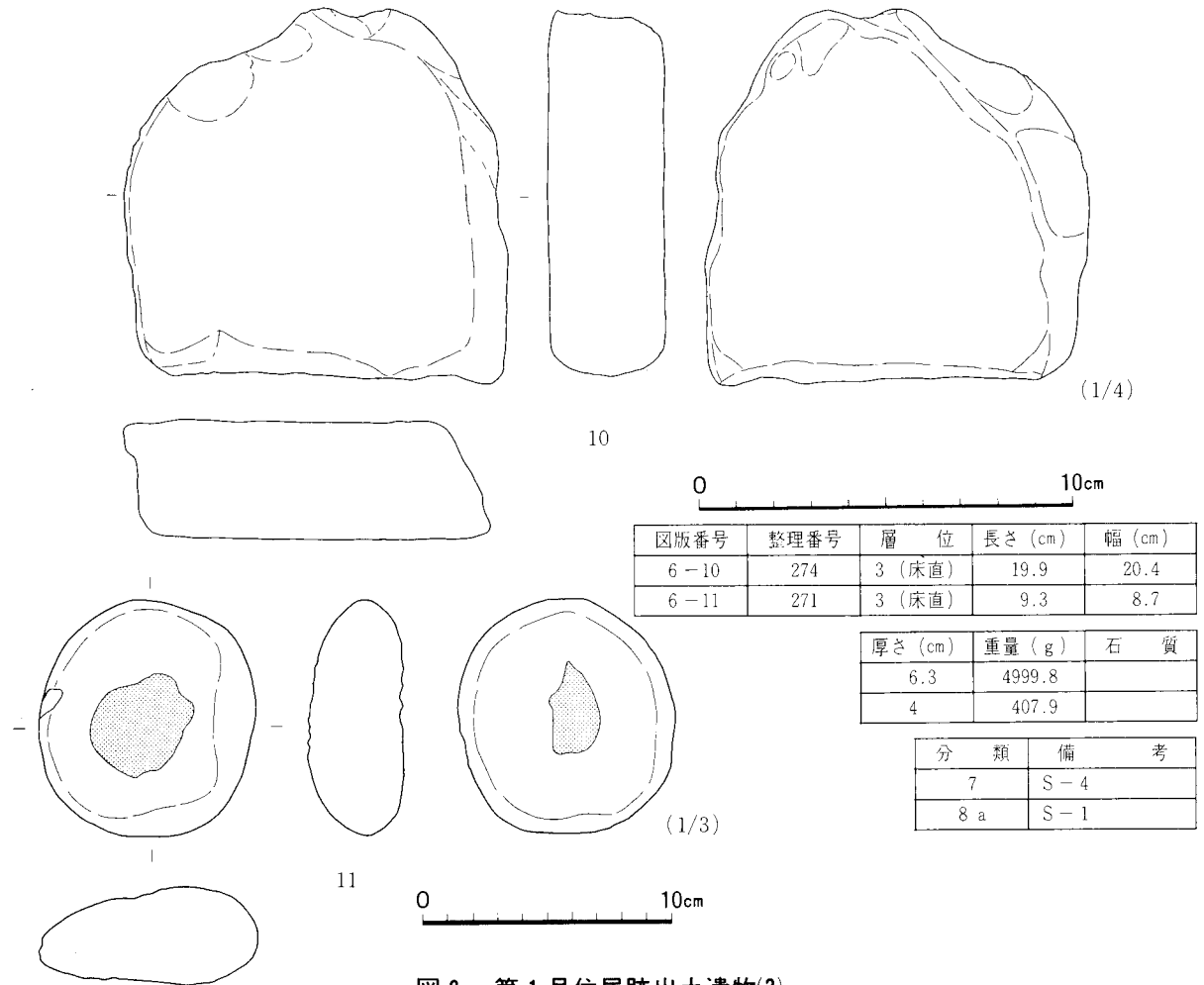


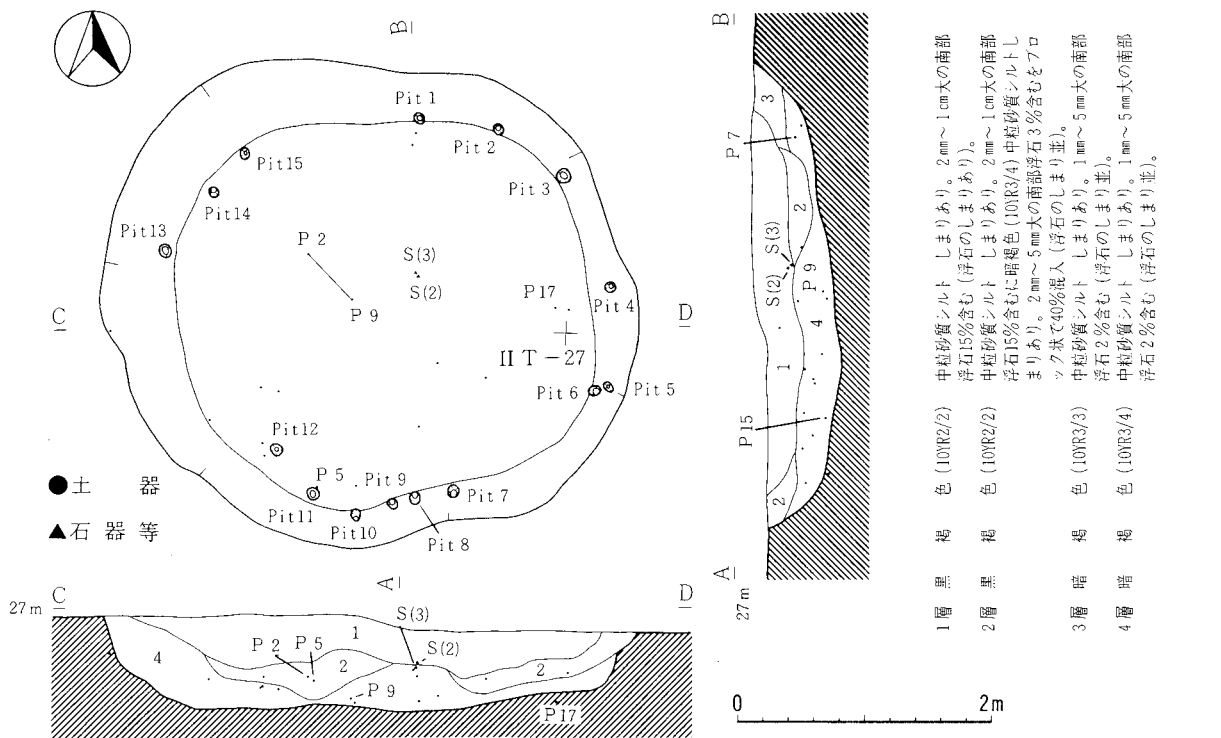
図6 第1号住居跡出土遺物(2)

第2号住居 (図7、図版1)

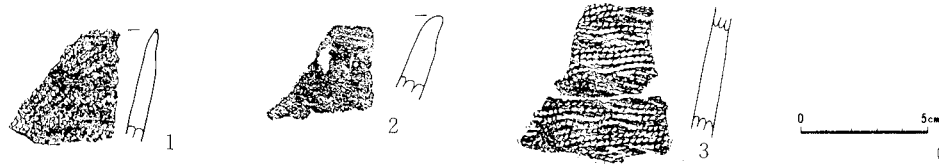
[位置] II T26~27・III A26~27に位置する。[確認] III層中で黒褐色土の落ち込みとして確認した。
 [平面形] 西側が若干膨らみ、円形に近い方形を呈する。[規模] 長軸3 m86cm、短軸3 m26cm、深さ69cmを計り、主軸方位はN-88° -E、床面積は約8.3m²である。[堆積土] 4層に分層した。[壁] 緩く外傾して立ち上がる。[床面] 中央付近から北東側壁にかけて約10°の傾斜で立ち上がる。全体的には若干の凹凸があるが、ほぼ平坦面を形成する。[柱穴] 側壁立ち上がり部分に、15個の柱穴を検出した。[出土遺物] 堆積土から縄文時代早期中葉の土器片と三角柱状磨石が出土した。周辺からの流れ込みと考えられる。なお、セクションの遺物は投影図である。[時期] 早期中葉と考えられる。

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
深さ	12	15	13	13	6	13	11	9	11	10	9	11	10	10	10

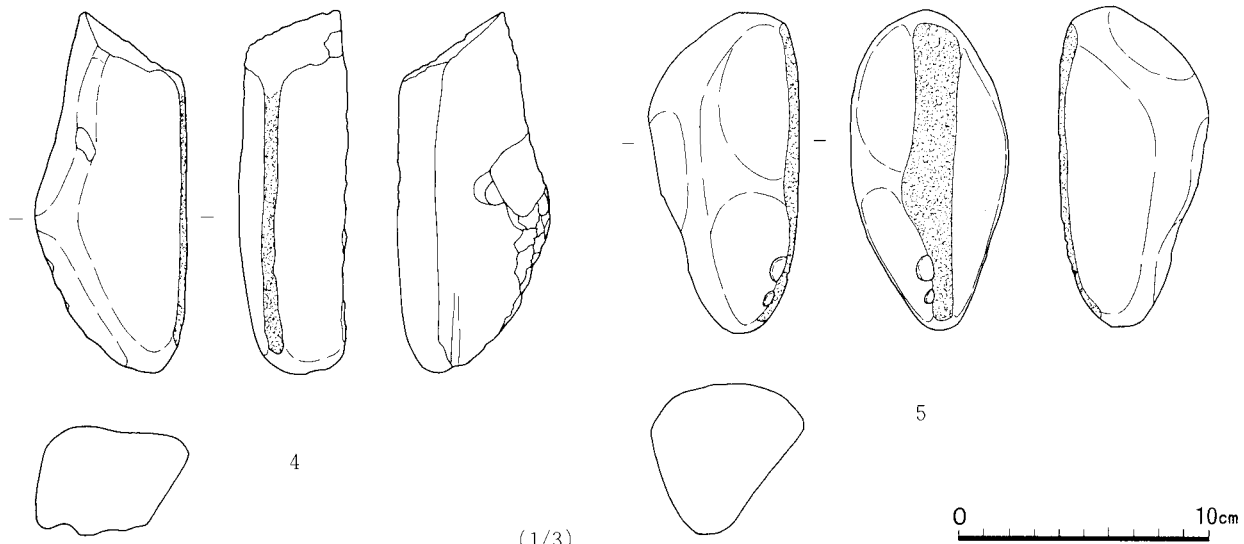
第2号住居跡ピット計測表



中粒砂質シルト しまりあり。2mm~1cm大の南部
浮石15%含む(浮石のしまりあり)。
中粒砂質シルト しまりあり。2mm~1cm大の南部
浮石15%含む(10NR3/4) 中粒砂質シルトし
まらあり。2mm~5mm大の南部浮石3%含むを7ロ
ック状で40%混入(浮石のしまり並)。
中粒砂質シルト しまりあり。1mm~5mm大の南部
浮石2%含む(浮石のしまり並)。
中粒砂質シルト しまりあり。1mm~5mm大の南部
浮石2%含む(浮石のしまり並)。



図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
7-i	351	4	早期中葉	口唇部刻み L.R横位	ミガキ				P-17 L.R横位
7-2	350	2	早期中葉	ナデ					P-5
7-3	352	1・4	早期中葉	単紋ノ類	ミガキ				P-2・9



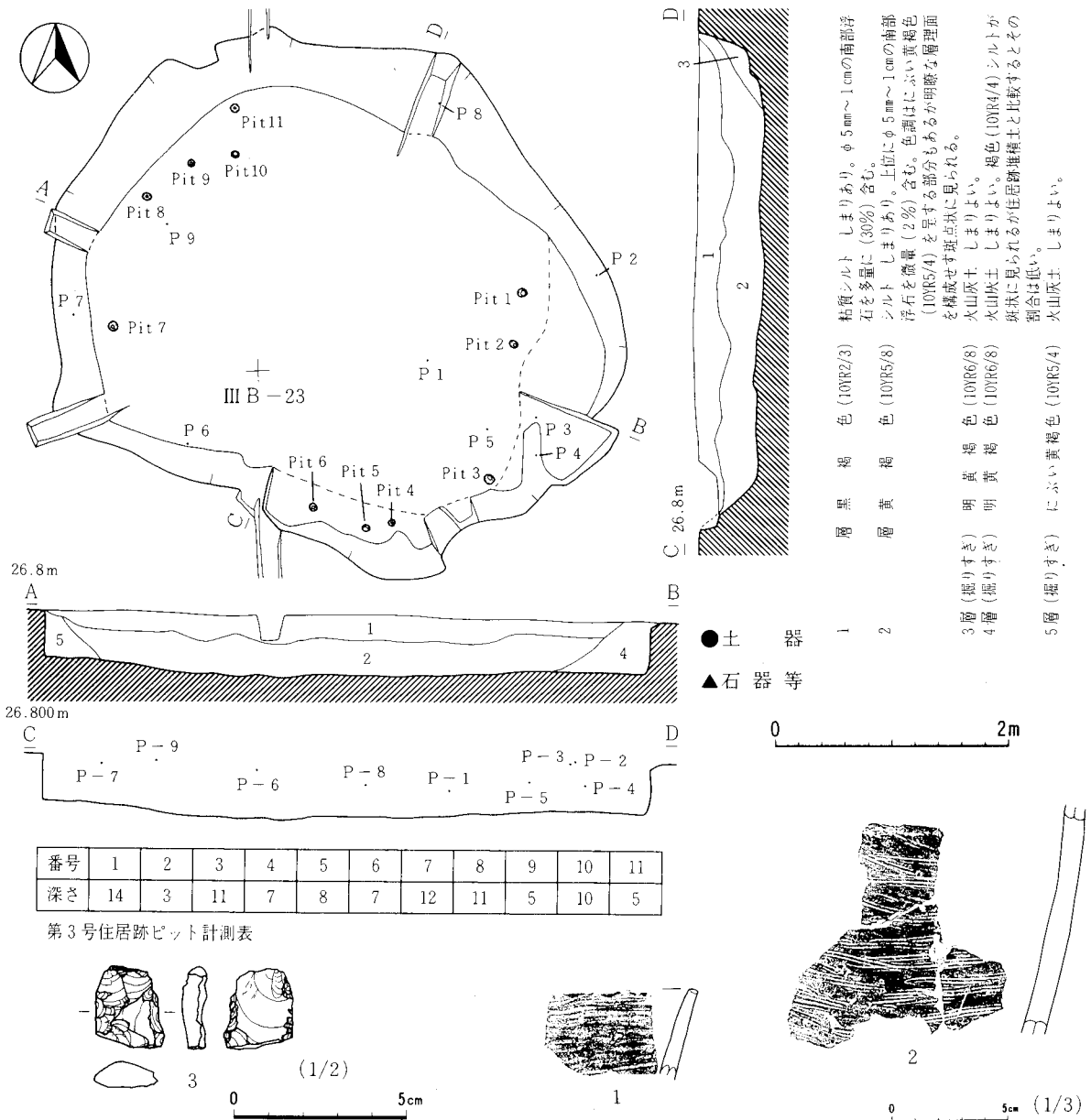
図版番号	整理番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	分類	備考
7-4	276	2	14.2	6	4.3	467.4		8 d	S-(2)
7-5	277	2	12.5	6	6.2	549.6		8 d	S-(3)

図7 第2号住居跡および出土遺物

第3号住居跡 (図8、図版2)

[位置] III A-23・24、III B-23・24に位置する。[確認] III層中で、周囲に比較して南部浮石の集中する暗褐色土の範囲を確認し、トレンチにより落ち込みであることを確認した。

[重複] 認められなかった。[平面形] 掘りすぎたため不整形な形状を呈しているが、本来は隅丸長方形か楕円形であったと考えられる。[規模] 長軸 (4.90) m、短軸 (4.54) m、深さ約60cmを計る。床面積は10.8㎡である。[堆積土] 2層に分層された。第1層は南部浮石を多く含む。第2層は壁・床と土色・質が近似し、境界を明瞭に識別することは困難であった。[壁] 北壁・西壁は底面から丸みを持って立ち上がる。[床面] 明瞭な床面は認められなかった。床面はVI層中であつたと考えられ



図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
8-1		1	早期中葉	口唇部貝殻線刻み 条痕横位	ナテ				
8-2	197	1	早期中葉	条痕横位	ナテ				1H・P-3と遺構外P-819・1009接合

図版番号	整理番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	分類	備考
8-3	313	1	2.3	2	0.7	4	珪頁	3	

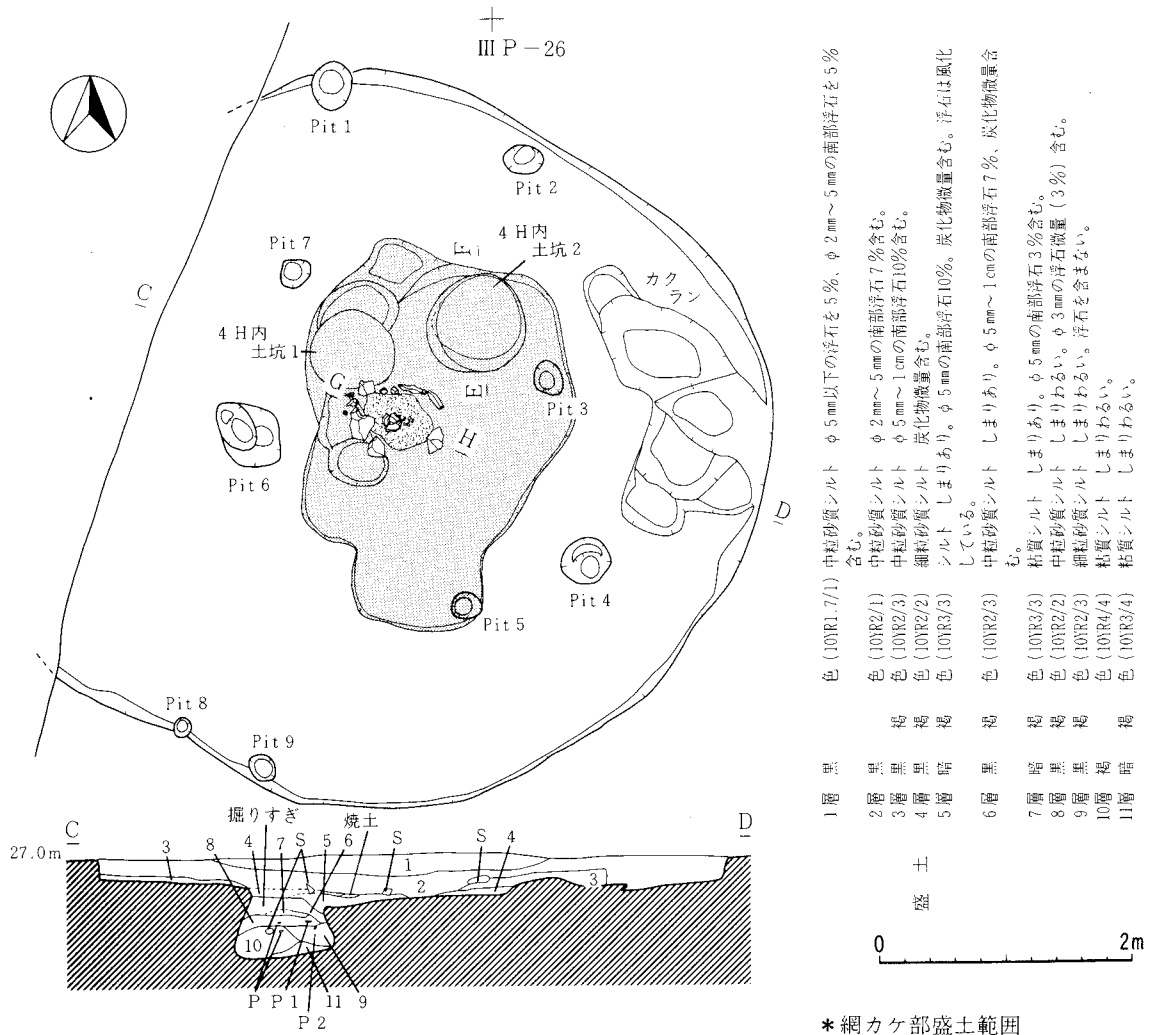
図8 第3号住居跡および出土遺物

る。[柱穴] 壁際から11個のピットを検出した。壁柱穴の可能性が高い。[出土遺物] 堆積土から土器片、礫石器が出土した。土器片はいずれも早期中葉の土器で、流れ込んだ状況を呈している。

[時期] 検出面、堆積土、周辺から出土した遺物等から考えて、早期中葉と考えられる。

第4号住居跡 (図9～図12、図版2～4)

[位置] III O-27・28、III P-27・28に位置する。[確認] II層下位～III層で黒色土の円形の落ち込みを確認した。[平面形] 一部が調査区外に位置するが、円形を呈すると考えられる。[規模] 径約5.50m、深さ約20cmを計る。[堆積土] 3層に細分された。[炭化材] 床面から浮いた状態で炭化材が出土した。柱材と考えられる。住居中央方向に向かって倒れていた。[壁] 床面からまっすぐ立ち上がる。[床面] 第III層を床面とし、軟弱である。中央には3.2m×2.2m、深さ10cm弱の落ち込みが認められ、土が埋められていた。[柱穴] 床面から9基のピットが検出された。規模・配置から考えて、ピット3～7が支柱穴と考えられる。[炉跡] 床面中央から石囲炉が検出された。前述の埋土の上面に黒色土を盛り構築されたものである。炉中央には土器底部が埋設されていた。



番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
深さ	65	33	56	42	68	53	66	23	8

ピット計測表

図9 第4号住居跡(1)

[その他の施設] 前述の床面中央の落ち込み内から、住居より古いと考えられる土坑が2基検出された。土坑1は断面形がフラスコ状を呈し、堆積土中から複数個体の土器が破片の状態で出土した。土坑を埋め戻す際廃棄したものと考えられる。土坑2からは遺物は出土しなかった。土坑1の堆積土5層が住居掘り方にのびていることから、これらの土坑は住居構築の際に埋められた可能性が高い。

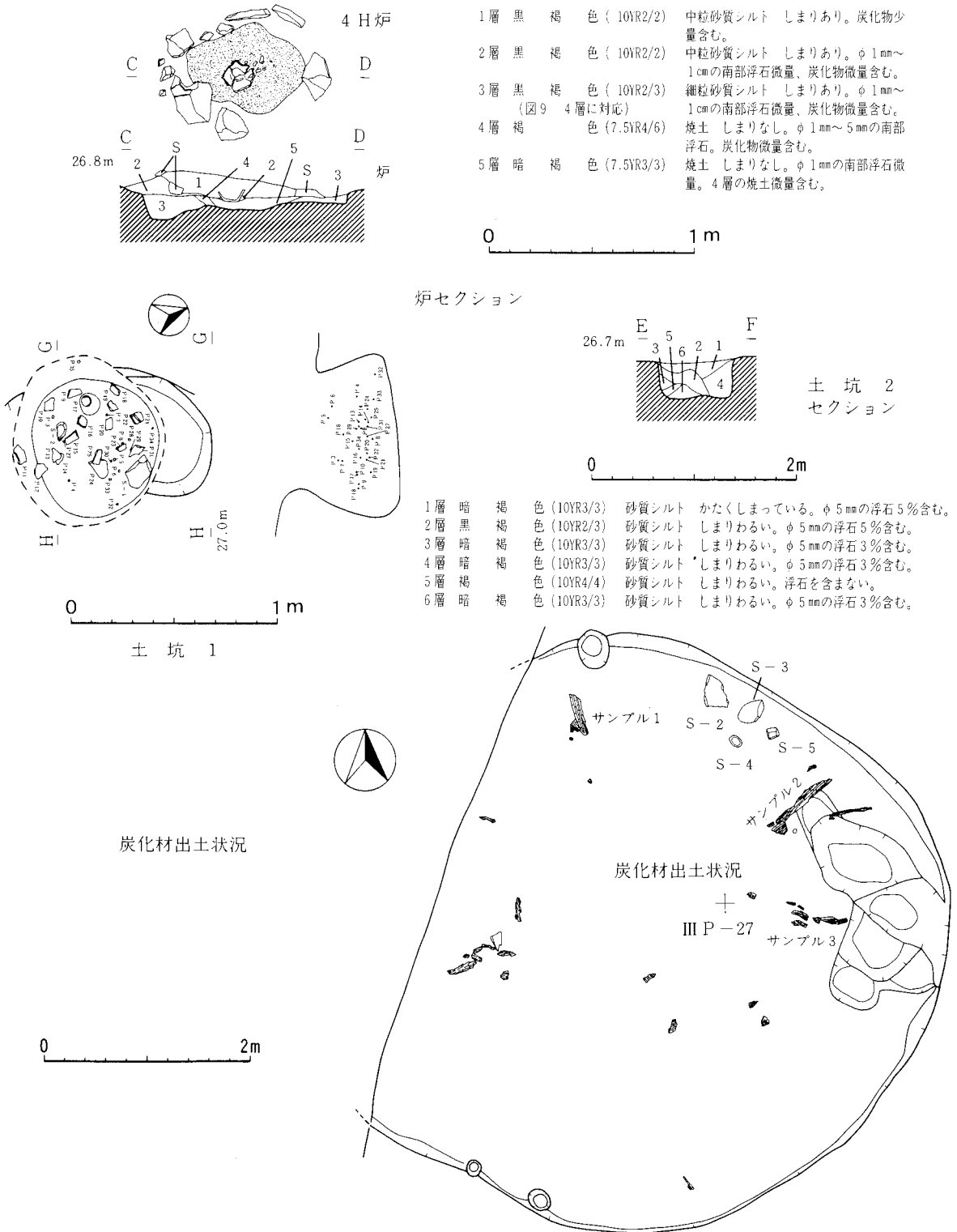


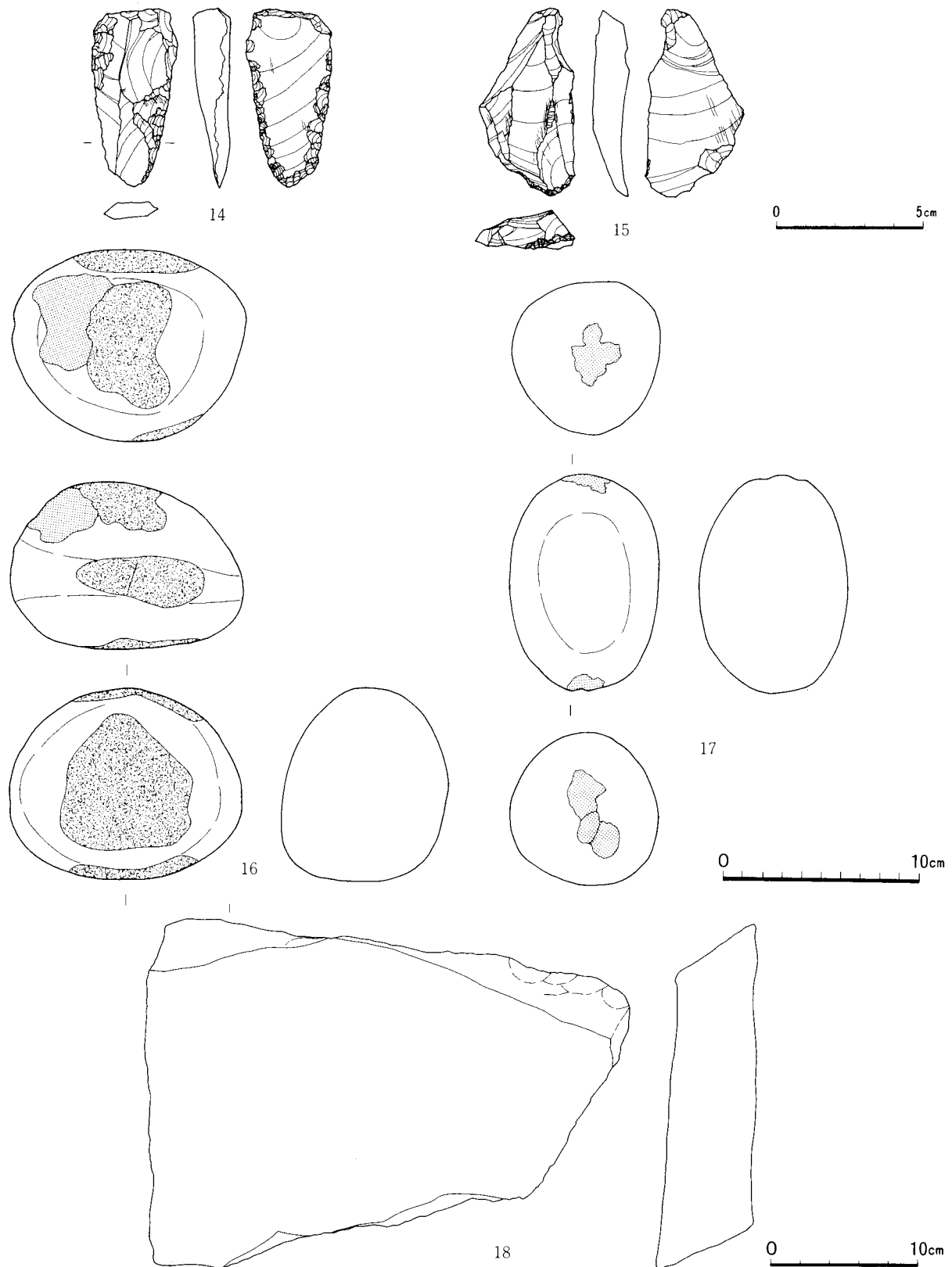
図10 第4号住居跡(2)

[出土遺物] 1は炉中央におかれていた土器である。底部中央が穿孔されている。2は土坑1から出土したもので、外面にLR・RLの原体を用いた羽状縄文を施す。3も土坑1から出土した。外面にLR縄文を横位回転し、口縁部に1条の沈線を施し、無文とする。9は細沈線で入組文と思われる曲線文を施す。後期末～晩期初頭の土器と考えられる。[時期] 出土遺物から、後期末～晩期初頭と考えられる。



図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
11-1	222	炉	後末～晩初	ナデ	ナデ		8.2		底部穿孔
11-2	226	土坑1 13層	後末～晩初	0多LR・RLによる羽状縄文	ナデ	25.2			
11-3	196	土坑1 13層	後末～晩初	沈線・LR横位	ミガキ				P-13・17・23
11-4	223	土坑1 13層	後末～晩初	LR横位	ナデ		4.3		P-15・24
11-5		土坑1 13層	後末～晩初	0多LR・RLによる羽状縄文	ナデ				P-31
11-6		土坑1 13層	後末～晩初	0多LR横位	ナデ				P-13
11-7		土坑1 13層	後末～晩初	0多LR横位	ナデ				P-2・11・14
11-8		土坑1 13層	後末～晩初	0多LR横位	ナデ				II O-27 II a層と接合
11-9		土坑1 覆土	後末～晩初	LR横位→沈線					
11-10		床直	後末～晩初	沈線			5		遺構外遺物と接合
11-11		Pit 4 覆土	後末～晩初	ミガキ	ミガキ				
11-12	203	1・2	後末～晩初	0多LR横位 口縁部指押さえ	ミガキ				
11-13	221	2	後末～晩初	ナデ	ミガキ		5.8		

図11 第4号住居跡出土遺物(1)

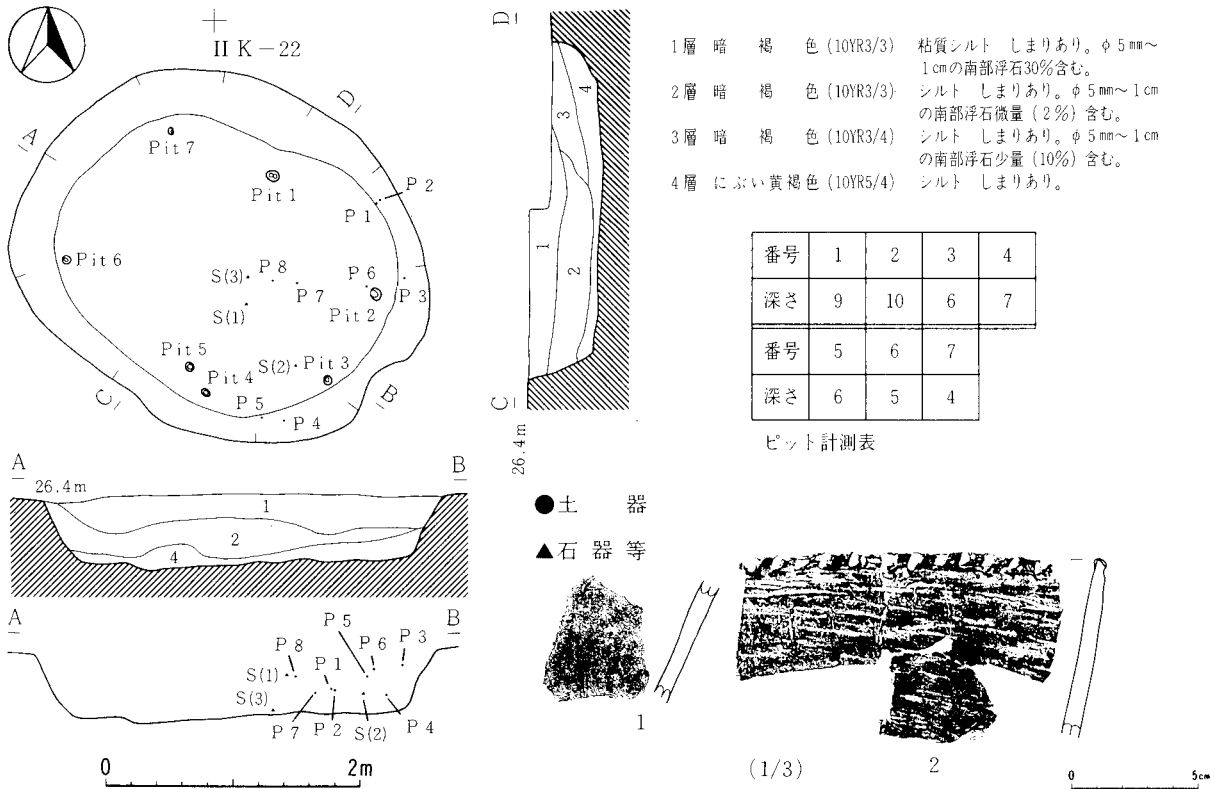


図版番号	整理番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	分類	備考
12-14	247	2	6.1	2.9	1.3	19.9	珪頁	不定形	
12-15	246	2	6.4	3.3	1.3	21.2	珪頁	不定形	
12-16	280	(床直)	11.9	9.6	8.4	1342.5		磨石	S-4
12-17	283	2	10.9	7.6	7.6	835.1		敲石	
12-18	281	2	32.4	23.5	6.7	8000		石皿	

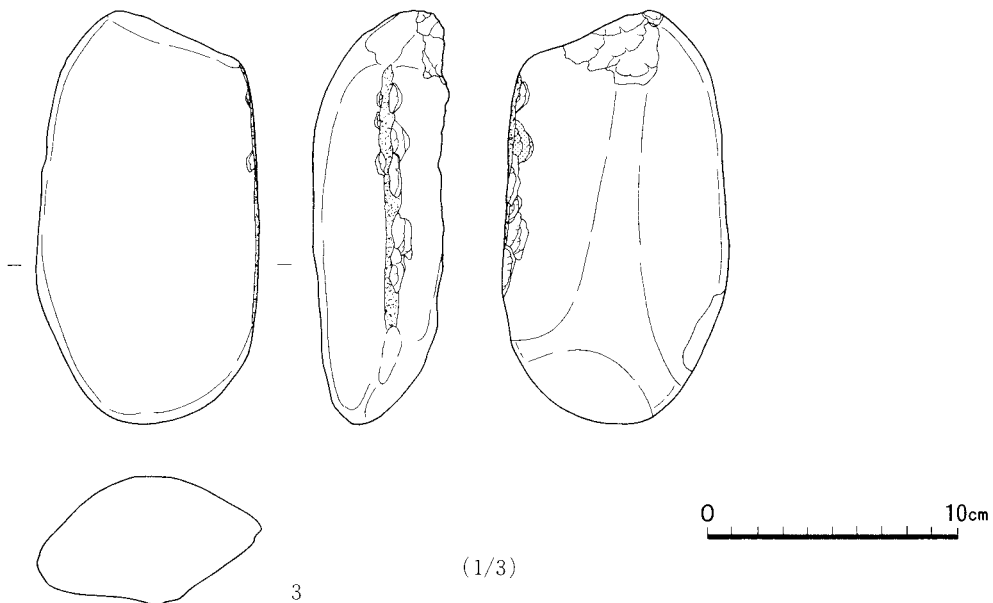
図12 第4号住居跡出土遺物(2) 14・15 (1/2)、16・17 (1/3) 18 (1/4)

第5号住居跡 (図13・図14、図版4)

[位置] II J-22、II K-22に位置する。[確認] III層中で、南部浮石の集中する暗褐色土の落ち込みを確認した。[重複] 認められなかった。[平面形] 楕円形を呈する。



図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
13-1	169	4	早期中葉	ミガキ	ナデ				P-1
13-2		1	早期中葉	口唇部刻み 条痕横位→ミガキ	ナデ				P-5 遺構外P-2131 2133 II-24II層



図版番号	整理番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	分類	備考
13-1	285	2	16.3	8.9	5.5	1007.9		8d	S-(2)

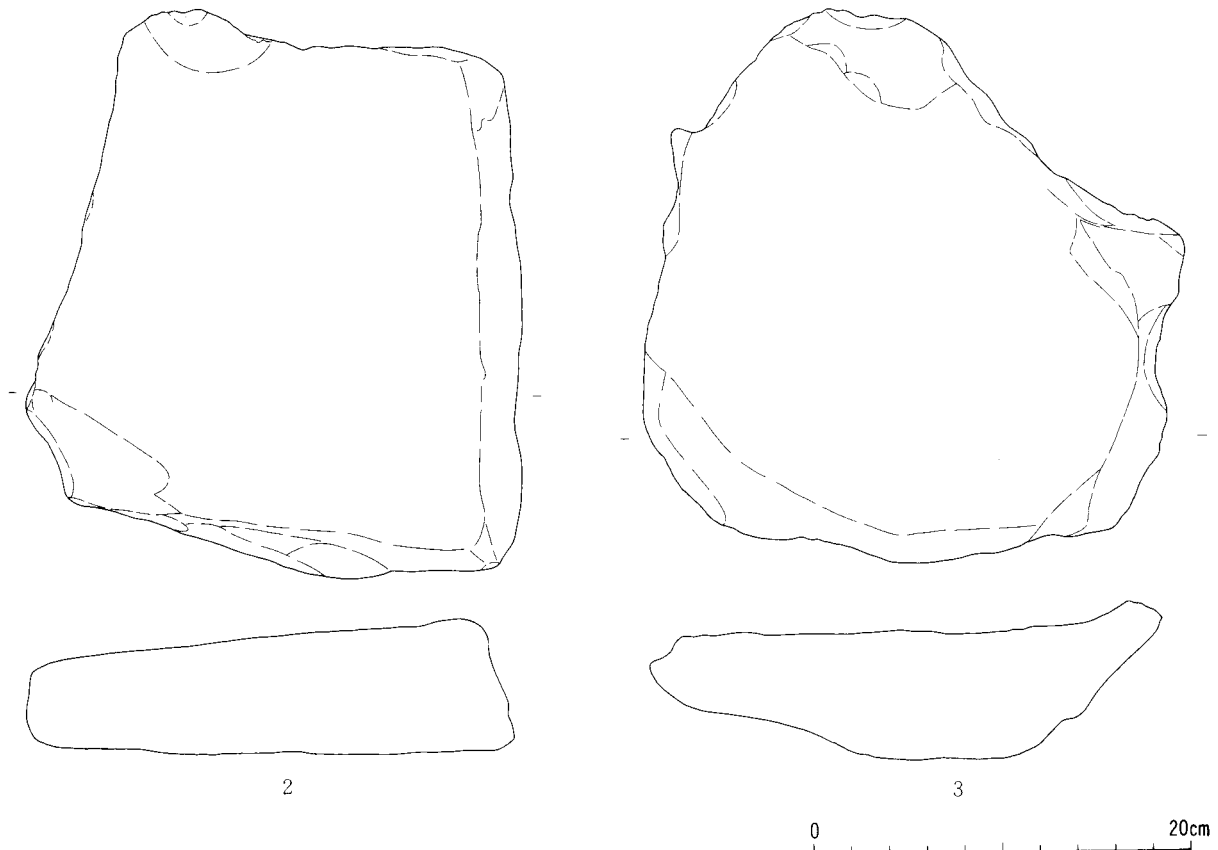
図13 第5号住居跡および出土遺物(1)

[規模] 長軸3.30m、短軸2.07m、深さ50cmを計る。床面積は4.7㎡である。

[堆積土] 4層に分層された。第1層は南部浮石を多く含む暗褐色土である。自然堆積と考えられる。

[壁] 底面から丸みを持って、外開き気味に立ち上がる。[床面] 明瞭な床面は確認できなかったが、第VI層を床面とすると考えられる。

[柱穴] 8個のピットを検出した。壁柱穴である可能性が高い。[出土遺物] 堆積土から土器片・礫石器が出土した。土器片はいずれも早期中葉の土器で、流れ込んだ状況を呈する。[時期] 確認面・堆積土・周辺から出土した土器により早期中葉と考えられる。



図版番号	整理番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	分類	備考
14-2	286	4	29.7	26.3	7.1	9000		7	S-(3)
14-3	284	2	28.8	28.9	8.2	7800		7	S-(1)

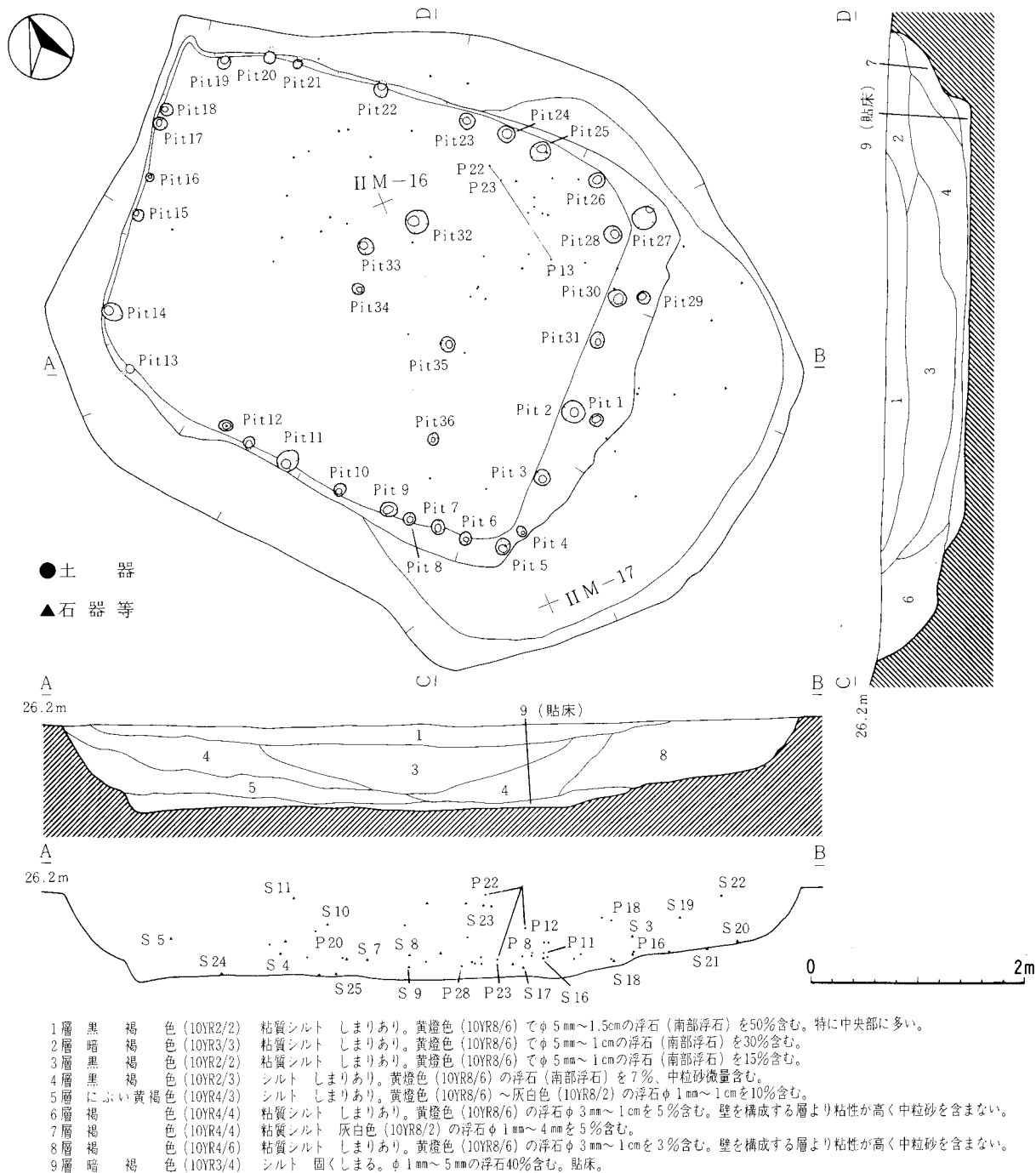
図14 第5号住居跡出土遺物(2) (1/4)

第6号住居跡 (図15～図19、図版4～6)

[位置] II L-16・17、II M-16・17に位置する。[確認] III層中で、南部浮石の集中する暗褐色土の落ち込みを確認した。[重複] 認められなかった。

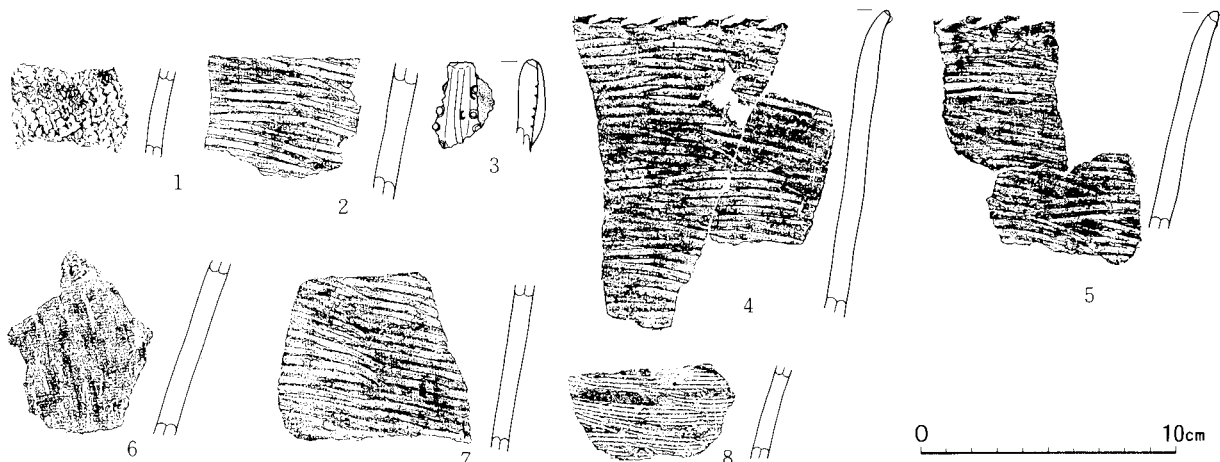
[平面形] 長方形の一短辺が半円形に張り出す形態である。[規模] 長軸6.64m、短軸5.3m、深さ約80cmを計る。床面積は23.3㎡である。[堆積土] 8層に細分された。第1層には南部浮石が多量に含まれていた。自然堆積と考えられる。[壁] 北壁・西壁は底面からやや丸みを持って立ち上がる。南壁・東壁は底面からやや外開き気味に立ち上がる。[床面] 半円形の張り出し部分は第V層を床面とし、テラス状に一段高まっていた。長方形部分は一段深く掘り込まれ、第VII a層の浮石層を掘り方底面とし、この上に黒色土の貼床が施されていた。貼床は中央部ほど薄く、周縁部ほど厚い。なお、貼

床はサンプルを採取して水洗選別を実施した（付編参照）。〔柱穴〕36個のピットが検出された。貼床が黒色土であったため、全て貼り床を除去した時点で確認した。ピット2・31~35以外は住居中央方向に向かって傾いている。ピット2・31は鉛直方向に掘り込まれており、支柱穴の可能性も考えられる。しかし、長軸上にこれに対応する柱穴は検出できなかった。掘方外にも柱穴は確認できなかった。〔出土遺物〕早期中葉の土器片・礫石器が出土した。土器片はいずれも堆積土から出土し、住居廃絶後流れ込んだものと考えられる。〔時期〕確認面・堆積土・出土遺物等から、早期中葉と考えられる。

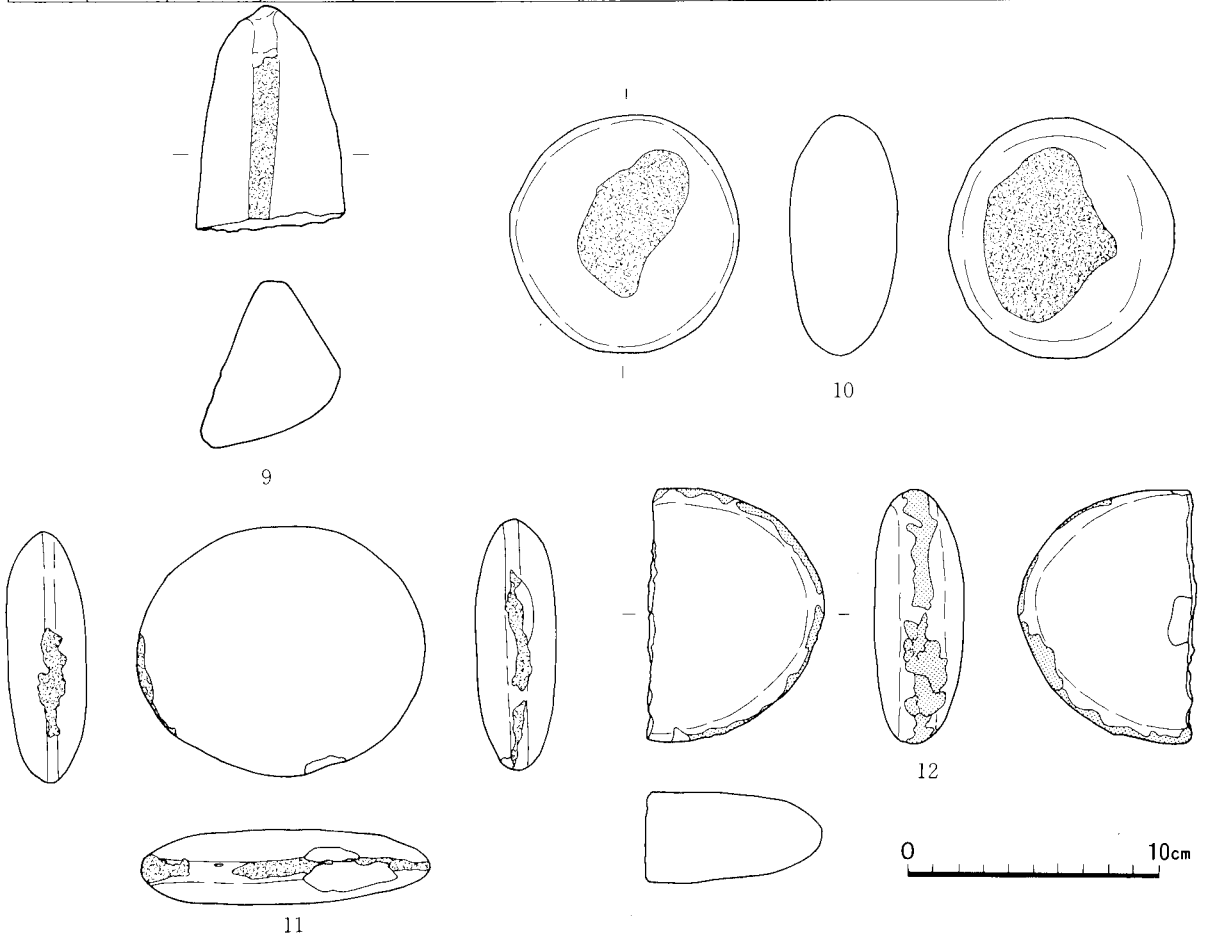


番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
深さ	8	21	10	17	28	24	16	16	11	12	24	14	7	25	13	11	12	13	20	17	8	27	20	27	10	17	7	16	11	16	23	18	10	8	10	6

図15 第6号住居跡

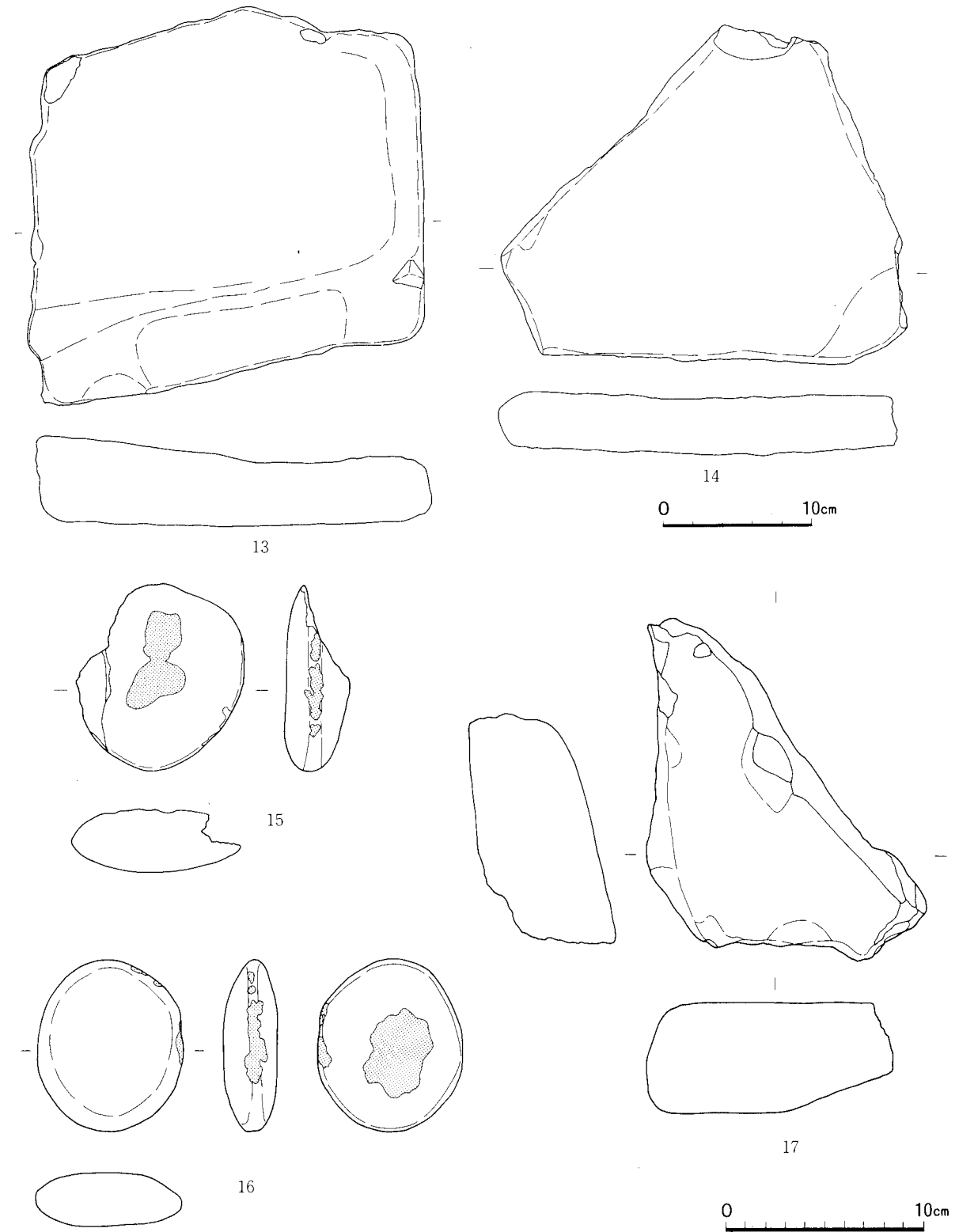


図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
16-1		7	早期中葉	R L R横位	ナデ				P-20 繊維微量
16-2		5	早期中葉	条痕横位	ミガキ				P-28
16-3		4	早期中葉	隆帯・竹管状工具の刺突	ナデ				P-18
16-4		3・4	早期中葉	口唇部刻み 条痕横位	ミガキ				P-12・22・23
16-5		4	早期中葉	口唇部刻み 条痕横位	ミガキ				P-7・21
16-6		4	早期中葉	ミガキ	ミガキ				P-16
16-7		4	早期中葉	条痕横位	ナデ				P-8
16-8		4	早期中葉	条痕横位	ナデ				P-11



図版番号	整理番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	分類	備考
16-9	303	貼床下	8.4	7.5	5.1	375.6		8 d	S-24
16-10	288	5	9.4	9	4.3	505.2		8 c	S-4
16-11	299	8	11.4	9.9	3.1	484		8 b	S-20
16-12	300	8	10	6.9	3.6	354.1		8 b	S-21

図16 第6号住居跡出土遺物(1) (1/3)



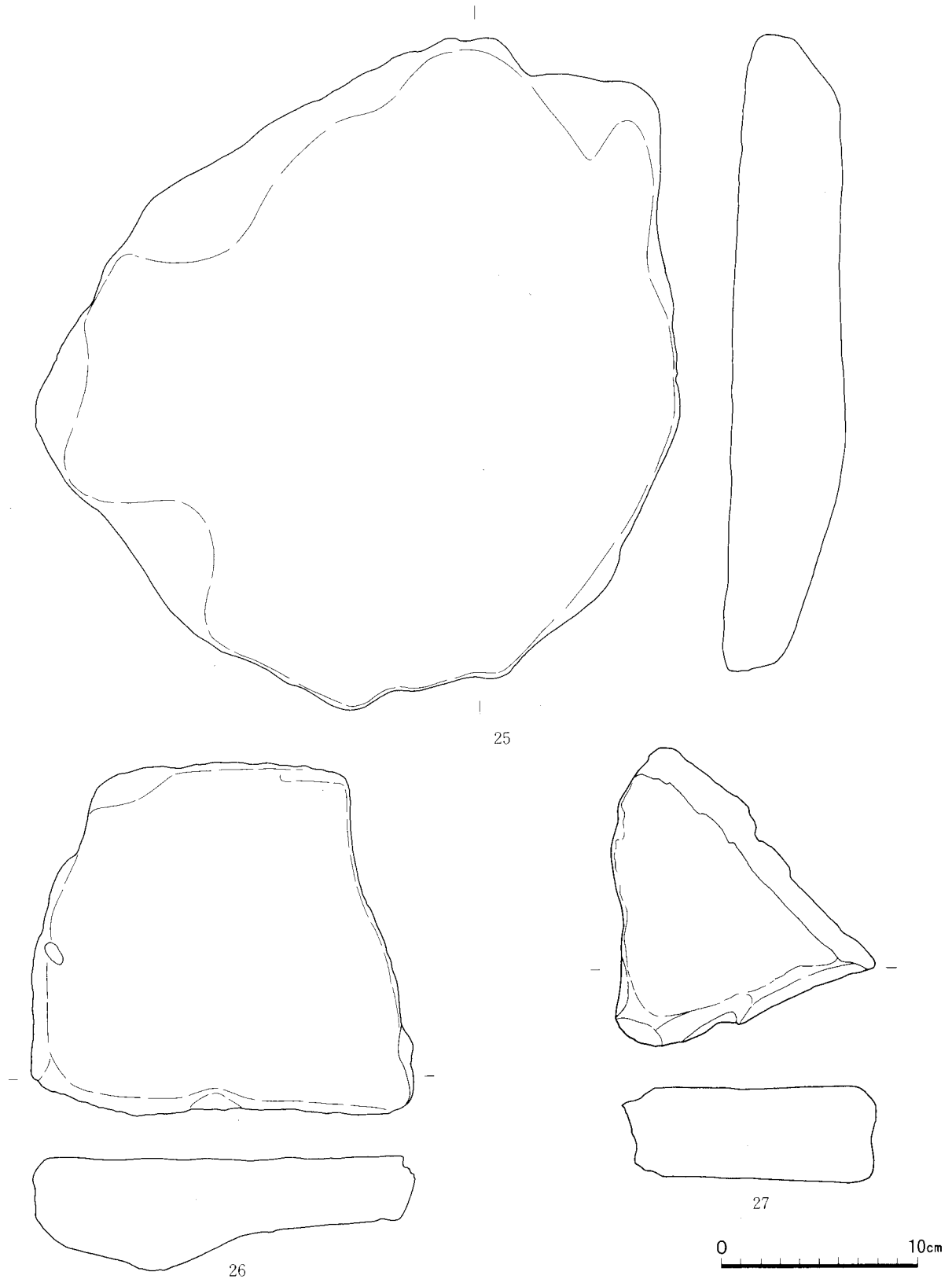
図版番号	整理番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	分類	備考
17-13	287	.8	26.2	26.6	6.4	6000		7	S-3
17-14	301	8	22.4	27.4	4	4083		7	S-22
17-15	291	7	9.4	8.5	3.2	259.2		8 a	S-8
17-16	298	4	8.5	7.3	2.7	248.4		8 b	S-19
17-17	302	4	17	14.1	7.3	1807.7		7	S-23

図17 第6号住居跡出土遺物(2) 13・14 (1/4) 15~17 (1/3)



図版番号	整理番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	分類	備考
18-18	290	4	7.3	6	7	236.7		8 d	S-7
18-19	295	4	7.7	7	5.6	339.1		8 d	S-16
18-20	297	4	9.8	4.9	2.3	154		8 e	S-18
18-21	305	覆土	9.3	8.4	2.5	223.2		8 b	
18-22	294	2	15.8	12.8	3.8	1060.4		8 b	S-11
18-23	293	2	11.9	6.8	2.9	274		8 e	S-10
18-24	296	4	9.5	9.6	4.4	561.7		7	S-17

図18 第6号住居跡出土遺物(3) (1/3)



図版番号	整理番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	分類	備考
19-25	289	5	32.5	34	6.4	10800		7	S-5
19-26	304	4	17.5	18.5	5.8	3167.6		7	S-25
19-27	292	4 (床直)	14.9	13.3	4.9	1387.4		7	S-9

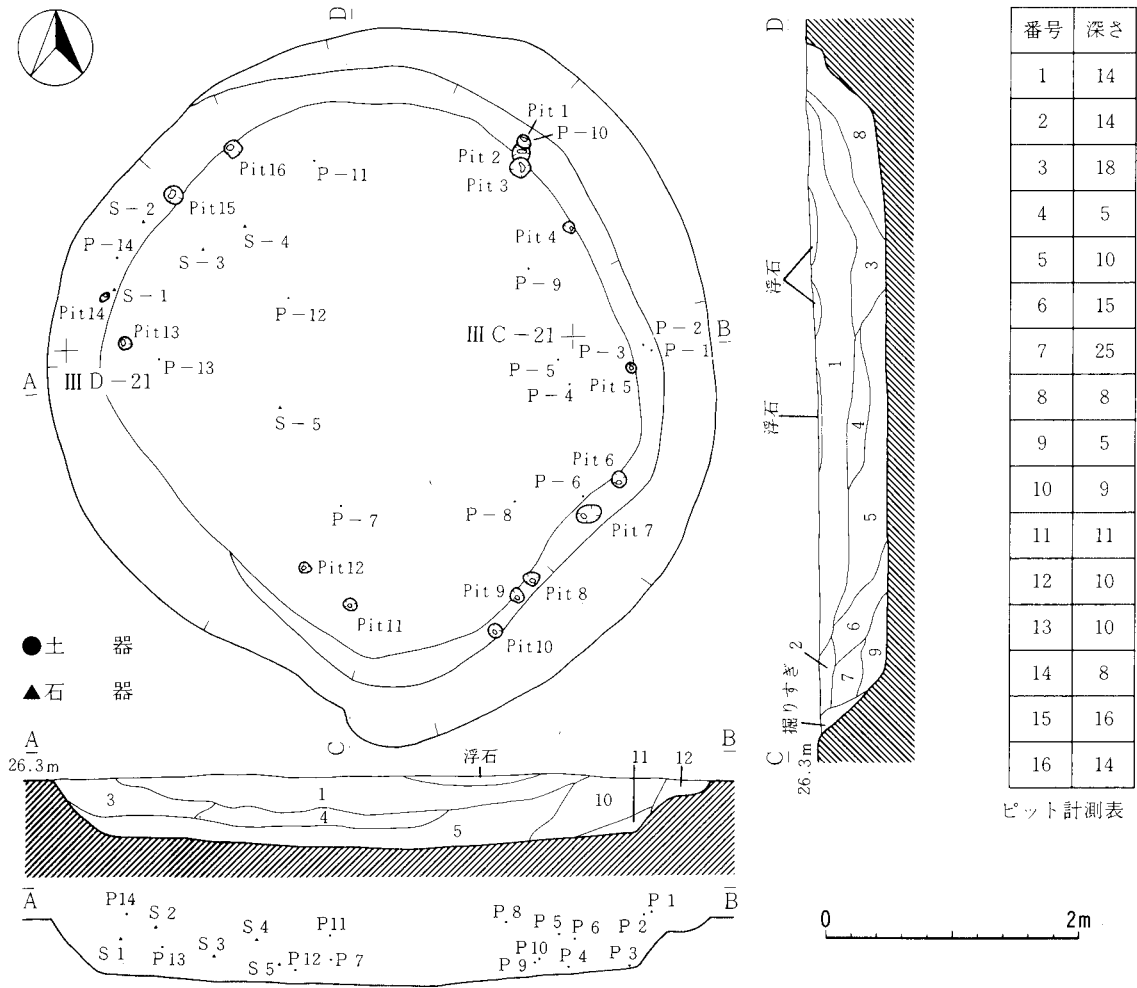
図19 第6号住居跡出土遺物(4) (1/3)

第7号住居跡 (図20・図21、図版6)

[位置] III C-31・32に位置する。[確認] 周辺は宅地造成により削平され、I～III層が欠如していたため、IV層で暗褐色土の落ち込みを確認した。[平面形] 隅丸方形を呈する。[規模] 1辺5.20m、深さ約60cmを計る。床面積は13.1㎡である。

[堆積土] 12層に細分された。第1層中には、南部浮石が成層に近い状態で集中していた。自然堆積の様相を呈する。[壁] 底面から丸味をもって緩やかに立ち上がる。

[床面] 第V層を床面とし、比較的固い。[柱穴] 壁際に16個のピットが検出された。壁柱穴と考えられる。



- 1層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm～1cmの南部浮石を多量に含む。
- 2層 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm～1cm大の南部浮石少量。黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルトを10%含む。
- 3層 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 1mm～5mmの南部浮石多量、φ 5mm～1cmの南部浮石少量、浮石のしまりは固い。黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト5%、暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルト15%含む。
- 4層 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 5mm～1cmの南部浮石多量。黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルトを20%、黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトを5%含む。
- 5層 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルト しまりあり。2mm～5mm大の南部浮石を多量、φ 2mm～5mmの炭化物を微量。浮石のしまりは固い。褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルト5%、暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト30%含む。
- 6層 褐色 (10YR4/6) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm～5mmの南部浮石多量。φ 5mm～1cmの南部浮石少量。暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト20%含む。
- 7層 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルト しまりあり。2mm～5mm大の南部浮石少量。黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト7%含む。
- 8層 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm～1cm大の南部浮石多量。褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルト10%含む。
- 9層 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm～5mmの南部浮石少量、φ 5mm～1cmの南部浮石微量。褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルト10%含む。
- 10層 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm～1cmの南部浮石を多量に含む。
- 11層 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm～1cm大の南部浮石少量。暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト40%含む。
- 12層 褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm～1cmの南部浮石少量含む。

図20 第7号住居跡

[出土遺物] 堆積土中から土器片と自然礫が出土した。土器片はいずれも早期中葉のもので、流れ込んだ様相を呈している。[時期] 堆積土・出土遺物から早期中葉と考えられる。

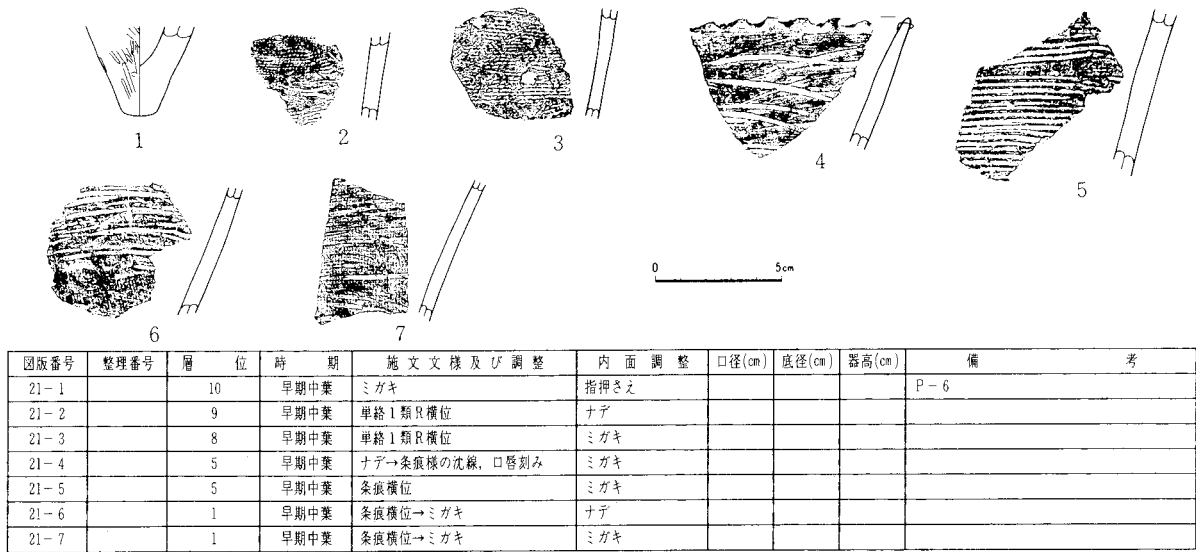


図21 第7号住居跡出土遺物

第8号住居跡 (図22～図24、図版6～8)

[位置] III N32～33に位置する。[確認] 黒色土中から掘り込まれているため、III層で床面のみを確認した。[平面形] 北側の床面のみを検出したため、全貌は不明である。[規模] 残存部分での最深は19cmを計る。[堆積土] 中心部付近に残存した堆積土を10層に細分した。[壁] 北壁残存部分は、ほぼ垂直に立ち上がる。[床面] III層上面を掘り込み床面とする。ほぼ平坦面を形成するが、中心部付近では南側になだらかに傾斜する。[柱穴] 側壁立ち上がり部分に、4個のピットを検出した。[炉跡] 床面中央付近に地床炉を検出した。平面形は不定形を呈する。若干の掘り込みは確認できるが、明確なものではない。[出土遺物] 床面・堆積土から縄文時代後期前葉と中葉の土器片、石鏃と不定形石器が1点出土した。なお、セクションの遺物は投影図である。1は注口形土器の下半部で丸みを帯びた体部と考えられる。沈線による曲線的な文様を施す。丁寧なミガキにより調整され、浮彫的な文様が展開する。内部にはナデ調整が施される。3は並行沈線を施した深鉢形土器である。横位沈線が6条施され、沈線間にはLR単節縄文を施す。6単位と思われる連続弧状文が縦位に垂下する。無文帯はミガキ

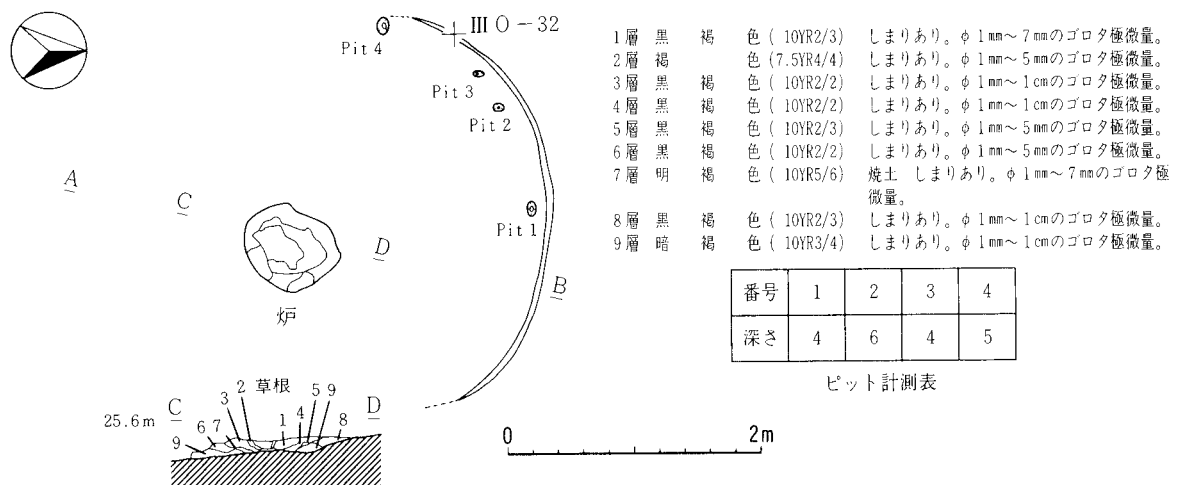


図22 第8号住居跡

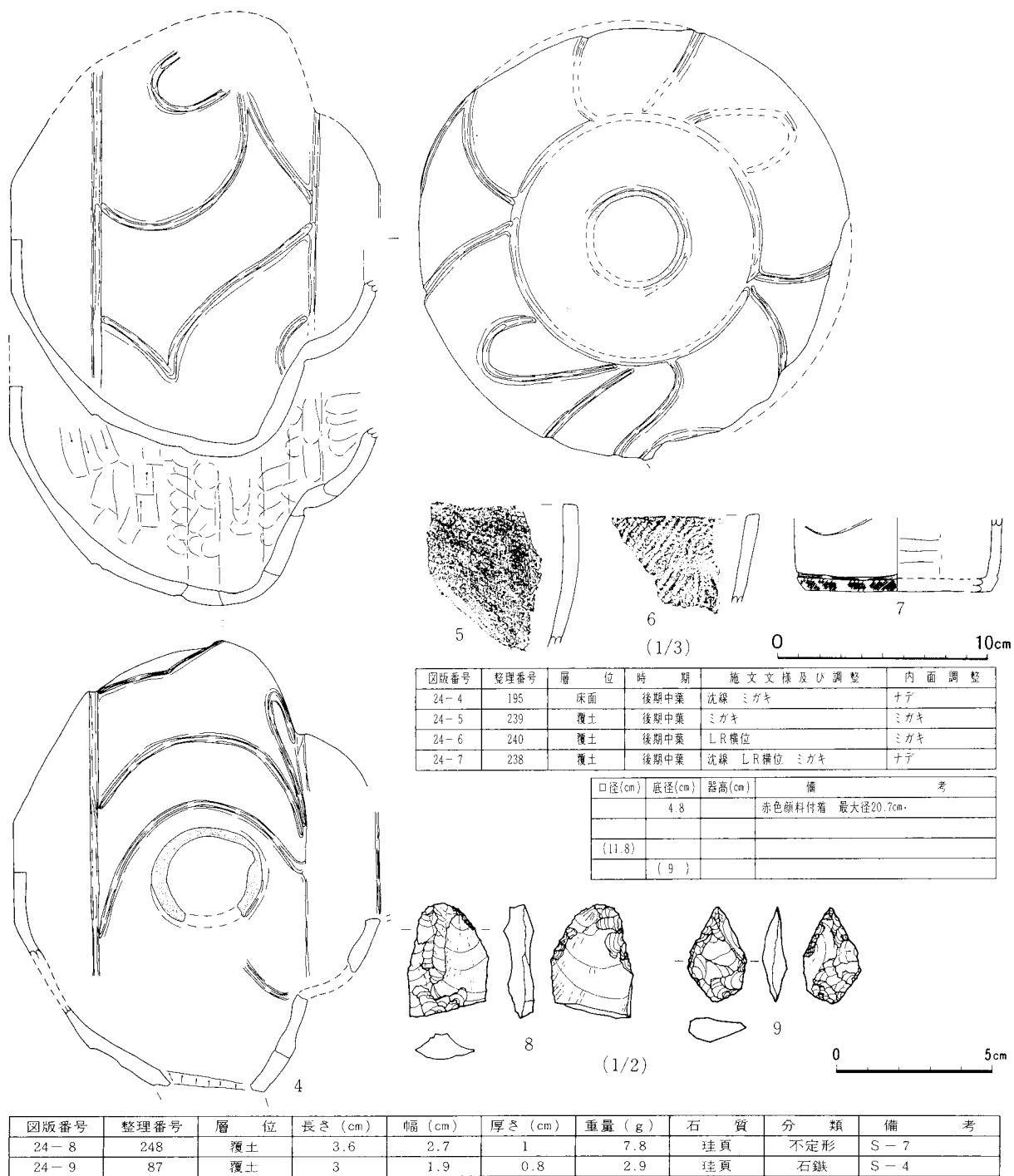
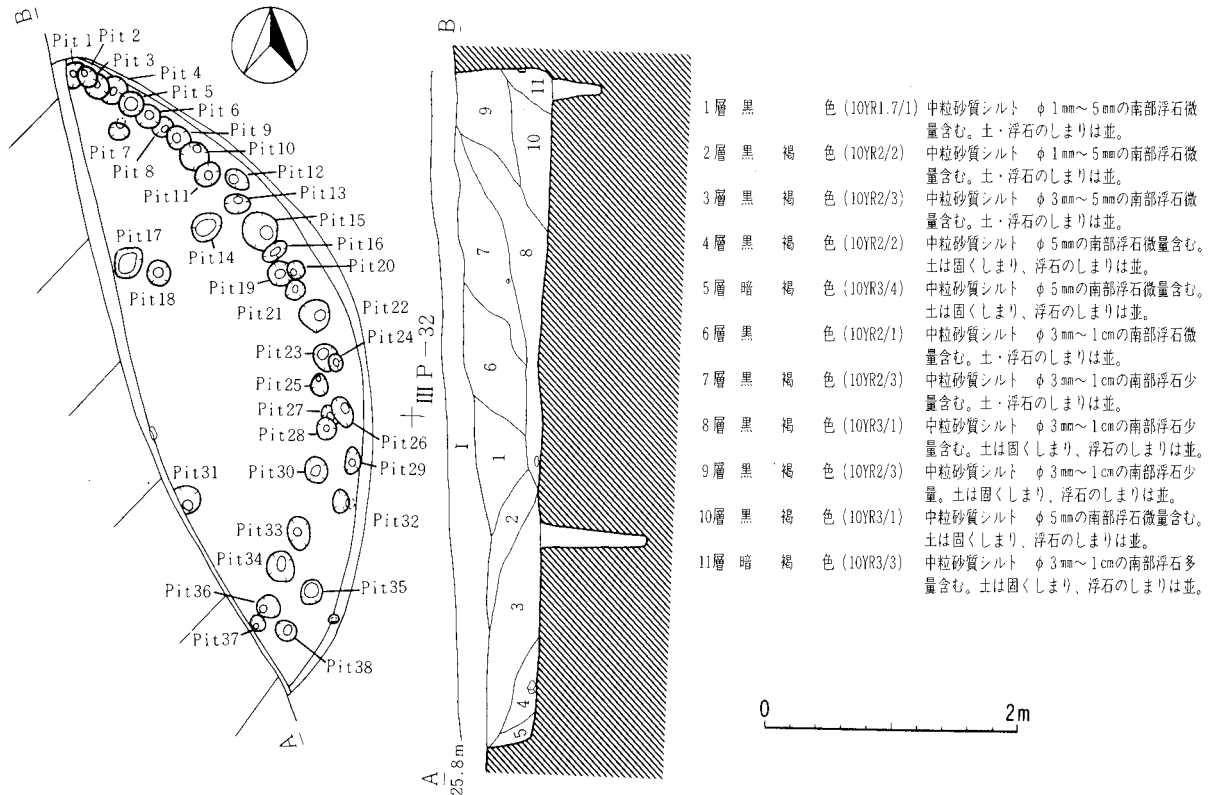


図24 第8号住居跡出土遺物(2)

第9号住居跡 (図25・26、図版7)

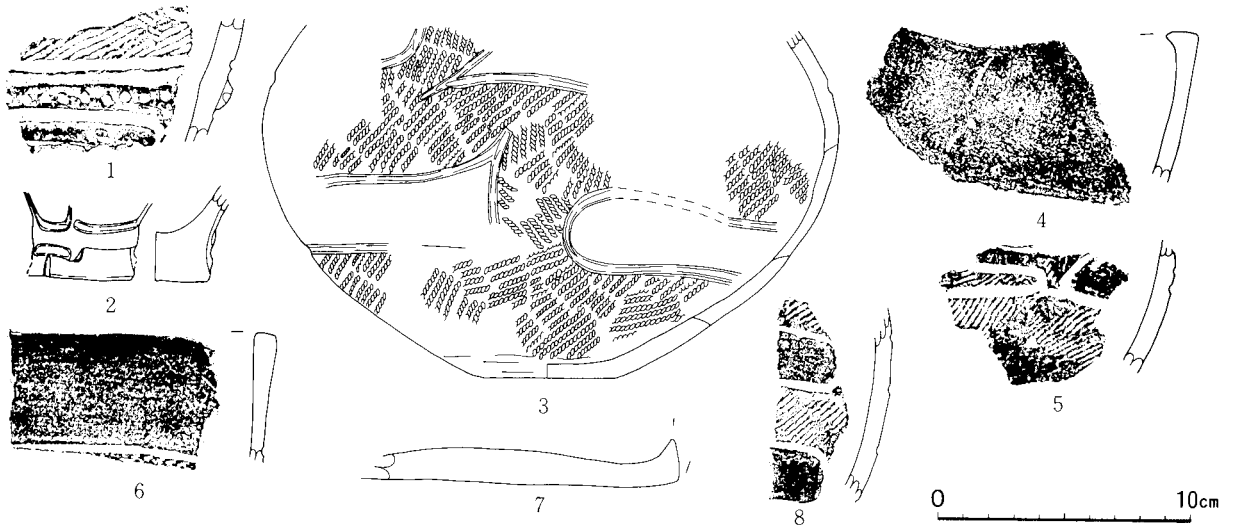
[位置] III P32~33に位置する。[確認] III層で確認した。

[平面形] 調査区外にかかるため、全貌は不明であるが、円形を呈すると考えられる。[規模] 深さ86cmを計る。[堆積土] 11層に細分した。[壁] 緩く外傾して立ち上がるが、セクション面の北側側壁は若干内湾して立ち上がる。[底面] IV層を掘り込み床面とする。平坦面を形成する。[柱穴] 側壁の内側に35基、中心部に3基検出した。P31は主柱穴と考えられる。[出土遺物] 床面・堆積土中から縄文



番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
深さ	36	36	37	36	26	28	34	25	34	33	33	34	31	16	42	31	8	13	21	39	30	42	39	44	25	45	36	24	27	36	79	25	39	52	28	39	34	34

ピット計測表

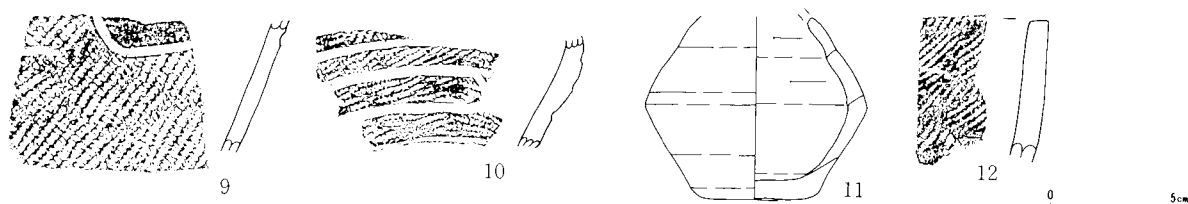


図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
25-1	232	11	後期前葉	貼付隆帯 沈線 刺突 L横位 ナデ	ミガキ				
25-2	230	10	後期前葉	貼付隆帯 沈線 ナデ	ナデ		4.1		
25-3	217	覆土	後期中葉	沈線 L R 0段多条横位 ミガキ	ナデ		(5)		
25-4	228	9	後期中葉	ナデ	ナデ				
25-5	235	9	後期前葉	L横位 沈線 ミガキ	ミガキ				
25-6	231	9	後期中葉	沈線 ミガキ	ミガキ				
25-7	229	9	後期中葉		ナデ		14		
25-8	233	9	後期前葉	沈線 L横位 ミガキ	ミガキ				

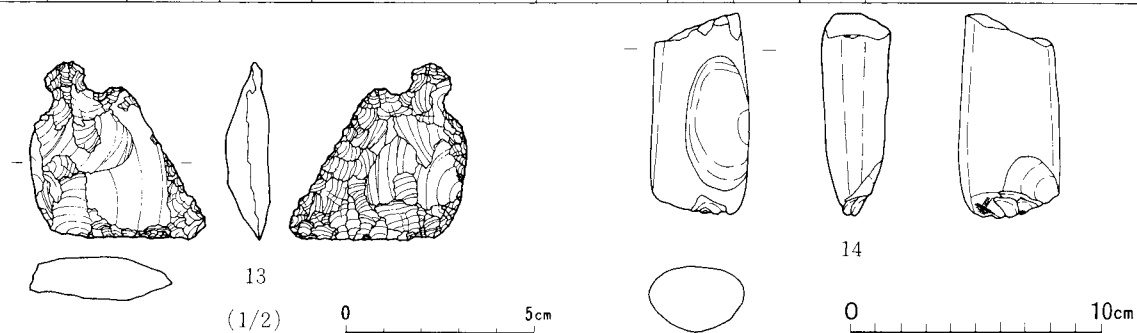
図25 第9号住居跡および出土遺物(1)

時代後期前葉と中葉の土器片、石匙、磨製石斧等が出土した。7は体部が丸みを帯びる壺形土器であ

る。沈線による曲線的文様を施す。沈線間はLR0段多条縄文を施した縄文帯とミガキによる無文帯から形成される。内面はナデにより調整される。[時期] 床面出土遺物から縄文時代後期前葉～中葉頃と考えられる。



図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
26-9	234	9	後期中葉	LR0段多条 沈線 ナデ	ミガキ				
26-10	236	9	後期中葉	LR横位 沈線	ミガキ				
26-11	201	6	後期前葉	ナデ			3.4		最大径8.8cm
26-12	237	3	後期中葉	LR横位	ミガキ				



図版番号	整理番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	分類	備考
26-13	249	1	4.7	4.7	1.2	20.5	珪頁	石匙	①
26-14	250	床直上	8	4	2.7	117.5	緑細凝	磨製石斧	基部欠損②

図26 第9号住居跡出土遺物(2) (1/3)

第2号土坑 (図27、図版7)

[位置] IIG-14~15・IIH-15に位置する。[確認] III層上面で確認した。[平面形] 楕円形を呈する。[規模] 長軸4m32cm、短軸2m6cm、深さ1m68cmを計る。[堆積土] 17層に細分した。自然堆積と思われる。[壁] 長軸では、中位に窪みを持つが、坑底部から緩やかに内傾して立ち上がる。短軸では、坑底部から開口部にかけて大きく外傾して立ち上がる。

[底面] 平坦である。[出土遺物] なし。[時期] 詳細は不明。

第3号土坑 (図28、図版7)

[位置] IIS-20に位置する。[確認] II層下位からIII層上面で黒色土の落ち込みを確認した。[重複] 認められなかった。[平面形] 円形を呈する。[規模] 径約2m13cm、深さ110cmである。[底面] VII層を底面とし、平坦である。[壁] 底面からはほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 23層に細分された。基本層序IIa層に類似する、黒色砂質シルトを主体とする。壁際では壁を構成する火山灰土の崩落土と黒色砂質シルトが互層をなし、自然堆積と考えられる。

[出土遺物] 土器片、石鏃が堆積土中から出土した。土器片はいずれも早期中葉のもので、本遺構廃絶後に流れ込んだものと考えられる。[時期] 不明。

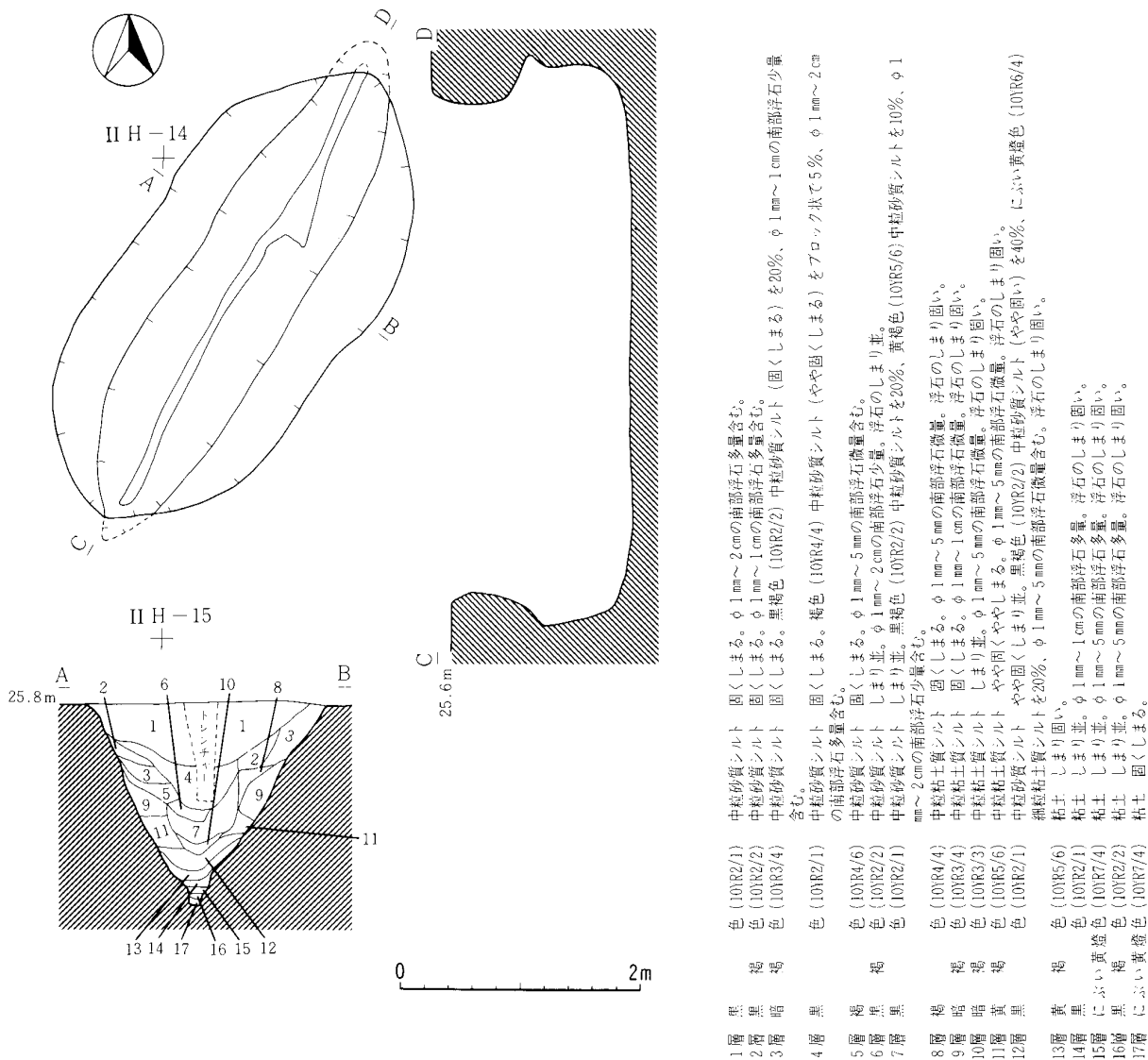


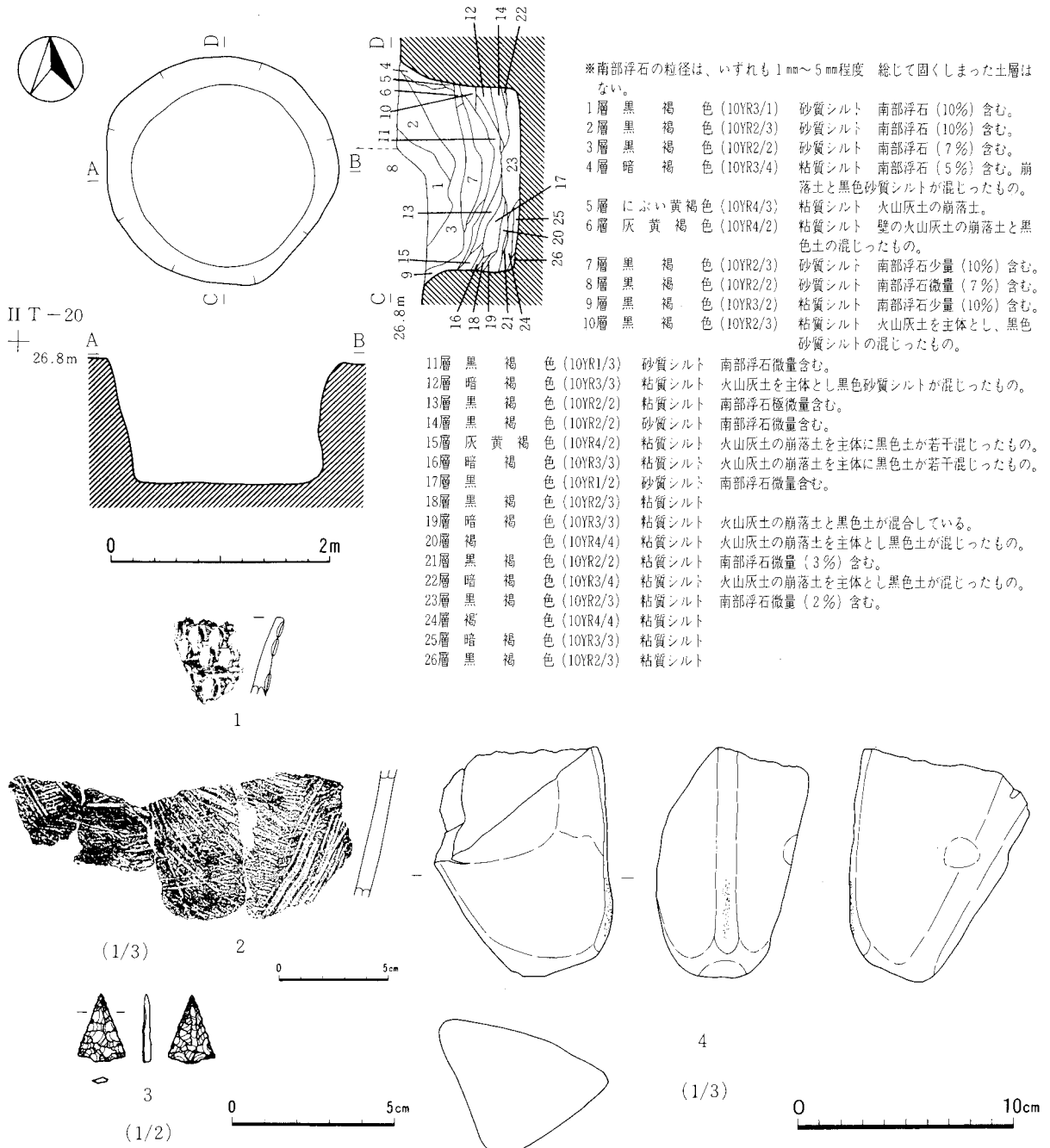
図27 第2号土坑

第4号土坑 (図29、図版8)

[位置] II I-17~18に位置する。[確認] III層上面で確認した。[平面形] 攪乱により一部破壊されているが、隅丸方形と推測される。[規模] 長軸2m32cm、短軸1m10cm、深さ36cmを計る。[堆積土] 黒色土に褐色土がブロック状に混入することから、人為堆積の可能性が考えられる。[壁] 緩く外傾して立ち上がる。[底面] ほぼ平坦である。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

第5号土坑 (図29、図版8)

[位置] II I-15・II J-15に位置する。[確認] III層上面直下で確認した。[平面形] 文化課試掘トレンチに切られているため全形は不明である。[規模] 最深部で16cmを計る。[堆積土] 3層に分層した。自然堆積と思われる。[壁] 緩く外傾して立ち上がる。[底面] ほぼ平坦である。[出土遺物] なし。[時期] 不明。



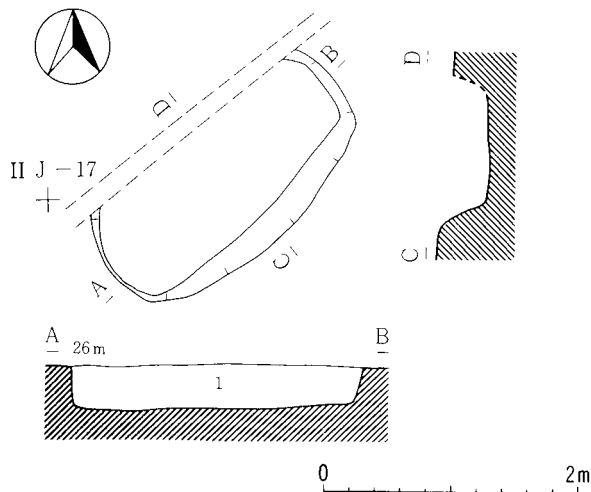
図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
28-1	252	13	早期中葉	条痕→爪形刺突	ナデ				
28-2	281	3	早期中葉	単絡1類→条痕					遺構外P-495・1548・2042と接合

図版番号	整理番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	分類	備考
28-3	257	フク土	2.6	1	0.8	0.7	珪頁	石鏃	
28-4	308	13	10.5	8.2	6.9	567	安山岩	三角柱状磨石	S-X

図28 第3号土坑および出土遺物

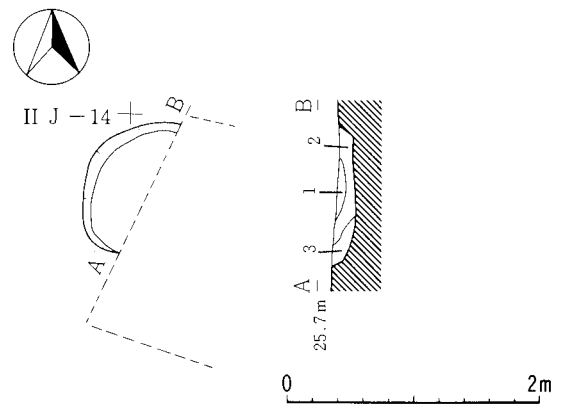
第6号土坑 (図29、図版8)

[位置] III C-17・18に位置する。[確認] III層上面で確認した。[重複] 認められなかった。[平面形] 溝状を呈する。[規模] 開口部で長軸3.60m、短軸0.70m、底面で長軸4.0m、短軸0.12mを計る。深さは1.50mで、VII層を底面とする。[堆積土] 13層に細分された。黒色砂質シルトと壁を構成する火山灰土の崩落土の互層で、自然堆積の様相を呈する。[時期] 不明。



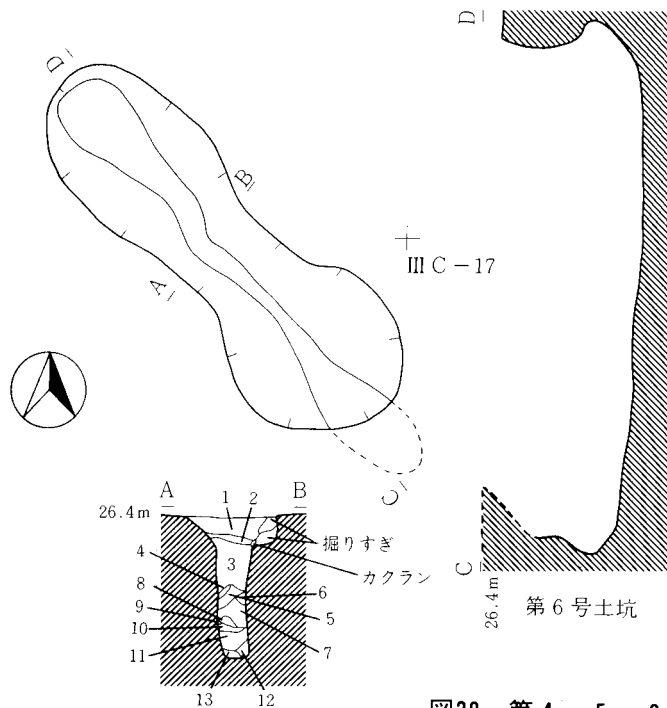
1層 黒色 (10YR1.7/1) 中粒砂質シルト 固くしまりあり。黄褐色 (10YR5/6) 細粒砂質シルト (φ1mm~1cm大の南部浮石多量浮石のしまりは並) をブロック状に1%、黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルトをブロック状に7%含む。

第4号土坑



1層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト やや固くしまりあり。φ1mm~1cm大の南部浮石を微量含む。浮石のしまりは並。
 2層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト やや固くしまりあり。褐色 (10YR4/6) 中粒砂質シルトをブロック状に10%、φ1mm~5mmの南部浮石微量含む。浮石のしまりは並。
 3層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト やや固くややしまりあり。φ1mm~1cmの南部浮石微量含む。浮石のしまりは並。

第5号土坑



1層 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 南部浮石微量含む。
 2層 黒褐色 (10YR2/2) 粘質シルト
 3層 黒褐色 (10YR3/2) 粘質シルト
 4層 褐色 (10YR4/6) 粘質シルト
 5層 黒褐色 (10YR3/2) 粘質シルト
 6層 黄褐色 (10YR5/6) 粘質シルト
 7層 褐色 (10YR3/2) 粘質シルト
 8層 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
 9層 褐色 (10YR4/4) 粘質シルト
 10層 褐色 (10YR4/4) 砂質シルト
 11層 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト しまりややあり。南部浮石微量含む。
 12層 黄褐色 (10YR5/6) 粗粒砂質シルト
 13層 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト しまり並。

第6号土坑

図29 第4・5・6号土坑

第7号土坑・第10号土坑 (図30、図版8)

[位置] III E-18・19、III F-18・19に位置する。[確認] II a層で確認した。

[重複] 10号土坑と重複する。本土坑が古い。[平面形] 7号土坑は、10号土坑に切られているため不明である。10号土坑は楕円形を呈する。[規模] 長軸2m66cm、深さ1m12cmを計る。10号土坑は長軸1m96cm、短軸78cm、深さ28cmを計る。[堆積土] 7層に細分した。10号土坑は2層に分層した。□

[壁] 坑底部から中位にかけて北東部では緩く外傾し、南西部では垂直に立ち上がる。中位から開口部にかけては、若干の屈曲を有し外傾する。10号土坑は緩く外傾して立ち上がる。

[底面] 両土坑ともほぼ平坦である。[出土遺物] なし。

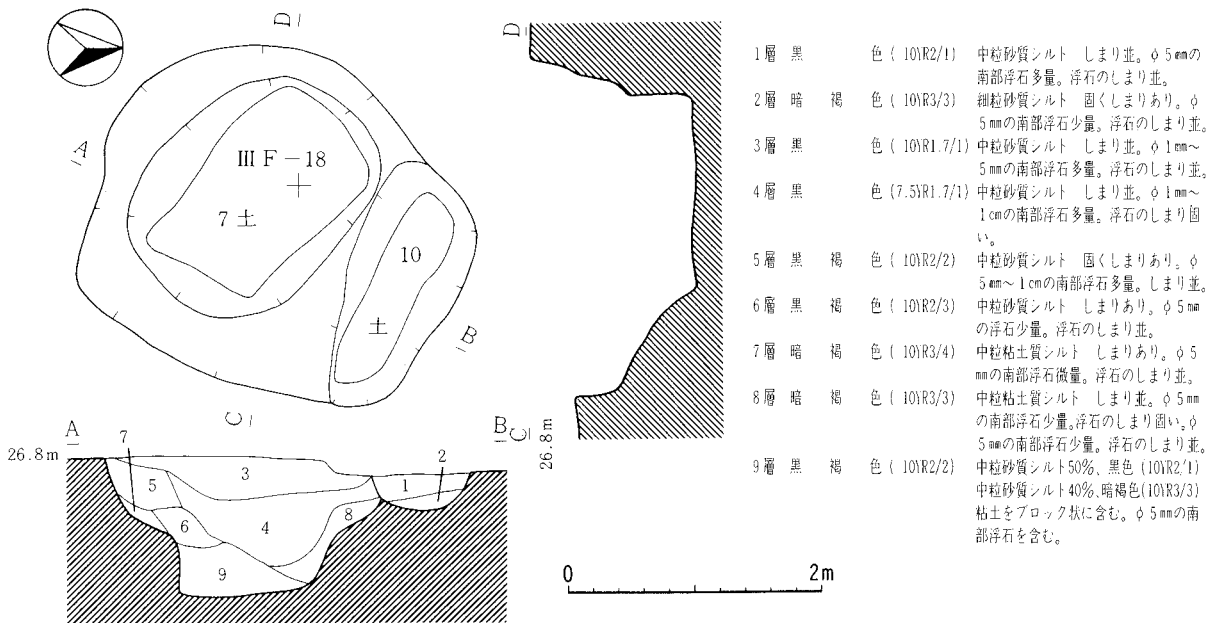
[時期] 不明。

第8号土坑 (図30、図版8・9)

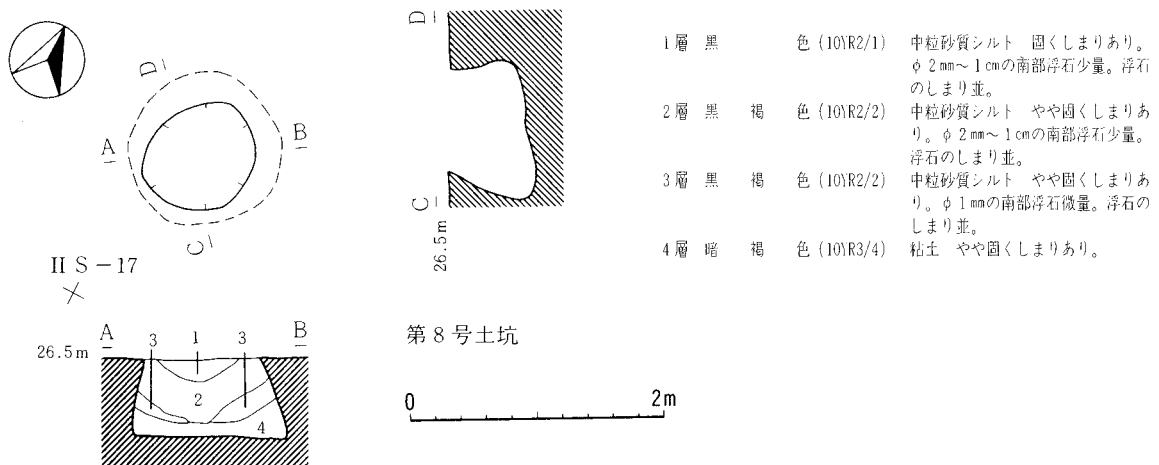
[位置] II R-17・II S-17に位置する。[確認] III層上面で確認した。[平面形] 円形を呈する。
 [規模] 長軸90cm、短軸82cm、深さ66cmを計る。[堆積土] 4層に分層した。自然堆積と思われる。
 [壁] 緩く内傾して立ち上がる。[底面] 若干の凹凸はあるが、ほぼ平坦である。
 [出土遺物] なし。[時期] 不明。

第9号土坑 (図31、図版9)

[位置] II F-15・II G-15に位置する。[確認] III層上面で確認した。[平面形] 調査区外にかかるため不明である。[規模] 最深部で1 m86cmを計る。[堆積土] 20層に細分した。自然堆積と思われる。
 [壁] 坑底部から中位にかけて窪みを持つが、緩く外傾して立ち上がる。中位から開口部にかけて大きく外傾して立ち上がる。[底面] 平坦である。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

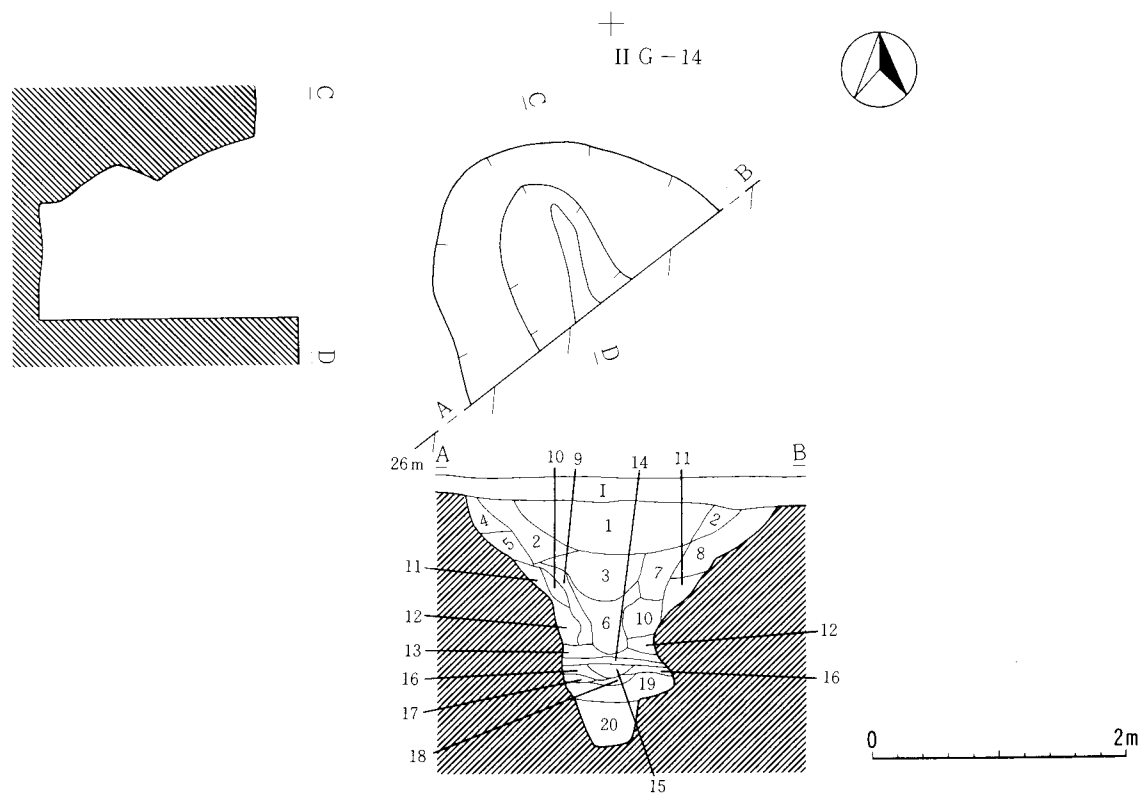


第7・10号土坑



第8号土坑

図30 第7・8・10号土坑



1層	黒色 (10YR2/1)	中粒砂質シルト	やや固くしまりあり。φ 1mm~2cmの南部浮石少量。浮石のしまり並。
2層	黒褐色 (10YR2/2)	中粒砂質シルト	固くしまりあり。φ 1mm~1cmの南部浮石少量。浮石のしまり並。
3層	黒色 (10YR2/1)	中粒砂質シルト	固くしまりあり。φ 1mm~2cmの南部浮石多量。浮石のしまり並。
4層	黒褐色 (10YR2/3)	中粒砂質シルト	やや固くしまりあり。φ 1mm~1cmの南部浮石微量。浮石のしまり並。
5層	暗褐色 (10YR3/4)	中粒砂質シルト	固くしまりあり。φ 2mm~1cmの南部浮石微量。浮石のしまり並。
6層	黒褐色 (10YR2/2)	中粒砂質シルト	固くしまりあり。φ 1mm~1cmの南部浮石少量。浮石のしまり並。
7層	暗褐色 (10YR3/4)	中粒砂質シルト	固くしまりあり。φ 2mm~2cmの南部浮石少量。浮石のしまり並。
8層	黒色 (10YR2/1)	中粒砂質シルト	固くしまりあり。黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトをブロック状に少量、φ 1mm~1cmの南部浮石少量含む。浮石のしまり並。
9層	暗褐色 (10YR3/3)	中粒砂質シルト	固くしまりあり。φ 1mm~1cmの南部浮石微量。浮石のしまり並。
10層	暗褐色 (10YR3/4)	中粒粘土質シルト	固くしまりあり。φ 2mmの南部浮石微量。浮石のしまり並。
11層	褐色 (10YR4/4)	中粒砂質シルト	固くしまりあり。φ 2mm~5mm大の南部浮石微量。浮石のしまり並。
12層	褐色 (10YR4/6)	中粒粘土質シルト	やや固くしまりあり。φ 1mm~5mmの南部浮石微量。浮石のしまり並。
13層	黄褐色 (10YR5/6)	中粒砂質シルト	やや固くしまりあり。φ 1mm~3mmの南部浮石微量。浮石のしまり並。
14層	黒色 (10YR2/1)	中粒粘土質シルト	やや固くややしまりあり。φ 1mm~1cm大の南部浮石微量。浮石のしまり並。
15層	褐色 (10YR4/4)	中粒粘土質シルト	やや固くしまりあり。φ 2mmの南部浮石微量。浮石のしまり並。
16層	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	中粒粘土質シルト	やや固くややしまり。φ 1mm~2mmの南部浮石微量。浮石のしまり並。
17層	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	粗粒砂	柔らかくしまりなし。
18層	黒色 (10YR2/1)	粘土	しまりは柔らかい。φ 1mm~5mm大の南部浮石微量。浮石のしまり並。
19層	褐色 (10YR4/4)	粘土	固くしまりあり。φ 1mm~2cm大の南部浮石少量。浮石のしまり固い。
20層	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	粘土	固くしまりあり。φ 2mm~2cm大の南部浮石多量。浮石のしまり固い。

図31 第9号土坑

第11号土坑 (図32、図版9)

[位置] II Q-26・II R-26に位置する。[確認] III層で確認した。[平面形] 円形を呈する。[規模] 長軸1m38cm、短軸1m32cm、深さ28cmを計る。[堆積土] 3層に分層した。自然堆積と思われる。

[壁] 緩く外傾して立ち上がる。[底面] 平坦である。

[出土遺物] 1層から粗製土器片が1点のみ出土した。[時期] 不明。

第12号土坑 (図32、図版9)

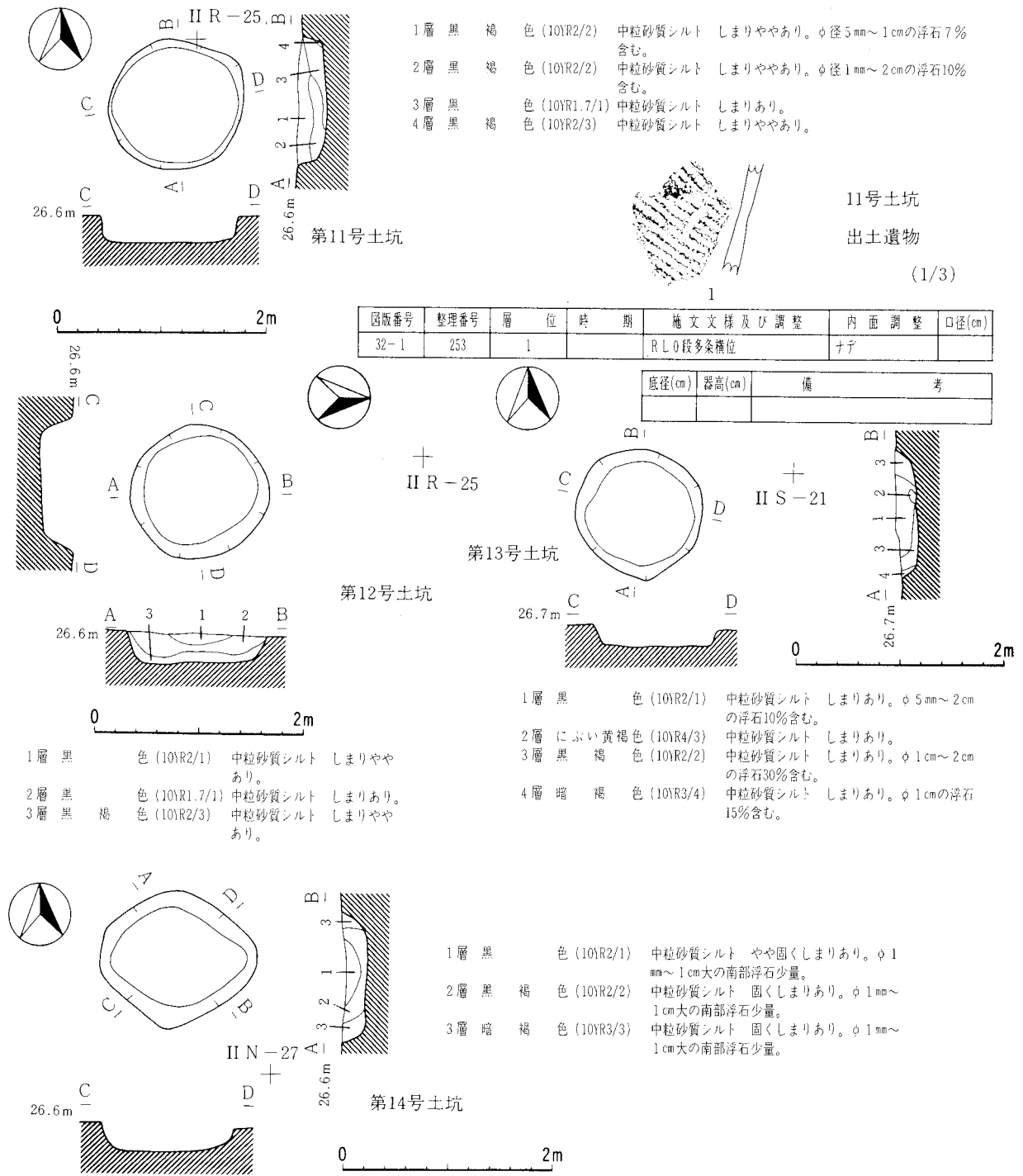


図32 第11・12・13・14号土坑

[位置] II Q-26・II R-26に位置する。[確認] III層で確認した。[平面形] 円形を呈する。

[規模] 長軸1 m34cm、短軸1 m28cm、深さ31cmを計る。[堆積土] 3層に分層した。自然堆積と思われる。[壁] 緩く外傾して立ち上がる。[底面] 平坦である。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

第13号土坑 (図32、図版9)

[位置] II S-22に位置する。[確認] 調査日程の都合上、早期の遺構面まで掘り下げIII層で確認した。

[平面形] 円形を呈する。[規模] 径1.23m、深さ21cmである。[底面] IV層を底面とし、平坦である。
 [堆積土] 4層に細分された。黒色の砂質シルトが主体で、自然堆積の様相を呈する。
 [出土遺物] なし。[時期] 不明。

第14号土坑 (図32、図版9・10)

[位置] II N-27に位置する。[確認] III層で確認した。[平面形] 隅丸方形を呈する。[規模] 長軸1m26cm、短軸1m24cm、深さ20cmを計る。[堆積土] 3層に分層した。自然堆積と思われる。[壁] 緩く外傾して立ち上がる。[底面] 平坦である。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

第15号土坑 (図33、図版10)

[位置] II H-23に位置する。[確認] III層で確認した。[平面形] 調査区外にかかっているため不明である。[規模] 最深部で78cmを計る。[堆積土] 15層に細分した。自然堆積と思われる。[壁] 緩く外傾して立ち上がる。[底面] 若干の凹凸があるが、ほぼ平坦である。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

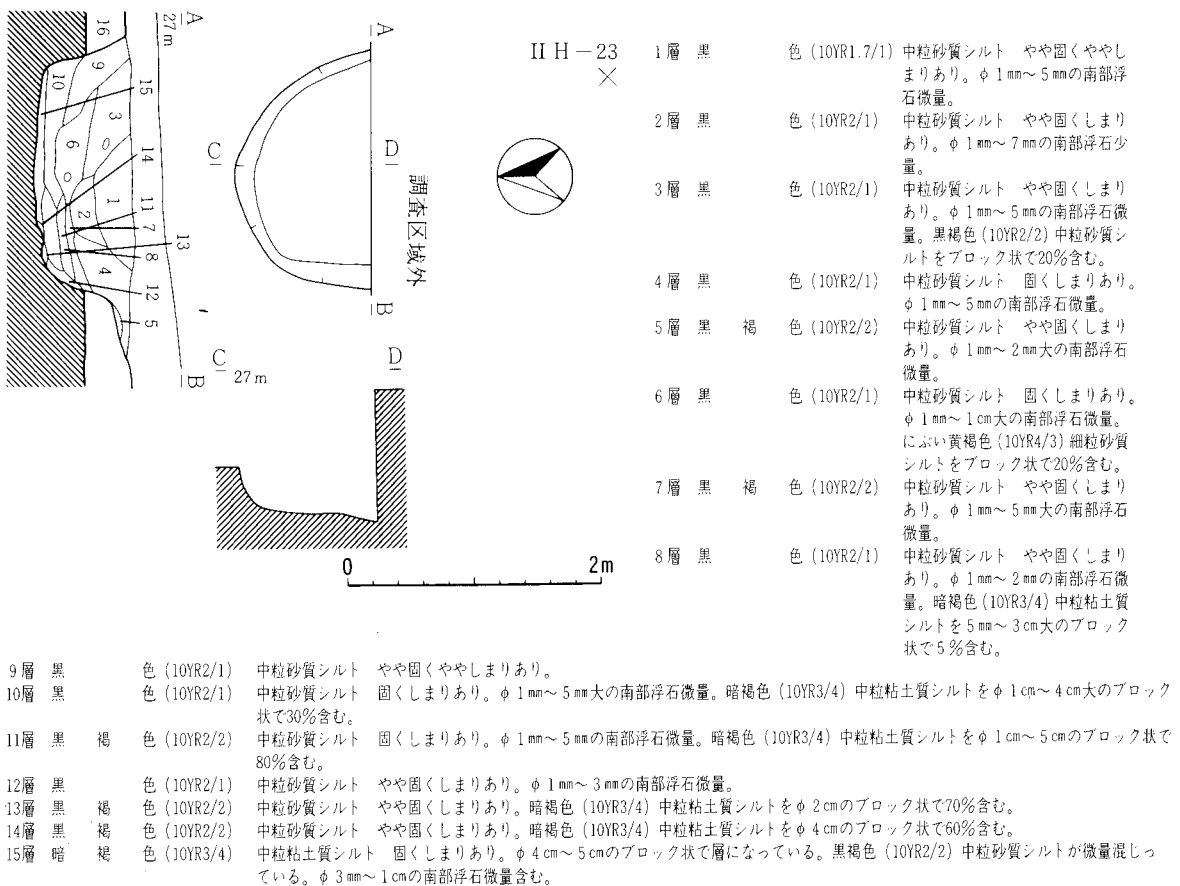
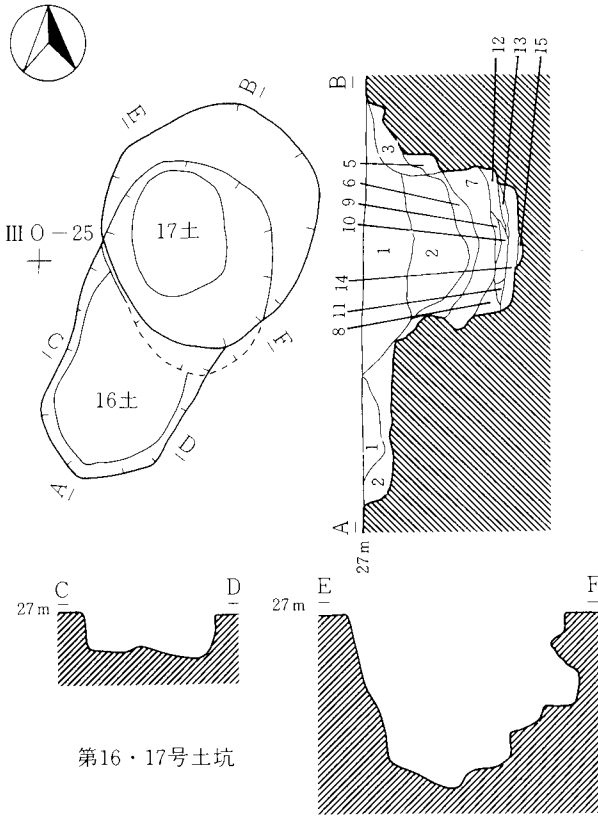


図33 第15号土坑

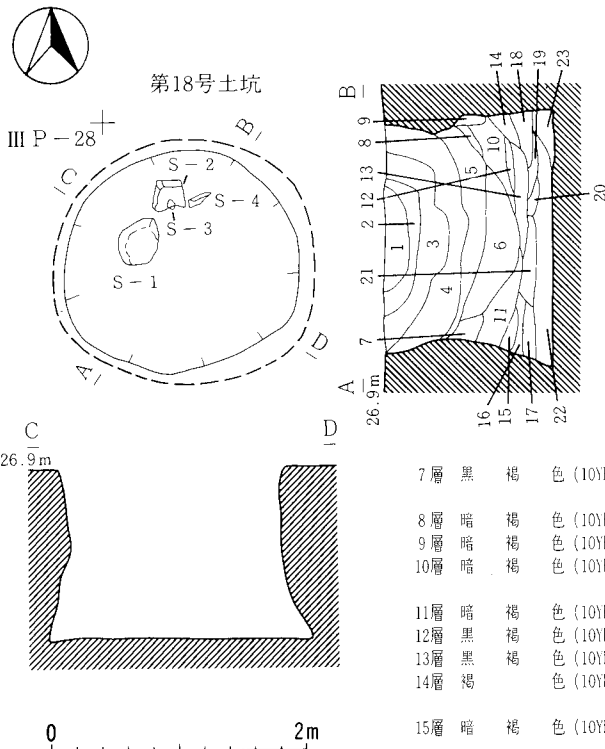
第16号土坑 (図34、図版10)

[位置] III N-25・26に位置する。[確認] III層で黒褐色土の落ち込みを確認した。



第16・17号土坑

16号土坑			
1層	黒色 (10YR2/1)	シルト	しまりあり。φ1mm~5mmの浮石を少量。
2層	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	しまりあり。φ1mm~1cmの南部浮石少量。
17号土坑			
1層	黒色 (10YR2/1)	シルト	しまりあり。φ1mm~1cmの南部浮石少量、黒褐色(10YR2/3)シルトをブロック状に含む。
2層	黒色 (10YR2/1)	シルト	しまりあり。φ2mm~2cmの南部浮石少量。
3層	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	しまりあり。φ1mm~5mmの南部浮石少量。
4層	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	しまりあり。φ1mm~3mmの南部浮石微量、黒色(10YR2/2)シルトを斑状に含む。
5層	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	しまりあり。φ1mm~3mmの南部浮石微量。
6層	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	しまりあり。φ1mm~3mmの南部浮石微量。
7層	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	しまりあり。φ1mm~3mmの南部浮石微量。
8層	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	しまりあり。φ1mm~3mmの南部浮石微量。
9層	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	しまりあり。φ1mm~3mmの南部浮石多量。
10層	褐色 (10YR4/6)	シルト	しまりあり。含む。
11層	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	しまりあり。φ1mm~3mmの浮石微量。
12層	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	しまりあり。φ1mm~5mmの浮石少量含む。
13層	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	しまりあり。φ1mm~5mmの浮石少量、にぶい黄褐色(10YR5/4)火山灰土をブロック状に(40%)含む。
14層	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	しまりあり。φ1mm~1cmの浮石少量含む。
15層	明黄褐色 (10YR5/6)	火山灰土	しまりあり。



第18号土坑

1層	黒色 (10YR2/1)	中粒砂質シルト	しまりあり。φ1mm~5mmの南部浮石微量含む。
2層	黒色 (10YR2/1)	中粒砂質シルト	しまりあり。φ1mm~1.5cmの南部浮石微量、黒褐色(10YR2/2)中粒砂質シルトを斑状に(30%)、アワズナ少量含む。
3層	黒色 (10YR2/1)	中粒砂質シルト	しまりあり。φ1mm~1cmの南部浮石少量、φ1cmの炭化物微量、アワズナ少量含む。
4層	黒褐色 (10YR2/2)	中粒砂質シルト	しまりあり。φ1mm~2cmの南部浮石多量、アワズナ微量含む。
5層	黒褐色 (10YR2/2)	中粒砂質シルト	しまりあり。φ1mm~2cmの南部浮石少量含む。
6層	黒褐色 (10YR2/2)	中粒砂質シルト	しまりあり。φ1mm~2cmの南部浮石多量含む。
7層	黒褐色 (10YR2/2)	中粒砂質シルトと暗褐色(10YR3/3)粘土質シルトの混合したもの。	φ1mm~2cmの南部浮石多量含む。
8層	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	しまりあり。φ1mm~1cmの南部浮石微量。
9層	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	しまりあり。φ1mm~5mmの南部浮石微量。
10層	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	しまりあり。黒褐色(10YR2/2)中粒砂質シルトをまだらに含む。
11層	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	しまりあり。φ1mm~1cmの南部浮石少量含む。
12層	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	しまりあり。φ1mm~5mmの南部浮石微量含む。
13層	黒褐色 (10YR2/2)	砂質シルト	しまりあり。φ1mm~5mmの南部浮石少量含む。
14層	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	しまりなし。黒色(10YR2/1)中粒砂質シルトをまだらに(10%)、φ1mm~3cmの南部浮石微量含む。
15層	暗褐色 (10YR3/4)	砂質シルト	しまりなし。褐色(10YR4/6)粘土質シルトをブロック状に(10%)、φ1mm~2mmの南部浮石微量含む。
16層	黒色 (10YR2/1)	砂質シルト・暗褐色(10YR3/4)砂質シルトが混じり合う。	
17層	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルトと黒色(10YR2/1)中粒砂質シルトと暗褐色(10YR3/4)中粒砂質シルトが混じり合い	φ1mm~2mmの南部浮石微量含む。
18層	褐色 (10YR4/4)	浮石混じりの中粒砂質シルト	明黄褐色(10YR6/6)粘土質シルトをブロック状に(40%)、南部浮石多量含む。
19層	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	しまりあり。φ1mm~5mmの南部浮石微量含む。
20層	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	しまりあり。φ1mm~2mmの南部浮石微量含む。
21層	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	しまりあり。φ1mm~1cmの南部浮石少量含む。
22層	黒色 (10YR2/1)	灰混じりの粘土質シルト	固くしまりあり。φ1mm~2cmの南部浮石少量含む。
23層	黒褐色 (10YR2/2)	灰混じりの中粒砂質シルト	φ1mm~5mmの南部浮石微量含む。

図34 第16・17・18号土坑

[重複] 17号土坑と重複し、本土坑が古い。[平面形] 楕円形を呈すると考えられる。

[規模] 短軸1.2m、深さ33cmである。[底面] 若干の凹凸がある。

[壁] 底面からほぼまっすぐ立ち上がる。[堆積土] 2層に細分された。基本層序Ⅱ b層に類似する暗褐色シルトを主体とし、自然堆積の様相を呈する。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

第17号土坑 (図34、図版10)

[位置] ⅢN-25・26に位置する。[確認] Ⅲ層中で暗褐色土の落ち込みを確認した。

[重複] 16号土坑と重複し、本土坑が新しい。[平面形] 円形を呈する。

[規模] 開口部で1.9m×1.7m、深さ1m27cmである。[底面] 不整な形状を呈する。

[壁] 凹凸が激しく、全体としてやや外傾する。[堆積土] 15層に細分された。基本層序Ⅱ b層に類似する暗褐色シルトを主体とする。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

第18号土坑 (図35、図版10)

[位置] ⅢO-29に位置する。[確認] Ⅱ層下位で黒色土の落ち込みを確認した。

[重複] 認められなかった。[平面形] 円形を呈する。[規模] 開口部で径1m80cm、底面で2m12cm、

深さ1m40cmである。[底面] Ⅶ層を底面とし、平坦である。[壁] 底面から内傾して立ち上がる。いわゆるフラスコ形である。[堆積土] 23層に細分された。基本層序Ⅱ a層に類似する黒色砂質シルト



図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
35-1	255	6・7	後期	0多LR横位	ナデ				
35-2	254	4	後期初頭	沈線 RL充填	ミガキ				
35-3	257	4	後期	縄(LR)側面圧痕	ナデ				
35-4	256	3	後期初頭	RL→沈線	ミガキ				
35-5	258	3	後初～前葉	折返口縁 L横位 沈線	ミガキ				
35-6		3・確認面	後期初頭	RL→沈線	ミガキ				
35-7		3	後期初頭	RL→沈線	ミガキ				
35-8		3	後期初頭	RL→沈線	ミガキ				
35-9		確認面	後期	ナデ	ナデ				

図版番号	整理番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	分類	備考
35-10	309	22	10.5	10.8	5.5	904	安山岩	凹石	S-3

図35 第18号土坑出土遺物 (1/3)

を主体とする。壁の火山灰土の崩落土が認められ、自然堆積と考えられる。[出土遺物] 堆積土上位から土器片・凹石が出土した。土器はいずれも後期前葉のものである。確認面には角礫が認められた。

[時期] 出土遺物・堆積土の様相から考えて、後期前葉かそれ以前と考えられる。

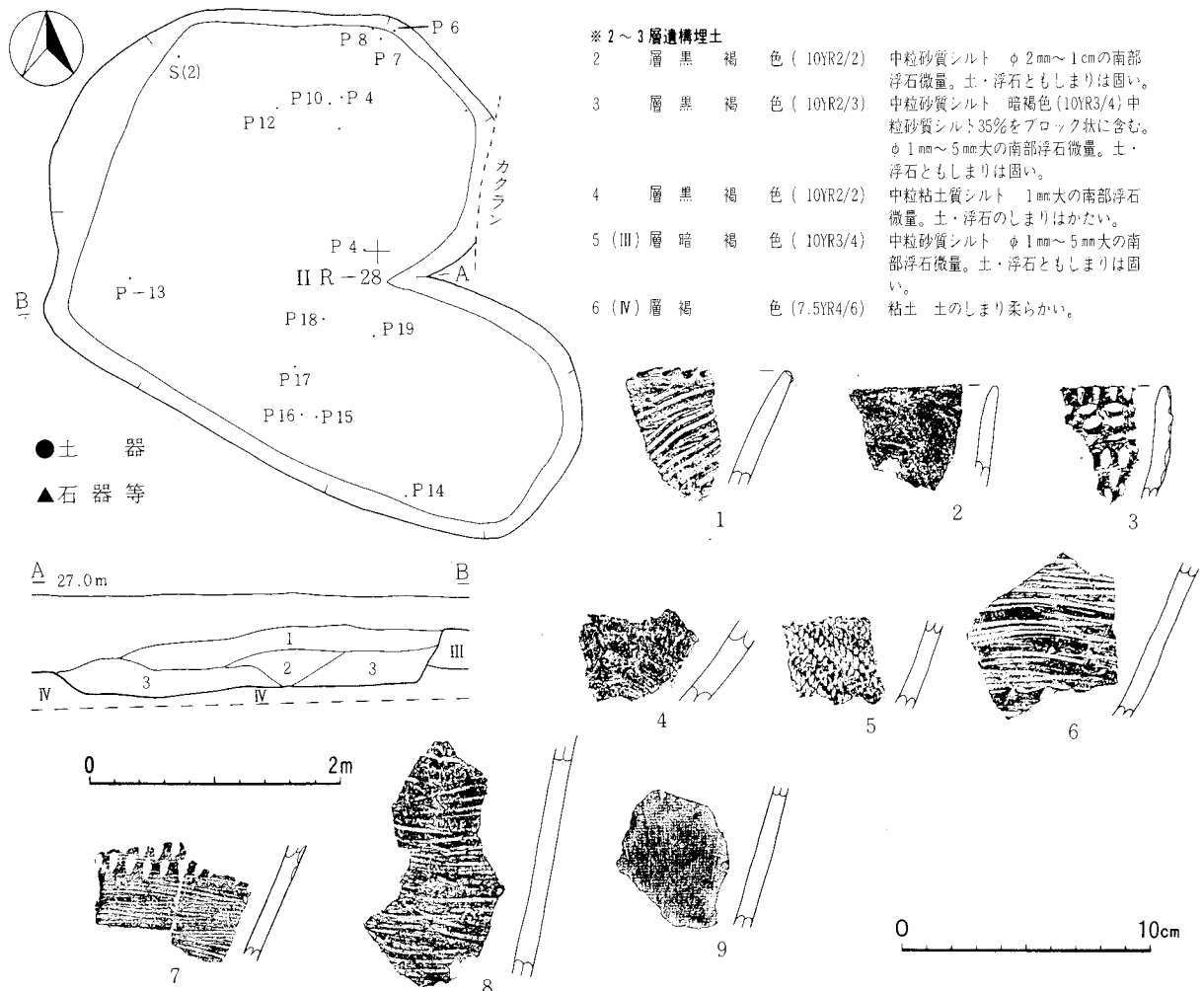
第19号土坑 (図36、図版10・11)

[位置] II Q-28~29・II R-28~29に位置する。[確認] IV層上面で確認した。

[平面形] 不定形を呈する。[規模] 長軸4m96cm、短軸3m64cm、深さ46cmを計る。

[堆積土] 3層に分層した。自然堆積と思われる。[壁] 緩く外傾して立ち上がる。

[底面] 若干の凹凸があるが、ほぼ平坦である。[出土遺物] 縄文時代早期中葉の土器片が数点出土した。[時期] 堆積土、出土遺物から縄文時代早期中葉と考えられる。



図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
36-1		3	早期中葉	口唇部刻み 条痕	ミガキ				P-14
36-2	262	3	早期中葉	ミガキ	ミガキ				
36-3	264	3	早期中葉	爪形刺突	ミガキ				P-19
36-4	261	3	早期中葉	ミガキ	ミガキ				
36-5	263	3	早期中葉	R L R横位	ミガキ				
36-6	260	3	早期中葉	条痕横位	ミガキ				P-17
36-7		3	早期中葉	条痕横位→爪形刺突	ナデ				P-22 遺構外II R-29と接合
36-8	198	2	早期中葉	条痕横位	ミガキ				P-6 遺構外P-1208と接合
36-9		2	早期中葉	ミガキ	ミガキ				

図36 第19号土坑および出土遺物

第20号土坑 (図37、図版11)

[位置] III M-23に位置する。[確認] III層中で確認した。[重複] 認められなかった。
 [平面形] 円形を呈する。[規模] 径1 m 30cm、深さ1 m 2 cmを計る。[底面] 平坦である。
 [壁] 底面からやや外傾して立ち上がり、中位でさらに外傾して立ち上がる。[堆積土] 16層に細分された。基本層序II b層に類似する暗褐色土を主体とし、壁の火山灰土の崩落土が認められる。自然堆積と考えられる。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

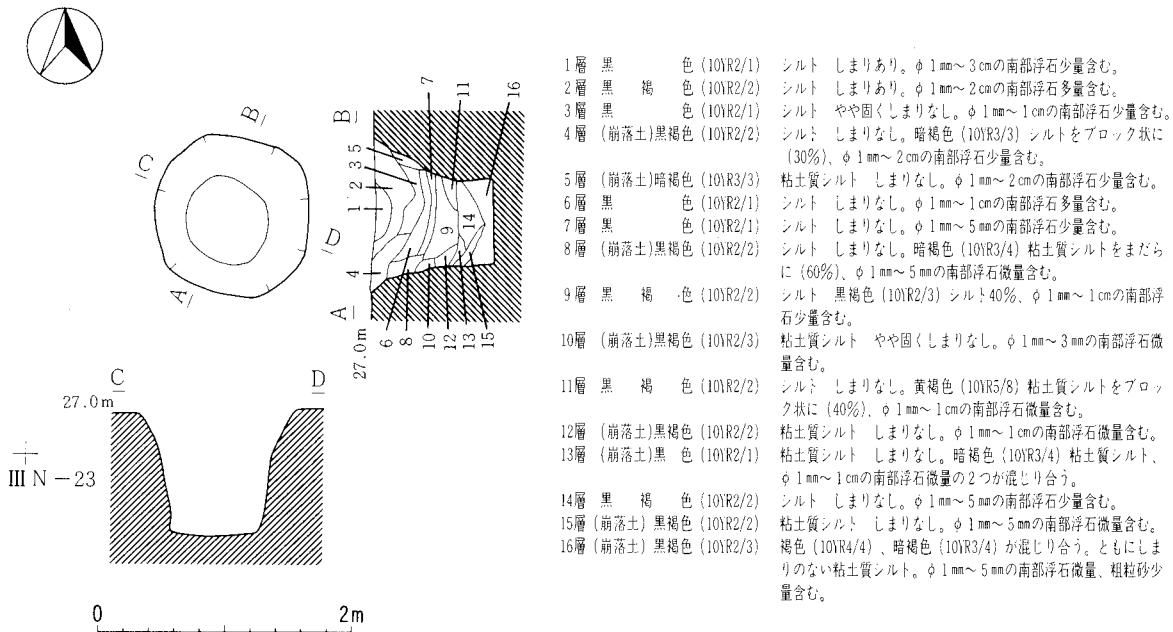


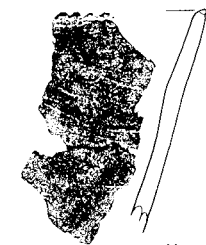
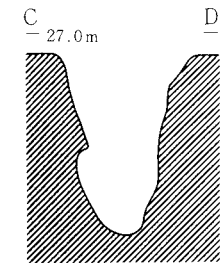
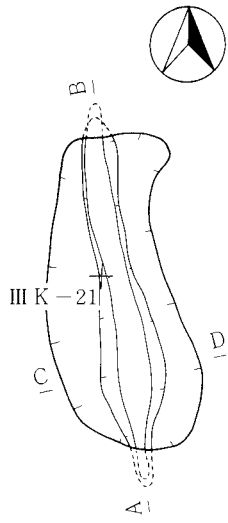
図37 第20号土坑

第21号土坑 (図38、図版11)

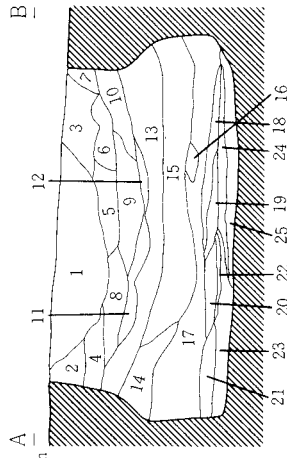
[位置] III J-21・22、III K-21・22に位置する。[確認] III層中で黒色土の落ち込みを確認した。
 [重複] 認められなかった。[平面形] 溝状を呈する。[規模] 開口部で長軸2 m 50cm、短軸1 m 10cmである。[底面] 第VII層を底面とし、長軸方向ではほぼ水平である。[堆積土] 25層に細分された。基本層序II a層類似の黒色砂質シルトを主体とし、壁の火山灰土の崩落が認められる。自然堆積と考えられる。[出土遺物] 堆積土上位から早期中葉の土器片が出土した。本遺構廃絶後に流れ込んだものと考えられる。[時期] 不明。

第22号土坑 (図38、図版11)

[位置] II K-25・26、II L-25・26に位置する。
 [確認] III層中で黒色土の落ち込みを確認した。調査日程の都合により、早期の遺構面まで掘り下げた確認作業を行ったが、本来の掘込み面はII a層中であつたと考えられる。
 [重複] 認められなかった。[平面形] 円形を呈する。[規模] 開口部で径1 m 45cm×1 m 40cm、深さ59cmである。[底面] IV層を底面とし、平坦である。[堆積土] 分層されなかった。基本層序第II a層に類似する黒色砂質シルトである。[出土遺物] なし。[時期] 不明。



1 第21号土坑出土遺物

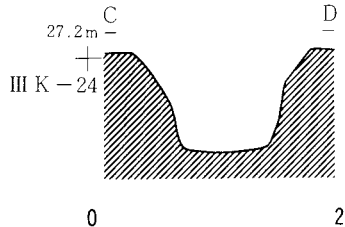
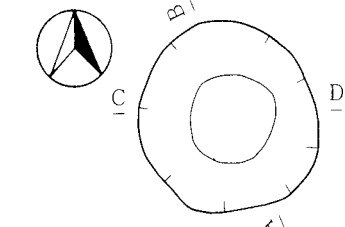


第21号土坑

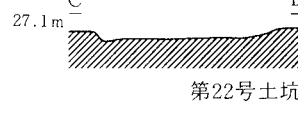
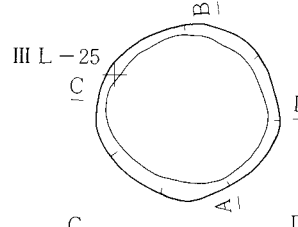
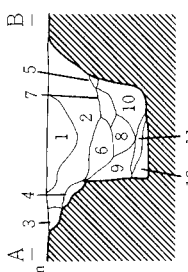
- 1層 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト しまりあり。φ1mm~2cmの南部浮石少量含む。
- 2層 黒色 (10YR2/1) シルト しまりなし。φ1mm~1cmの南部浮石多量含む。
- 3層 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト しまりなし。1mm~1cm大の南部浮石少量。
- 4層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトを30%、暗褐色(10YR3/4)シルトを70%、φ1mm~1cmの南部浮石少量含む。
- 5層 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト しまりあり。φ1mm~1cmの南部浮石微量。
- 6層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト しまりなし。φ1mm~1cmの南部浮石微量含む。
- 7層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト、黒褐色(10YR2/3)中粒砂質シルトの混じり合ったもの。φ1mm~1cmの南部浮石微量含む。
- 8層 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト しまりなし。暗褐色(10YR3/3)シルトをまだらに(20%)、φ1mm~1cmの南部浮石少量含む。
- 9層 黒褐色 (10YR2/2) シルト しまりあり。φ1mm~2cmの南部浮石多量含む。
- 10層 黒褐色 (10YR2/2) シルト しまりあり。φ1mm~1cmの南部浮石多量含む。
- 11層 黒褐色 (10YR2/3) シルト しまりあり。φ1mm~1cmの南部浮石少量含む。
- 12層 暗褐色 (10YR3/4) シルト しまりあり。φ1mm~5mmの南部浮石微量含む。
- 13層 暗褐色 (10YR3/4) シルト しまりあり。黒褐色(10YR2/2)シルトをまだらに(20%)、φ1mm~1cmの南部浮石少量含む。
- 14層 褐色 (10YR4/4) シルト ややしりあり。黒褐色(10YR2/2)シルトをまだらに(10%)含む。
- 15層 褐色 (10YR4/4) シルト しまりあり。黒褐色(10YR2/2)シルトをまだらに(20%)、φ1mm~1cmの南部浮石微量含む。
- 16層 褐色 (10YR4/6) 砂混じりの粘土質シルト しまりなし。
- 17層 褐色 (10YR4/6) 砂混じり粘土質シルトと灰色(10YR8/1)砂混じり粘土質シルトが混じり合う。ともにしまりはない。
- 18層 黄褐色 (10YR5/6) 粘土質シルト しまりなし。φ1mm~3mmの南部浮石少量。
- 19層 にぶい黄褐色 (10YR7/3) 粘土質シルト しまりなし。φ1mmの南部浮石微量含む。
- 20層 黄褐色 (10YR5/6) 粘土質シルト しまりなし。にぶい黄褐色(10YR7/3)粘土質シルトをまだらに(20%)、黒褐色(10YR2/2)砂まじりシルトをまだらに(10%)、φ1mmの南部浮石微量含む。
- 21層 褐色 (10YR4/4) 砂混じり粘土質シルト しまりなし。φ1mm~3mmの南部浮石微量含む。
- 22層 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト しまりなし。φ1mm~2mmの南部浮石微量含む。
- 23層 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト しまりあり。にぶい黄褐色(10YR7/3)粘土質シルト30%、φ1mm~5mmの南部浮石少量含む。
- 24層 褐色 (10YR4/6) 粘土質シルト、にぶい黄褐色(10YR7/3)粘土質シルト、黒褐色(10YR2/2)砂質シルトが均等に混じり合う。いずれもしまりない。
- 25層 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト しまりなし。φ1mm~2mmの南部浮石微量含む。

図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)
38-1		9・13	早期中葉	口唇部刻み ミガキ	ミガキ			

備	考
---	---



第23号土坑



第22号土坑

- 1層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト しまりあり。φ5mm~1cmの浮石20%含む。
- 2層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト しまりあり。φ5mm~2cmの浮石10%含む。
- 3層 にぶい褐色 (10YR4/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ5mm~1cmの浮石3%含む。
- 4層 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ5mm~2cmの浮石10%含む。
- 5層 褐色 (10YR4/6) 中粒砂質シルト しまりあり。φ1cmの浮石1%含む。
- 6層 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ1cmの浮石5%含む。
- 7層 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト しまりややありを80%、暗褐色(10YR3/3)中粒砂質シルトを20%、φ1cmの浮石3%含む。
- 8層 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルト しまりなし。φ1cmの浮石3%含む。
- 9層 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト しまりなし。
- 10層 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト しまりなし。φ1cmの浮石3%含む。
- 11層 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルト しまりなし。φ1cmの浮石2%含む。
- 12層 にぶい褐色 (10YR4/3) 中粒砂質シルト しまりなし。φ1cmの浮石2%含む。

図38 第21・22・23号土坑

第23号土坑（図38、図版11・12）

[位置] II J-24に位置する。[確認] III層上面で確認した。[重複] 認められなかった。
 [平面形] 円形を呈する。[規模] 径1 m 40cm×1 m 70cm、深さ81cmである。[底面] 第V層を底面とし、平坦である。[壁] 底面からまっすぐ立ち上がり、中位から外傾する。[堆積土] 10層に細分された。基本層序II b層に類似する暗褐色シルトを主体とする。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

第24号土坑（図39、図版12）

[位置] III H-30・31に位置する。[確認] III層で確認した。[平面形] 円形を呈する。[規模] 長軸1 m 60cm、短軸1 m 54cm、深さ1 m 44cmを計る。[堆積土] 24層に細分した。自然堆積と思われる。
 [壁] 坑底部から中位にかけて緩く内傾し、中位から開口部にかけて緩く外傾する。[底面] 平坦である。[出土遺物] 縄文時代早期中葉の土器片が数点出土した。[時期] 不明。

第25号土坑（図39、図版12）

[位置] III I-30に位置する。[確認] III層で確認した。[平面形] 円形を呈する。[規模] 長軸1 m 30cm、短軸1 m 25cm、深さ1 m 28cmを計る。[堆積土] 26層に細分した。自然堆積と思われる。
 [壁] 坑底部から中位にかけて緩く内傾し、中位から開口部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。
 [底面] 平坦である。[出土遺物] 縄文時代後期の土器片が数点出土した。
 [時期] 23層から土器片が出土していることから、縄文時代後期の遺構と考えられる。

第26・27号土坑（図40、図版12）

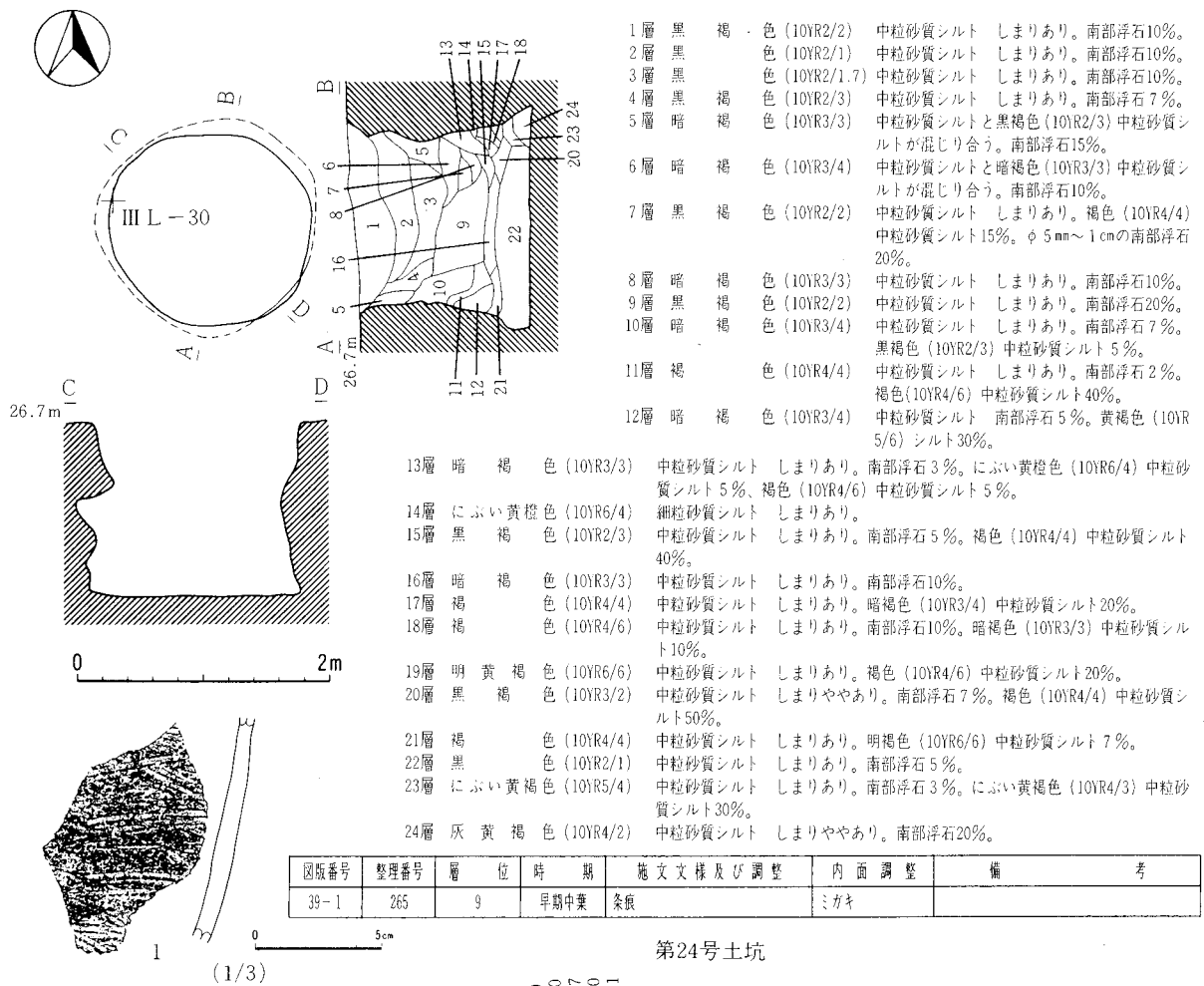
[位置] III J-31に位置する。[確認] III層で確認した。[重複] 26号が27号を切る。
 [平面形] 楕円形を呈する。[規模] 26号は長軸2 m 88cm、短軸1 m 13cm、深さ1 m 46cmを計る。27号は深さ1 m 22cmを計る。[堆積土] 26号は19層、27号は9層に細分した。自然堆積と思われる。[壁] 26号は坑底部から若干の凹凸はあるが、緩く外傾し、坑底部から3分の2の位置で大きく外傾する。27号は坑底部から緩く外傾する。[底面] 凹凸があるが、ほぼ平坦である。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

第28号土坑（図40、図版12・13）

[位置] III H-31・III I-31に位置する。[確認] III層で確認した。[平面形] 楕円形を呈する。
 [規模] 長軸2 m 28cm、短軸80cm、深さ40cmを計る。[堆積土] 3層に分層した。自然堆積と思われる。
 [壁] 緩く外傾して立ち上がる。[底面] 若干の凹凸があるが、ほぼ平坦である。
 [出土遺物] 縄文時代の土器片数点、不定形石器が1点出土した。[時期] 詳細は不明。

第29号土坑（図41、図版13）

[位置] III K-30～31に位置する。[確認] III層で確認した。[平面形] 円形を呈する。
 [規模] 長軸1 m 45cm、短軸1 m 40cm、深さ42cmを計る。[堆積土] 5層に分層した。自然堆積と思われる。[壁] 緩く外傾して立ち上がる。
 [底面] 平坦である。[出土遺物] 三角柱状磨石が1点出土した。[時期] 不明。



第24号土坑

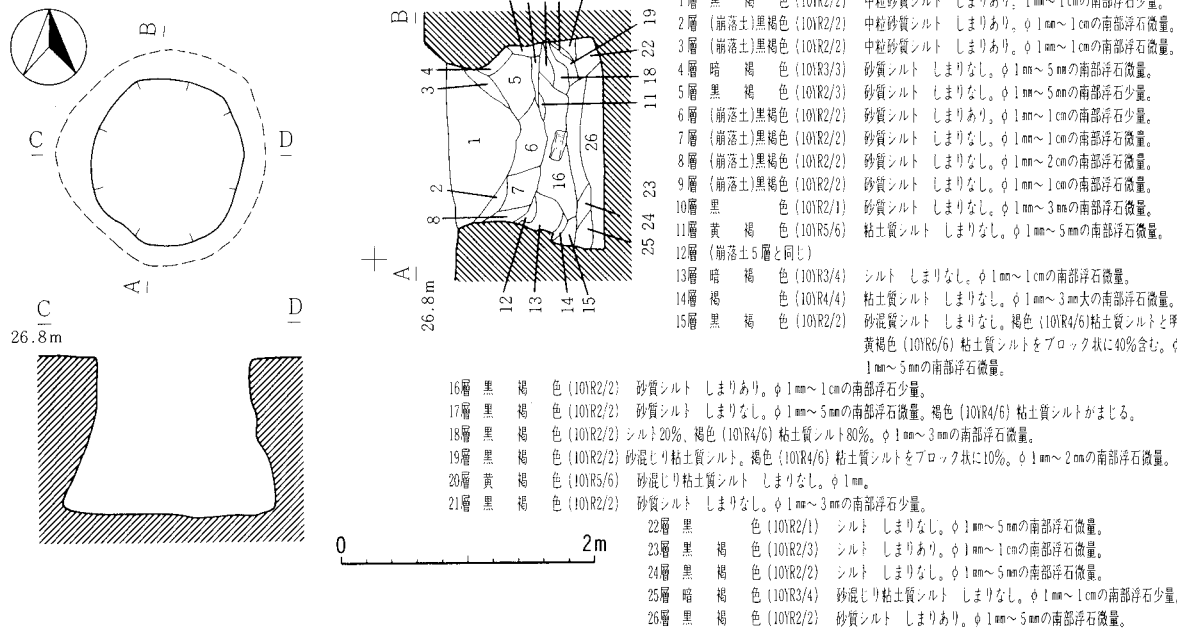


図39 第24・25号土坑

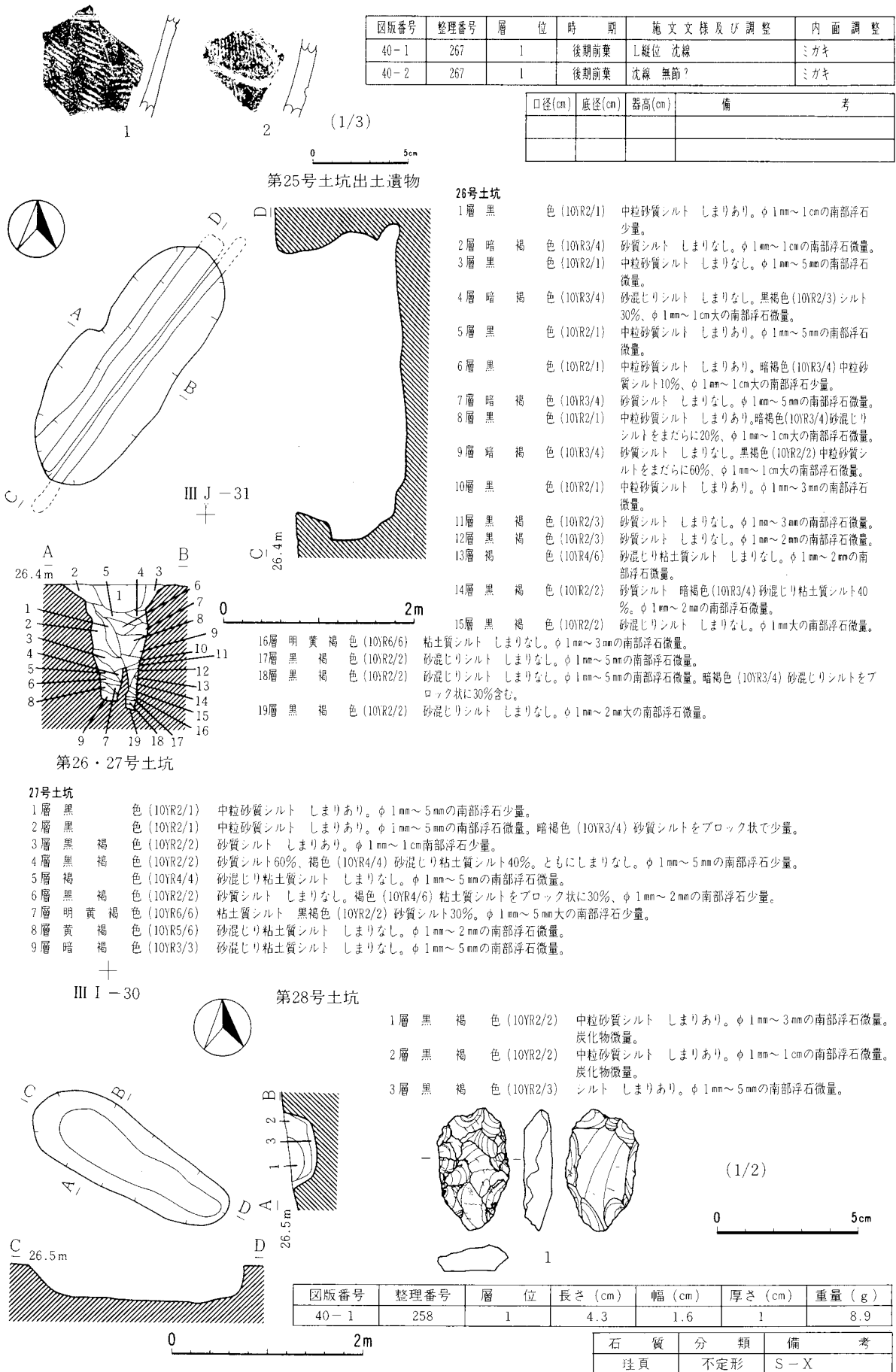
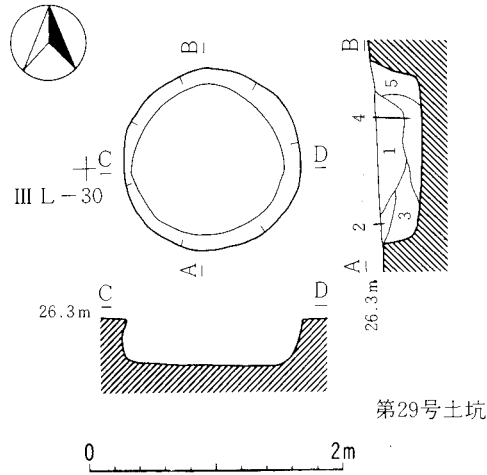
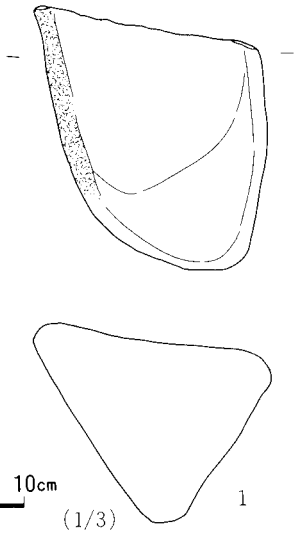


図40 第25号土坑出土遺物および第26・27・28号土坑



29号土坑

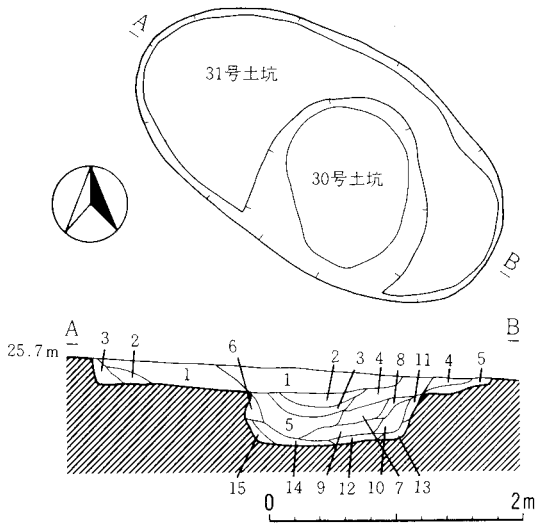
- 1層 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 5mm~1cmの南部浮石少量。
- 2層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm~5mmの南部浮石少量。
- 3層 黒色 (10YR1.7/1) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 5mm~1cmの南部浮石少量。黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト40%含む。
- 4層 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm~1cmの南部浮石少量。黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト30%含む。
- 5層 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 5mm~1cmの南部浮石少量。褐色 (10YR4/6) 中粒砂質シルト30%、黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト10%。



図版番号	整理番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	分類	備考
41-1	311	1	10.5	9.2	8	678.5	砂岩	三角柱状磨石	S-X

十三M-31

第30・31号土坑



30号土坑

- 1層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm~5mmの南部浮石多量含む。
- 2層 褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルト しまりあり。黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト30%、φ 1mm~5mmの南部浮石少量含む。
- 3層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm~5mmの南部浮石微量含む。
- 4層 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト しまりあり。暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルトを20%、φ 2mm~5mmの南部浮石少量。
- 5層 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト しまりあり。褐色 (10YR4/6) 中粒砂質シルトを20%、φ 2mm~1cmの南部浮石少量含む。
- 6層 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト しまりあり。暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルトを30%、φ 1mm~5mmの南部浮石微量含む。
- 7層 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm~5mmの南部浮石少量。
- 8層 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルト しまりあり。暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルトを10%、φ 1mm~5mmの南部浮石少量含む。
- 9層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト しまりあり。褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルトを15%、φ 2mm~5mmの南部浮石少量含む。
- 10層 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト しまりあり。黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトを30%、φ 2mm~1cmの南部浮石少量含む。
- 11層 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト しまりあり。褐色 (10YR4/6) 中粒砂質シルトを30%、黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトを(20%)、φ 2mm~5mmの南部浮石少量含む。
- 12層 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト しまりあり。褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルトを20%、φ 2mm~5mmの南部浮石少量含む。
- 13層 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルト しまりあり。褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルトを30%、黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルトを10%、φ 2mm~5mmの南部浮石微量含む。

- 14層 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト しまりあり。黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトを10%、褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルトを7%、φ 1mm~5mmの南部浮石微量含む。浮石のしまりはやや固い。
- 15層 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルト しまりあり。褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルトを10%、φ 1mm~5mmの南部浮石微量含む。

31号土坑

- 1層 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm~5mmの南部浮石少量含む。
- 2層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm~5mmの南部浮石少量含む。
- 3層 暗褐色 (10YR3/4) 中粒砂質シルト しまりあり。褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルト30%、φ 2mm~5mmの南部浮石少量含む。
- 4層 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm~5mmの南部浮石少量含む。
- 5層 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルト しまりあり。φ 2mm~5mmの南部浮石多量含む。

図41 第29・30・31号土坑

第30号土坑 (図42、図版13)

[位置] ⅢL-31に位置する。[確認] Ⅲ層中で黒色土の落ち込みを確認した。当初は1基の遺構として把握した。[重複] 31号土坑と重複し、本土坑が新しい。[平面形] 円形を呈する。

[規模] 開口部で1m52cm×1m35cm、深さ56cmである。[底面] ほぼ平坦である。

[壁] 底面から外傾して立ち上がる。西壁はややオーバーハング気味である。[堆積土] 15層に細分された。黒色の砂質シルトを主体とする。[出土遺物] 堆積土から土器片が出土した。いずれも後期の土器である。当初、単独の遺構として精査を開始したため、遺物は31号土坑のものと一緒に一括して取り上げることとなった。[時期] 出土した土器より、縄文時代後期かそれ以前と考えられる。

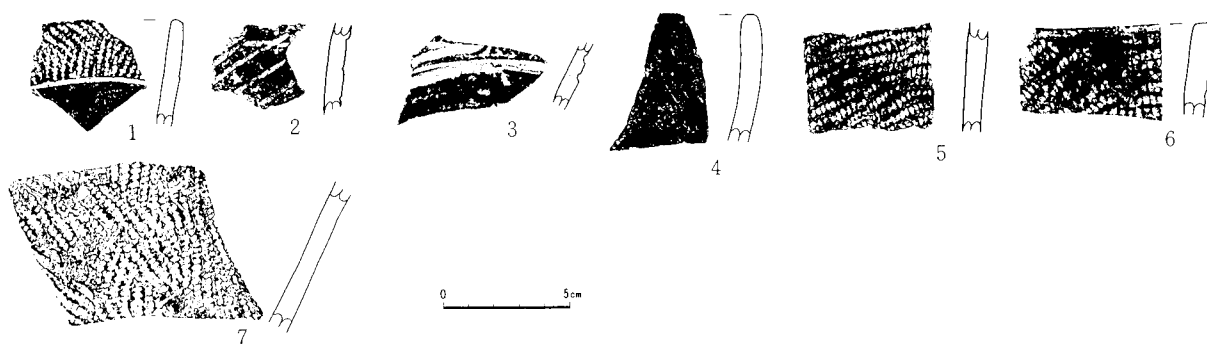
第31号土坑 (図42、図版13)

[位置] III L-31に位置する。[重複] 第30号土坑と重複し、本土坑が古い。

[平面形] 楕円形を呈する。[規模] 開口部で長軸3 m18cm、短軸1 m76cmを計る。深さは20cmである。

[底面] ほぼ平坦である。[堆積土] 5層に細分された。黒色砂質シルトを主体とする。

[時期] 30号土坑より古い。



図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備	考
42-1	269	覆土下位	後期中葉							
42-2		覆土下位	後期中葉	沈線	ナデ					
42-3	268	覆土下位								
42-4	275	覆土下位								
42-5		1	後期	0多L R横位						
42-6	270	1	後期	0多L R横位						
42-7		1	後期	0多R L横位						

図42 第30・31号土坑出土遺物 (1/3)

第32号土坑 (図43、図版13)

[位置] III D-31に位置する。[確認] III層で確認した。[平面形] 円形を呈する。

[規模] 長軸1 m20cm、短軸95cm、深さ10cmを計る。[堆積土] 2層に分層した。自然堆積と思われる。

[壁] 緩く外傾して立ち上がる。[底面] 平坦である。[出土遺物] 土器細片が1点出土した。

[時期] 不明。

第33号土坑 (図43、図版13)

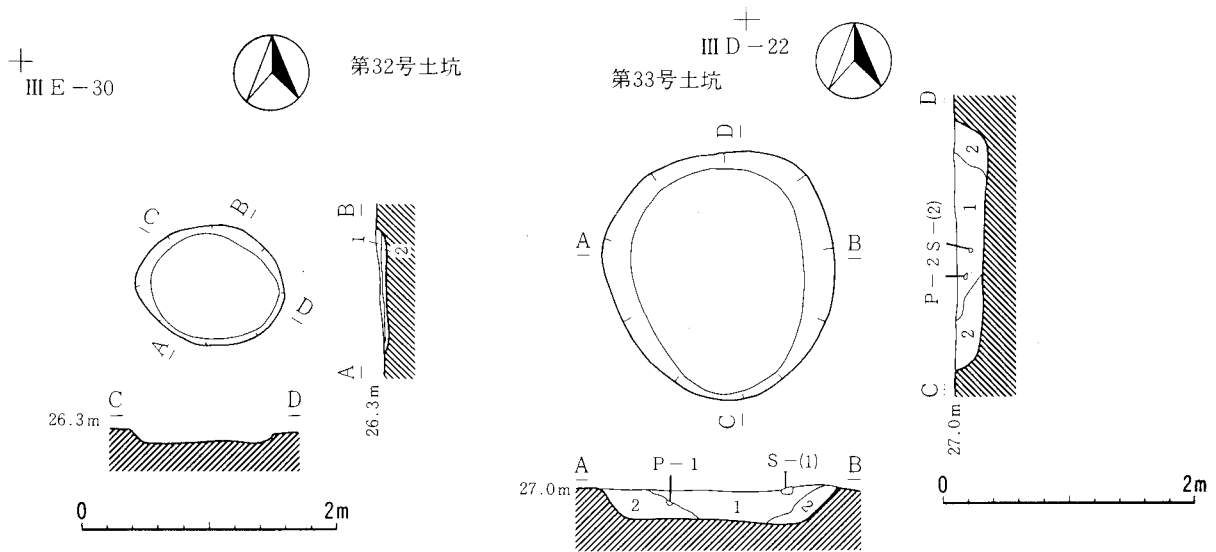
[位置] III C-23に位置する。[確認] III層中で南部浮石を多く含む暗褐色土を確認し、トレンチにより落ち込みであることを確認した。[重複] 認められなかった。

[平面形] 円形を呈する。

[規模] 開口部で径1 m75cm×1 m95cm、深さ29cmを計る。[底面] ほぼ平坦である。

[壁] 底面から丸味を持って、やや外傾して立ち上がる。[堆積土] 2層に分層された。第1層は南部浮石を多く含む暗褐色シルトである。[出土遺物] 土器片・石錘が出土した。土器はいずれも堆積土から出土し、遺構外出土土器と接合した。本遺構廃絶後に流れ込んだものと考えられる。

[時期] 確認面、堆積土の様相から縄文時代早期中葉と考えられる。

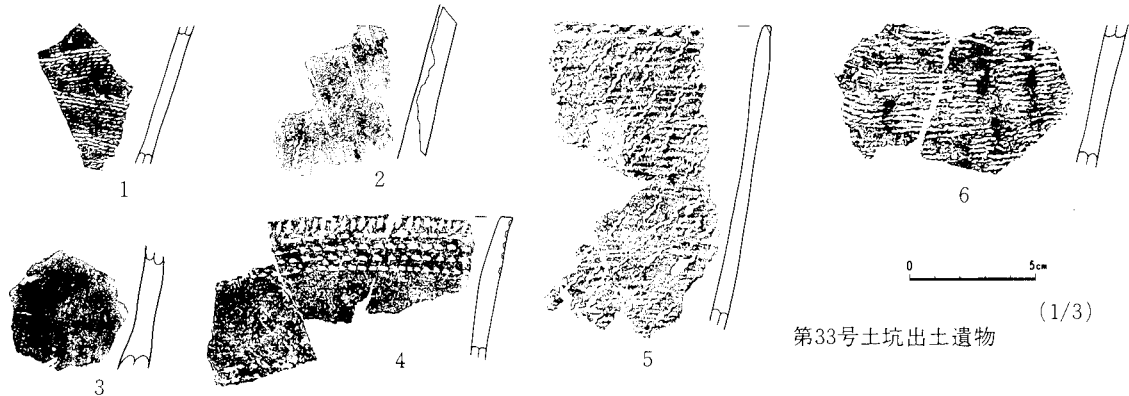


32号土坑

1層 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルト やや固くしまりあり。φ1mm~2cmの南部浮石多量。
 2層 褐色 (10YR3/3) 砂混じりシルト 固くしまりあり。φ1mmの南部浮石微量黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトを微量含む。

33号土坑

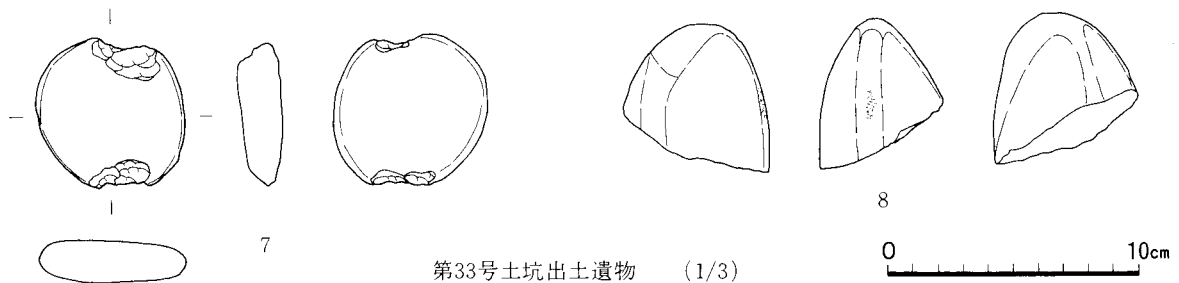
1層 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルト 固くしまる。φ5mm~1cmの南部浮石多量、φ5mm~1cmの炭化物微量含む。
 2層 褐色 (10YR4/6) 中粒砂質シルト しまり固い。φ5mm~1cmの南部浮石多量含む。



第33号土坑出土遺物

(1/3)

図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
43-1		2	早期中葉	単結1類	ミガキ				R横位 P-6
43-2		2	早期中葉	ミガキ	ミガキ				P-7
43-3		2	早期中葉	ミガキ	ミガキ				P-5
43-4		1		口唇部刻み 刺突	ナデ				P-2 遺構外P-977 1472と接合
43-5		1	早期中葉	口唇部刻み 腹縁圧痕	ミガキ				P-3 遺構外P-646 1461と接合
43-6		1	早期中葉	単結1類	ミガキ				P-4 遺構外P-481と接合



第33号土坑出土遺物 (1/3)

図版番号	整理番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	分類	備考
43-7	316	1	5.9	6	1.8	77.7	安山岩	9	S-1
43-8	312	1	5.2	5.7	5.8	160.7	安山岩	8 d	S-(3)

図43 第32・33号土坑

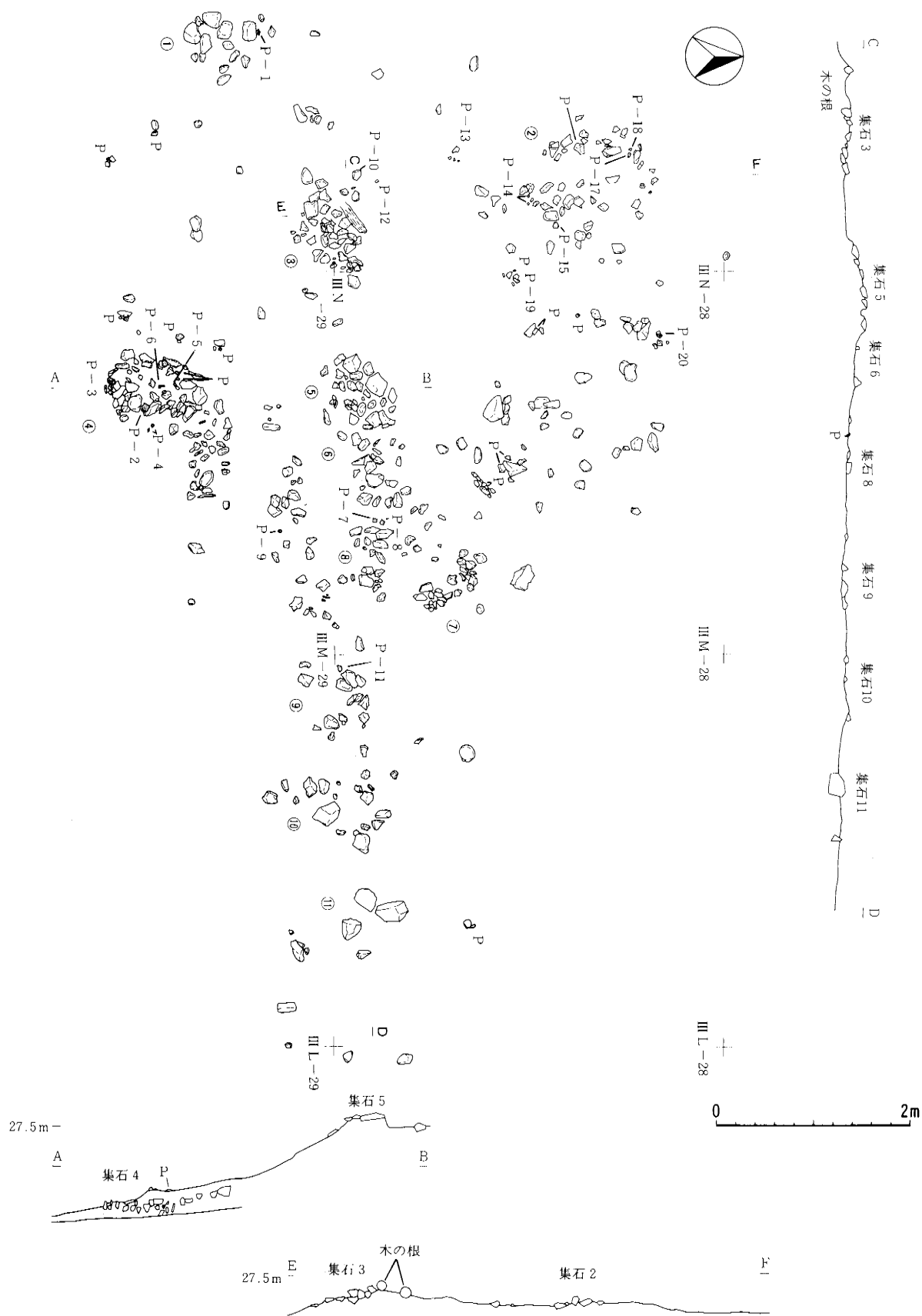
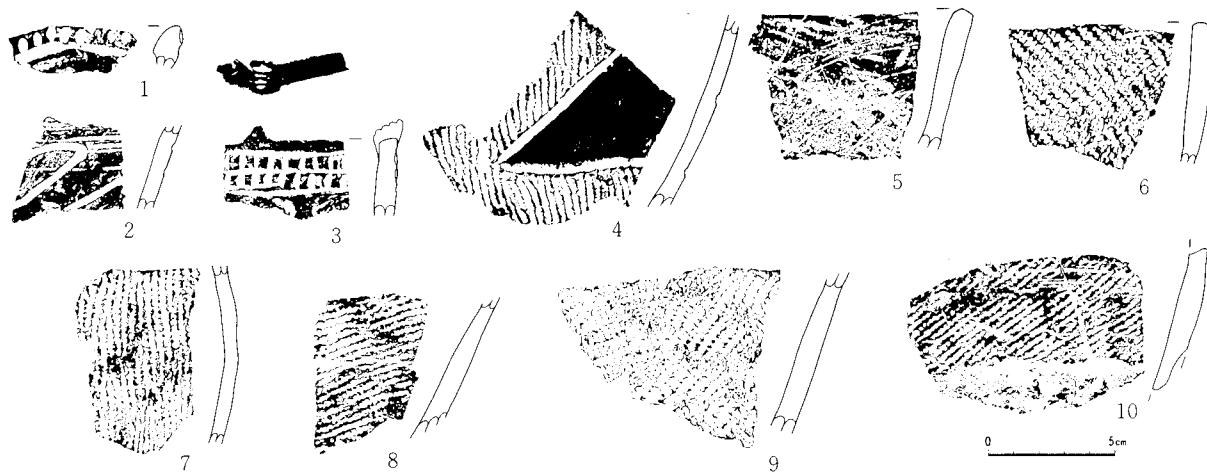


図44 集石遺構

集石遺構 (図44・45、図版14・15)

[位置] III L-29・30、III N-29・30に位置する。[確認] II層で確認した。[規模と形状] 約9.7m×5.8mの範囲に、礫が11のブロックを形成し集中する。それらのブロックは、南北軸・東西軸を基準に形成されると考えられる。集石下に遺構は確認されなかった。各ブロックの規模は、以下の通りである。(単位cm) 1…約94×74、2…約154×146、3…約124×74、4…約104×86、5…約100×76、6…約70×60、7…約80×68、8…約80×56、9…約100×70、10…約134×100、11…約72×66

[出土遺物] 礫の間や周辺の土層から縄文時代後期前葉～中葉の土器片が出土した。[時期] 出土遺物から縄文時代後期前葉～中葉頃に形成されたと考えられる。



図版番号	整理番号	層位	時期	施文文様及び調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
45-1	247		後期中葉	沈線 刻目 ミガキ	ミガキ				P-4
45-2	249		後期前葉	沈線	ナデ				P-19
45-3	248		後期前葉	沈線 爪形文 ミガキ ナデ	ナデ				P-14
45-4	250	II a		沈線 L R斜位 ミガキ	ミガキ				
45-5	243		後期前葉	条痕	ケズリ ミガキ				P-8
45-6	251	II a		R L 0 段多条横位	ミガキ	(19.8)			
45-7	242			L R斜位	ナデ				P-19
45-8	244			L R斜位	ナデ				P-14
45-9	245	II a		L R 0 段多条横位	ミガキ				P-5
45-10	246			L R横位	ナデ				P-20

図45 集石遺構出土遺物 (1/3)

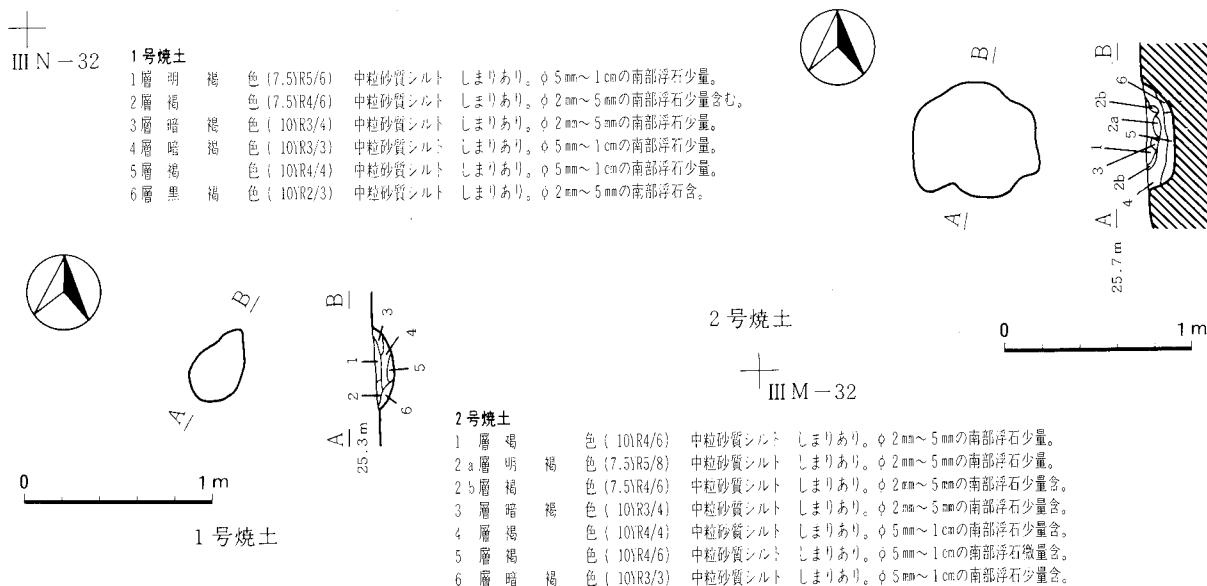


図46 第1・2号焼土 (1/40)

第1号焼土 (図46、図版15)

[位置] III M-32に位置する。[確認] III層で検出した。地面が赤変しており、周囲に床面は確認できなかった。[規模等] 長軸40cm、28cmである。約10cmの深さまで被熱のため赤変している。[時期] 遺構に伴う遺物が無く詳細は不明である。周辺の遺構・遺物のあり方から後期の可能性が高い。

第2号焼土 (図46、図版15)

[位置] III L-31に位置する。[確認] III層中で検出した。周囲に床面は確認されなかった。[規模等] 短軸65cm、長軸70cm、約15cmの深さまで赤変していた。[時期] 遺構に伴う遺物が無く詳細は不明である。周辺の遺構・遺物のあり方から後期の可能性が高い。

(2) 時期不明の遺構

第1号土坑 (図47)

[位置] I T-6・7、II A-6に位置する。[確認] III層上面で確認した。[平面形] 隅丸方形を呈する。[規模] 長軸2 m 2 cm、短軸1 m 70 cm、深さ34 cmを計る。[堆積土] 2層に分層した。自然堆積される。[壁] 緩く外傾して立ち上がる。[底面] 平坦であるが、中央付近に長軸46 cm、深さ8 cmを計るピットを確認した。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

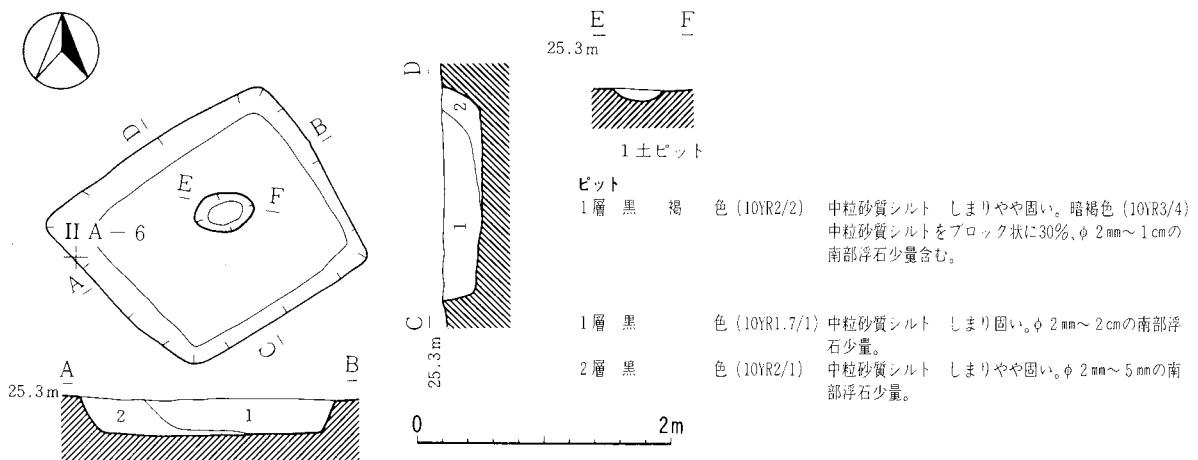


図47 第1号土坑

第1号溝 (図1、図版15)

[位置] II A~II J-4~19に位置する。[確認] III層上面、一部II a層で確認した。
 [平面形] 調査区外に広がるため全貌は不明である。調査区外から南西方向に走り、南東方向に屈曲する。
 [規模] 幅34cm~1 m 32 cm、深さ9.2 cm~46 cmを計る。[堆積土] 自然堆積と思われる。[壁・底面] 底面から緩やかに外傾して立ち上がる。[出土遺物] 土師器片が数点出土した。[時期] 不明。

道路状遺構 (図1、図版16)

[位置] III H-16・17・18に位置する。[確認] 第I層直下で固くしまった面を確認した。[規模] 幅約2 mで、調査区内では長さ約6 m分が検出された。ほぼ平坦である。[出土遺物] なし。[時期] 不明。

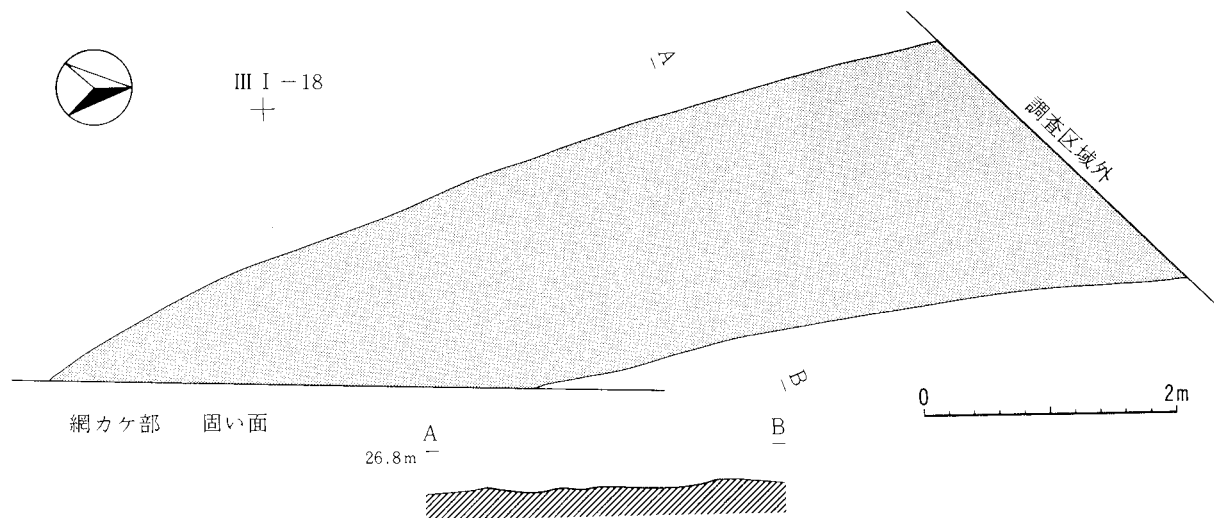


図48 道路状遺構

畝状遺構（図1、図版17）

〔位置〕 I T～II C-5～8に位置する。〔確認〕 II a層で確認した。〔平面形〕 調査区外に広がるため全貌は不明である。北東-南西方向に形成されている。〔規模〕 幅46cm～1 m26cm、高さ34cmを計る。

〔堆積土〕 自然堆積と思われる。〔断面形状〕 II a層を掘り込み畝を形成している。溝は底面がほぼ平坦で、緩く外傾して立ち上がる。畝は台形を呈する。〔出土遺物〕 土師器片が数点出土した。

〔時期〕 不明。

第3節 遺構配置等について

(1) 遺構配置

本遺跡は前述のように、馬淵川右岸の、南北を枝谷によって限られた段丘面に立地する。調査区南西部は、急崖をなして枝谷へと落ち込む。後期の住居跡・土坑・配石はこの急崖直上の平坦面の比較的狭い範囲に近接して存在する。

これに対して、早期中葉の住居跡は、より段丘面中央寄りに位置し、約60×60mの範囲に散在する。

時期不明の土坑のうち、堆積土が基本層序II a層に類似するものは早期の住居跡の分布範囲に重なってみられる。時期の詳細は不明だが、中掇浮石の降下後、縄文時代前期中葉以降の可能性はある。堆積土がII b層に類似するものは、調査区西部、後期住居跡の北側に3基が位置する。時期は中掇浮石降下以前の可能性が考えられる。

いわゆる溝状ピットは5基検出されたが、その配置に規則性は見られない。

(2) 早期の住居跡と南部浮石の関係について

早期の住居跡（1・2・3・5・6・7号住居跡）の堆積土上位には、南部浮石が多く含まれていた。6・7号住居跡では特にその量が多かった。一方、遺構外の土層、言い換えれば平坦部分の土層には南部浮石が集中する状況は認められなかった。すなわち、南部浮石の降下後、自然営力により平坦部分の南部浮石は移動したが、窪地（埋まりきっていない遺構）に残存・流入したものと考えられる。従って、早期中葉の住居跡は南部浮石の降下以前に構築・使用・廃棄されたものと考えられる。

第4章 遺構外出土遺物

本遺跡からは、縄文時代早期、後期、晩期の土器・石器および土師器片が出土した。このうち主体となるのは縄文時代早期と後期の土器である。縄文時代晩期の土器は破片が少量出土した。土師器は小片数片が出土したのみである。従って石器の大部分は早期・後期のものであろう。

第1節 縄文時代早期の遺物

(1) 土器

本遺跡から出土した早期の土器は2群に大別される。I群は早期中葉に比定される土器、II群は早期後葉に比定される土器である。I群は、第I～III層より出土したが、III層中に最も多く包含される。II群土器はI～III層中に包含される。出土量は破片で数十片である。II J～III E-20～27に分布するが、II R～III C-24ライン以南に多い。

III層中の遺物は出土位置を記録して取り上げた(図49・50)が、掘削時に掘り上げたものはグリッドを記録するにとどめた。出土位置を記録して取り上げた土器は、およそ2300点である。そのほとんど全てがI群土器で、II群土器は数片である。従って、分布図に示した土器はほとんど全てがI群土器と考えて差し支えない。

遺構内から出土したI群土器は少量で、遺構外出土のI群土器と接合するものがあり、遺構廃絶後流れ込んだものと考えられる。遺構内からII群土器は出土しなかった。従って、早期中葉の遺物廃棄ブロックが形成された時点では、住居跡には上屋が存在していたと考えるのが妥当であろう。

I群土器 縄文時代早期中葉の土器(図53～図55、図版20～22)

小破片が多く、全体像の不明なものが多い。そこで、一旦属性単位でのバラエティを模式的に示した上で(図51・52)、口縁部破片を中心に分類を行うことにする。

1類(図53-1～3) 細斜格子文と帯状平行沈線が施されるもの。

1は細斜格子文と帯状平行沈線が施される。斜格子文の空白部には爪形刺突が充填される。上位の文様帯には爪形刺突が施される。2・3には帯状平行沈線は確認できないが、1と同様な構成をとる可能性が高い。1～3を総合すれば、文様帯は爪形刺突と沈線により、3段ないしはそれ以上の多段構成となると考えられる。爪形刺突に伴う粘土のまくれは微弱である。沈線に伴う粘土のまくれは認められない。沈線幅は1.5～2mmである。胎土には石英と、角閃石か輝石とみられる鉱物が目立ち、内外面とも触感がザラつく。

2類(図53-4) 帯状平行沈線・爪形刺突による文様帯の下に沈線による曲線文が施されるもの。

下位の文様に帯施された曲線文は、屈曲部で沈線が交差する、あるいは接触しないなど、粗雑である。爪形刺突に伴う粘土のまくれは微弱である。胎土にはパミスと思われる、軟質で黄褐色の小礫を含む。外面は触感がザラつく。沈線幅は約1～1.5mm。

3類(図53-5) 帯状平行沈線による幾何学文を描くもの。沈線は5条一単位で、幅は約1mmと細

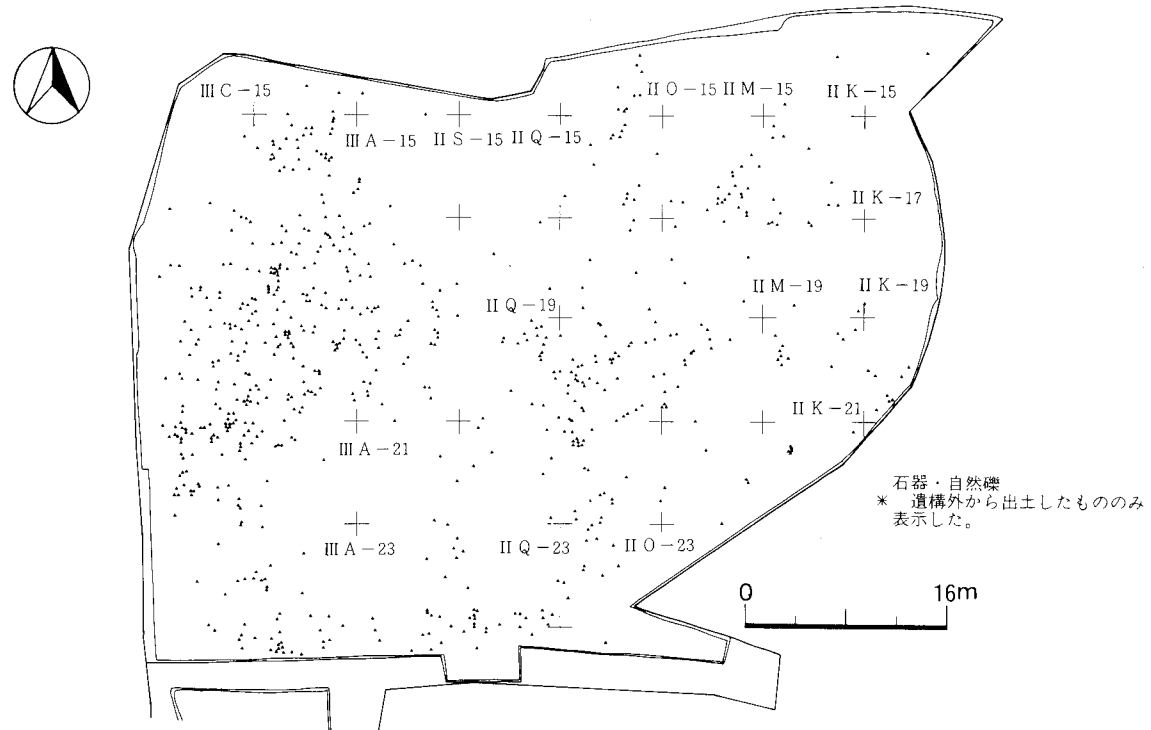
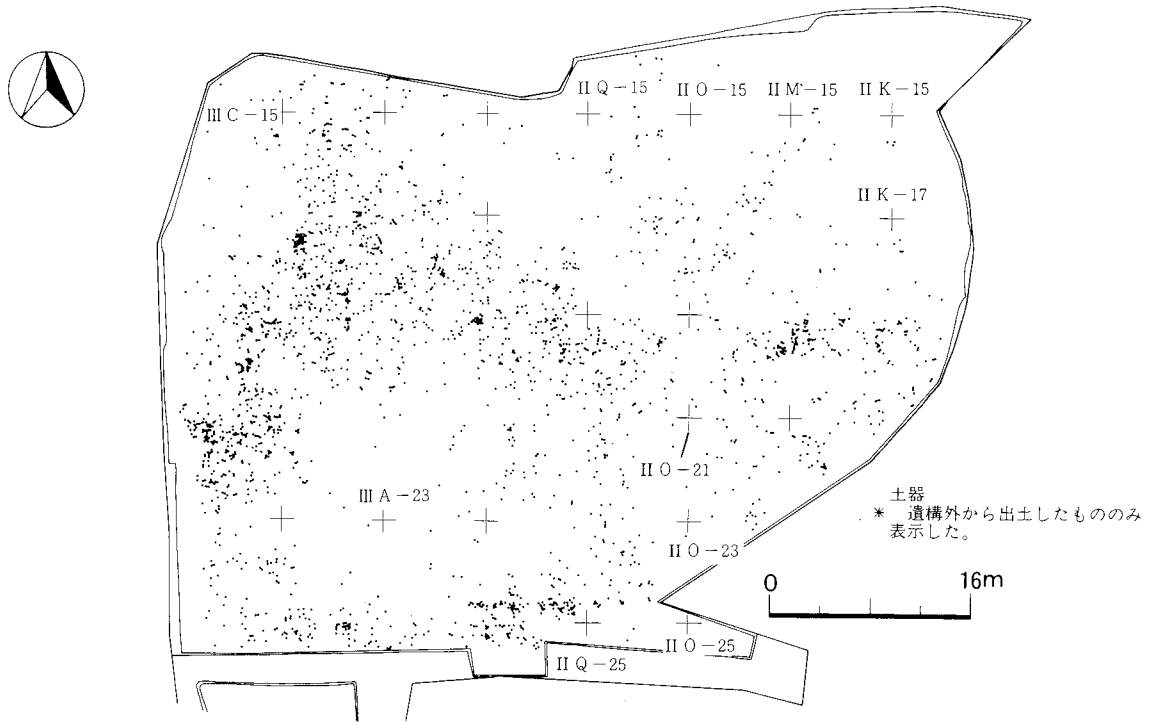


図49 第三層遺物分布状況(1)

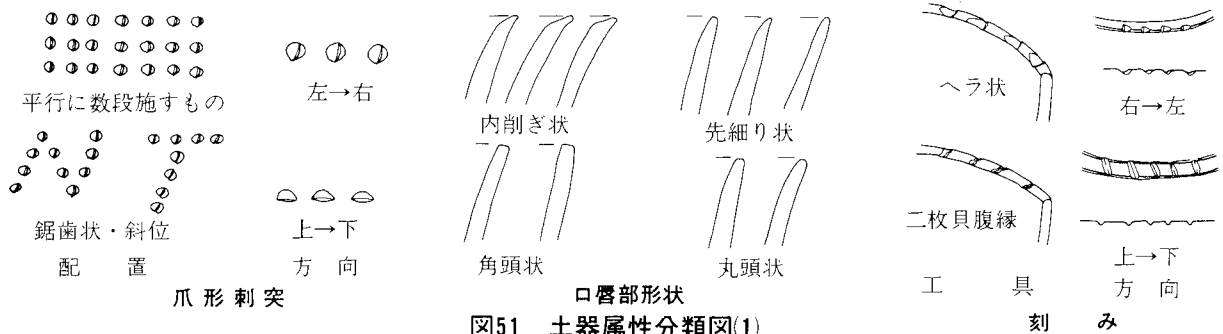


図51 土器属性分類図(1)

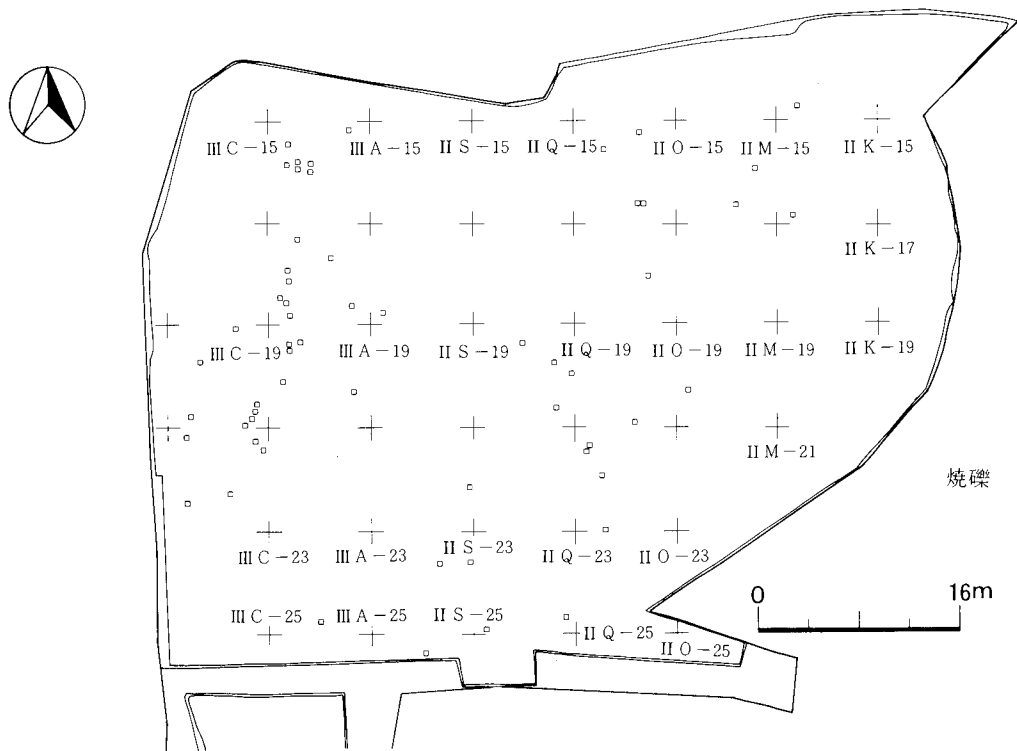
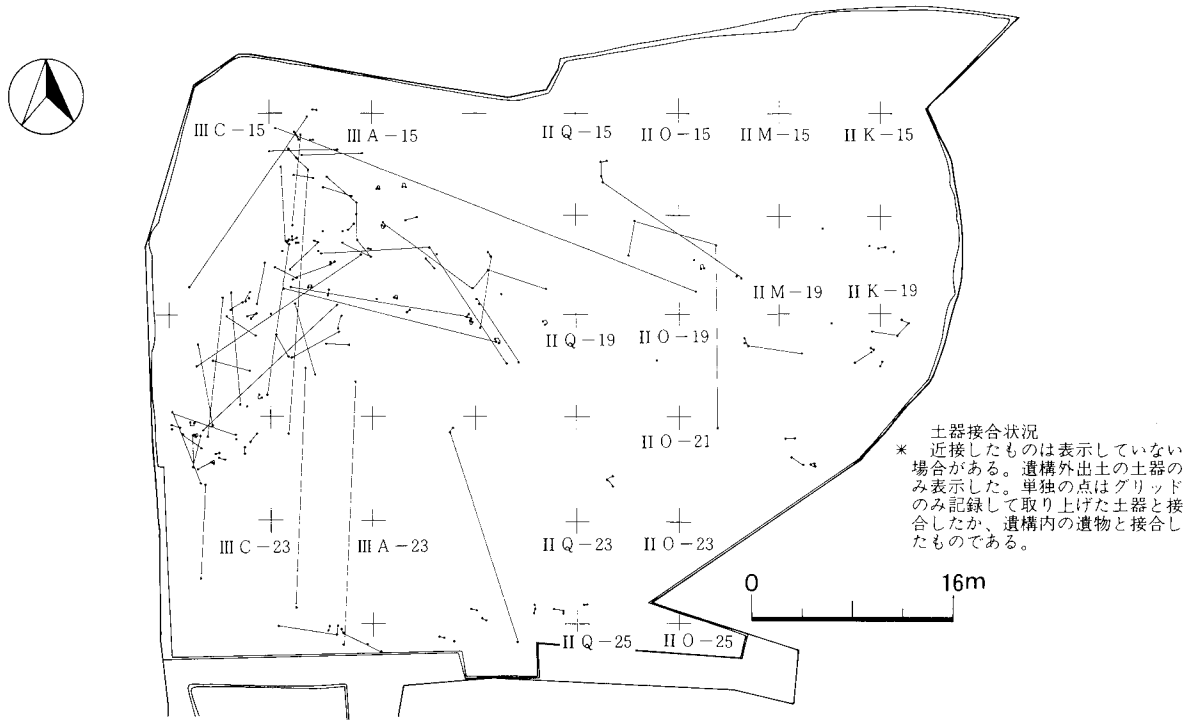


図50 第Ⅲ層遺物出土状況(2)

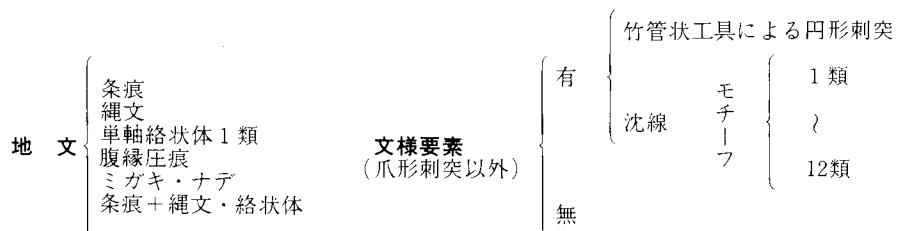


図52 土器属性分類図(2)

- い。地文は、L原体を用いた単軸絡状体1類の横位回転による。
- 4類(図53-6~8) 沈線により斜格子文が描かれるもの。6は、幅広の口縁部文様帯に斜格子文と爪形刺突が施される。爪形刺突・沈線による粘土のまくれは認められない。沈線は先端の鋭い棒状工具による。7・8は6に比してやや粗い斜格子文が描かれる。
- 5類(図53-9~16) 沈線により、上下の幅の広い鋸歯文が施されるもの。9~13は文様帯の上限・下限に爪形刺突が施される。14は文様帯を限る刺突列や沈線のない例。沈線施文後にミガキが施され、沈線が分断されている。16は文様帯の下限が沈線で区切られるものである。
- 6類(図53-17) 幅の狭い平行沈線の中に二条一単位の沈線で鋸歯文が描かれるもの。
- 7類(図53-18~20) 沈線により、左右の幅の広い鋸歯文が施されるもの。鋸歯文の間には爪形刺突が施される。口唇部は内削ぎ状を呈し、内面に斜格子文が描かれる。
- 8類(図53-21~26) 平行沈線が施されるもの。22は波状口縁の可能性はある。
- 9類(図53-27・28) 斜線による区画の中に弧線を配するもの。
- 10類(図53-29) 沈線による連弧文が施されるもの。
- 11類(図53-30) 沈線による格子目文と貝殻腹縁圧痕が施されるもの。
- 12類(図53-31・32) 胴部下半~底部付近に沈線文が施されるもの。沈線幅は約1mmで、へら状工具により鋭く引かれている。沈線はミガキ調整によってつぶれた部分が無く、ミガキ後に施されたと考えられる。
- 13類(図53-33~41) 爪形刺突が鋸歯状、あるいは斜位等に施されるもの。沈線を施す土器と同様のモチーフを描出するものがあり(41と5、40と18など)、沈線を爪形刺突に置換したものと考えられる。
- 14類(図53-44・45) 口縁部文様帯に平行に爪形刺突列を配し、下端を沈線で限るもの。44は爪形刺突の間にも平行沈線を施す。
- 15類(図54-46~66) 口縁部に平行して数段の爪形刺突が施されるもの。爪形刺突の間隔が密なもの、疎なもの(59・63~65)がある。刺突を縦・横に配する例(51)がある。また、口唇部の刻みが短沈線に近く、貝殻腹縁圧痕と爪形文を施す例がある。
- 16類(図54・55-67~90) 地文のみ施されるもの。条痕のみ施されるもの(67~70・73)、縄文が施されるもの(71~75)、絡状体が施されるもの、条痕と縄文が施されるもの(85~87)、腹縁圧痕の施されるもの(89・90)がある。71・74はL R縄文が施される。75はr縄文が施される。78はLの縄を用いた単軸の絡状体かと思われるが、節の形状は通常よりつぶれて丸味を帯びる。79も条の方向と施文方向が一致するとみられ、Rの縄を用いた単軸の絡状体による施文の可能性が考えられる。しかし、節は丸味を帯び、施文方向に対して縦長にならず、直角に近い角度になっているため、通常の絡状体による施文とは考えにくい。80も条の方向と施文方向が一致する。節は79・80ほど丸味を帯びないが、条が密接し波状を呈している。原体の幅は最大1cm程度である。巻き方の緩い絡状体であれば、条の間隔に乱れがあると想定されるが本例は密接している。
- 17類(図55-91) 狭小な口縁部文様帯に貝殻腹縁圧痕が施されるもの。
- 18類(図55-92・93) 竹管状工具による円形刺突が施されるもの。
- 胴部破片(図55-95~104) 地文のバラエティを示すために提示した。条痕、縄文、絡状体(96~

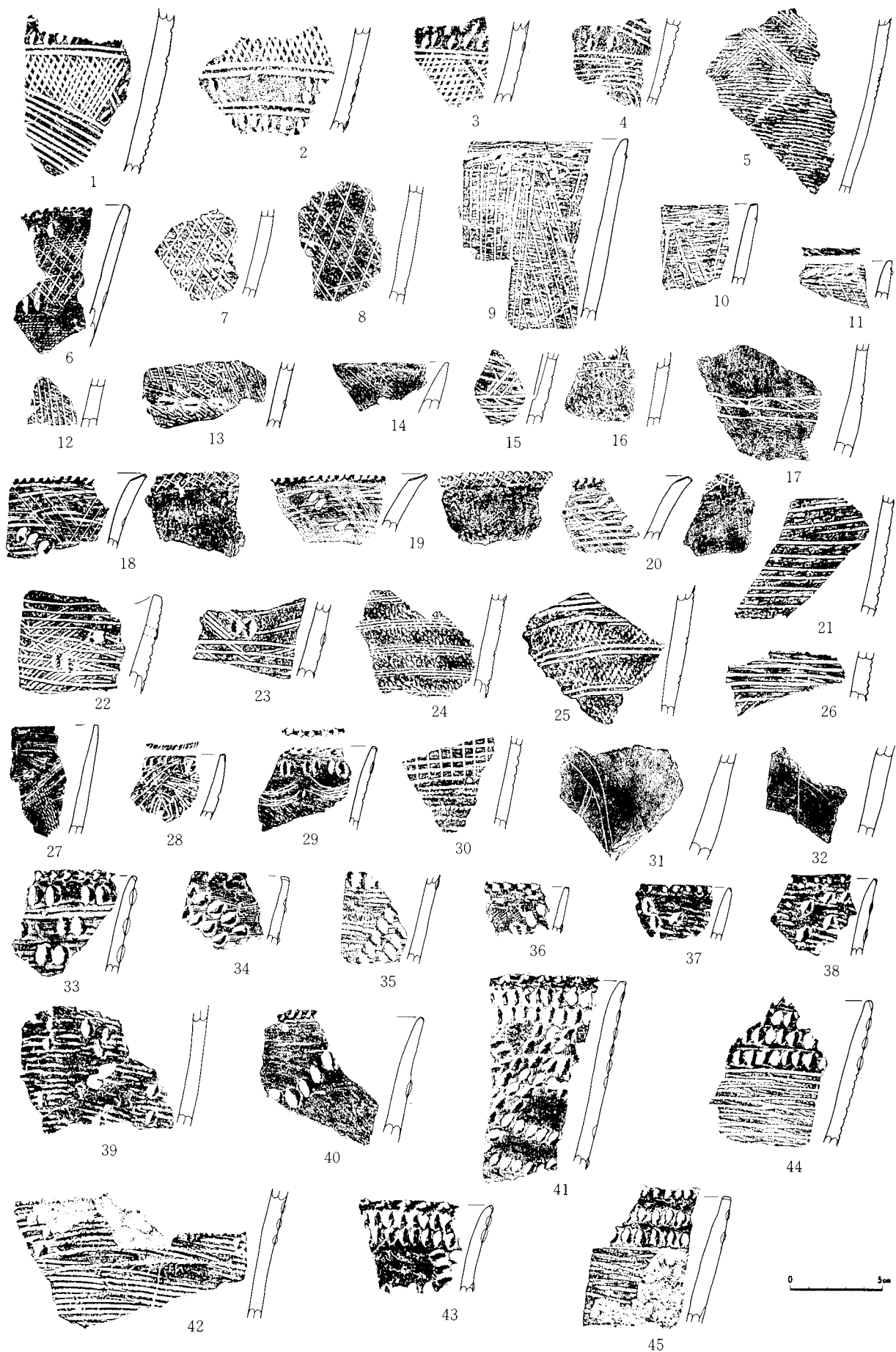


図53 早期の土器(1) (1/3)



図54 早期の土器(2) (1/3)

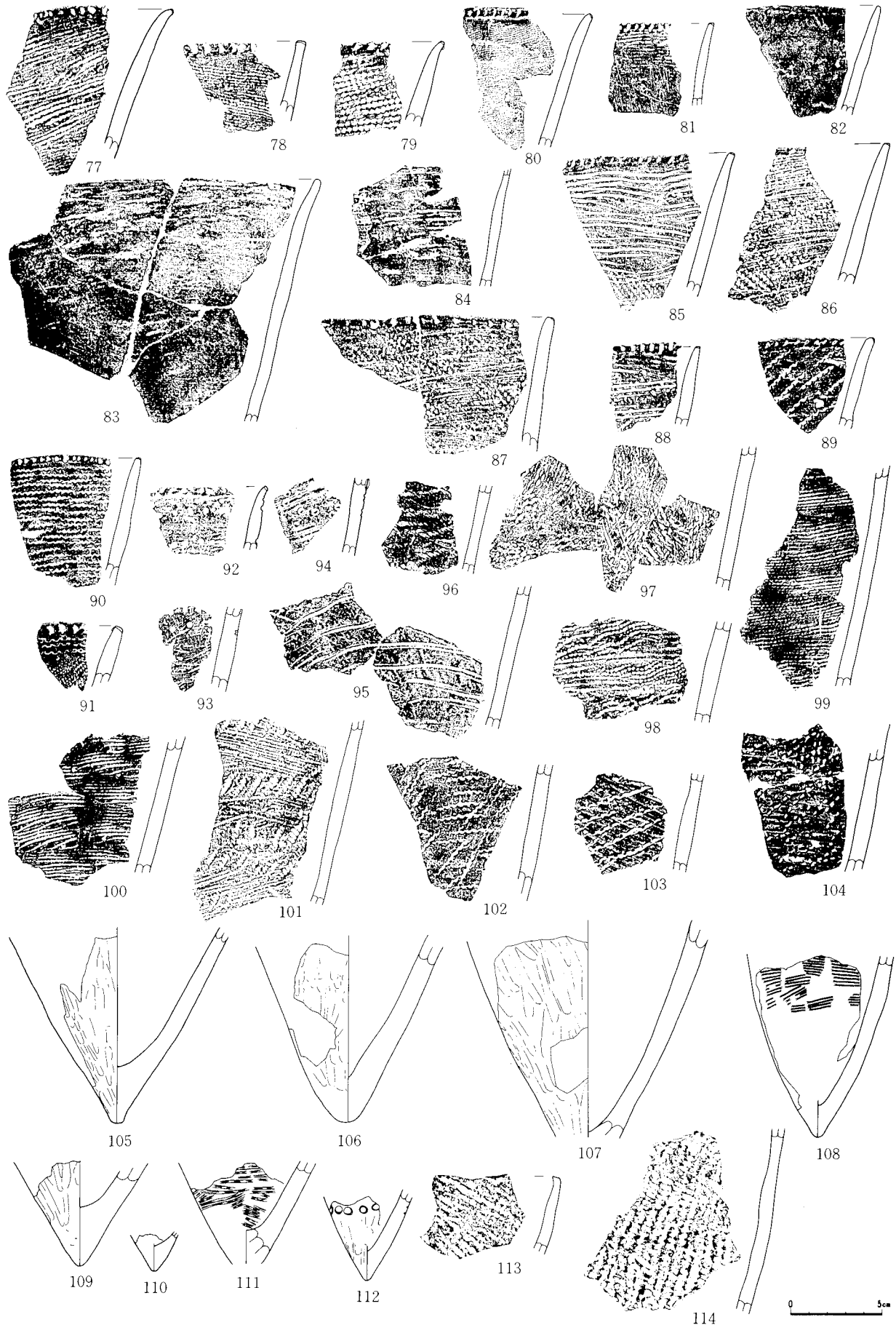


図55 早期の土器(3) (1/3)

100)、条痕と縄文・絡状体が同一器面に施されるもの(101)、植物質(?)の原体による粗雑な沈線が施されるもの(95)、腹縁圧痕(102~104)などが見られる。量的には条痕が最も多い。縄文・絡状体がこれに次ぎ、ナデ・ミガキや腹縁圧痕は少ない。

96は条間の開く単軸絡状体が横位に回転施文される。97は単軸絡状体1類が施文されるが、一部に原体の滑った痕跡が認められる。98は条方向と施文方向が一致する。単軸の絡状体と考えられるが、条の圧痕が波状を呈し、条間が密接する。また、節の形状は丸味を帯びる。99はRの縄を用いた単軸絡状体1類が横位に施文される。101は条痕調整後、0段多条LR縄文が横位回転される。底部破片(図55-105~112) 胴部下位~底部はミガキ調整が施されるものが一般的で、地文や文様要素が施されるもの(111・112)は稀である。110は小型の土器である。

II群土器(図55-113・114) 縄文時代早期後葉赤御堂式に比定される土器。胎土には繊維を含む。

0段多条のLR縄文が施される。内面には指押さえの痕跡が顕著に認められる。図示していないが表裏縄文の個体も見られる。

小結

I群土器は、縄文時代早期中葉のなかでも、白浜式あるいは白浜・小船渡平式土器群とされるものに相当しよう。地文のなかには、根井沼式・寺ノ沢式に多い貝殻腹縁圧痕文が極く少量認められるが、口唇部が外傾するものは認められない。また、絡状体圧痕による口唇部の刻みも認められない。従って、根井沼式・寺の沢式は含まない、あるいはあっても極めて量が少ないと考えてよい。上記のうち、1~12類は沈線を用いるものであり、白浜式に伴う例はあまり多くない。1~3・5・7類は、盛岡市大新町遺跡例や関東地方の三戸式~田戸下層式との関連を有すると考えられる。ただし、三戸式と平行関係にある(青森県教委 1991)かどうかは検討が必要である(岡本 1997、領塚 1992)。

これら沈線文を有する土器、あるいは地文に縄文・絡状体を有する土器は、従来の白浜式の理解からはずれる部分もあろう。しかし、胎土・調整・器形などの諸点において、15類としたもののなかでも、条痕を地文とする典型的な白浜式と変わらない。ただし、1類は胎土に若干の差が見られる。今後、出土状況の更なる検討が必要だが、沈線文の土器や縄文・絡状体を施した土器が集中して出土する傾向は認められないようだ。ただし、遺物の接合関係からは、遺物の集中範囲が3単位程度には分離できる可能性があり、単位毎に比率が異なる可能性はある。

これまで該期の土器は僅少な資料に基づいて、同時期のバラエティや地域性を十分に考慮しないまま扱われてきたきらいがある。I群土器は、今後遺跡単位・遺構単位の一括資料が蓄積された段階で細分される可能性、あるいは白浜・小船渡平式土器群の一細分型式となる可能性を否定しないが、現段階では(ある一定の時間幅のなかで)一つのまとまりを持った土器群としてとらえるのが妥当であろう。

縄文・絡状体を地文とする土器は青森県下でも南部地域に多く、六ヶ所村周辺にはあまり分布しない。縄文・絡状体を地文とする土器は、管見にふれた限りでは岩手県北部(白浜式:平船遺跡、小堀内I遺跡)、岩手県南部(蛇王洞II式:蛇王洞遺跡)、福島県に分布するようだ。北海道(ノグツブI式)では縄文は認められるが地文としての絡状体は知られていないようである。福島県下では三戸式~田戸下層式平行に位置づけられる例があり、絡状体の回転方向が横位~斜位に限られる、原体は

細いものが多いなどの特徴があり、本遺跡例と共通する。また、福島県下では2段の縄を母体とした自縄自巻原体の回転施文の可能性が指摘されているものがある。その特徴は、条が密接し、回転方向と条の方向が一致する、しかし、通常の絡状体より節が丸味を帯びる、とされる（福島県教委 1993）。あるいは、条がやや波状を呈し、節が密接するとされる（福島県教委 1994）ものもある。これに類すると考えられるものが本遺跡でも見られる（図55-78~80・98）。本群土器の成立については今後東北南半・関東との関係も問題となろう。

(2) 早期の石器・焼礫（図56~図58、図版23）

第Ⅲ層からは石器・自然礫合わせて約700点が出土した。いずれも土器と混在していた。これらのなかには焼礫も含まれる。しかし、焼礫が集中して出土することはなかった（図50）。本遺跡では、第Ⅲ層以下には八戸火山灰・高館火山灰が数mの厚さで堆積しており、この中に礫は含まれない。調査区は上位段丘との段丘崖からも離れているため、自然営力によって流入したことも考えられない。したがって本遺跡で出土した自然礫は人間の手で持ち込まれたものと考えられる。以下に石器の分類を示す。

- 1 類 石鏃（図56-1~3） 平面形が五角形を呈するもの（1・2）と三角形を呈するもの（3）がある。石材は珪質頁岩が用いられるが、黒曜石製のものも1点出土した。
- 2 類 石槍（図56-4・5） 4は平面形がやや丸味を帯びる。調整は比較的粗い。5は基部から3分の2程度が分厚いまま残される。調整は比較的粗い。
- 3 類 不定形石器（図56-6~17） 6は縦長剥片を素材とし、基部に深い剥離が片面から施される。7は、石槍を素材とする可能性がある。折損（折断？）面に若干の加工が施されている。基部にはやや大きめの剥離が片面から施されている。両者とも基部に大きめの剥離が施され、抉り状になることから、縦型石匙のつまみに類した機能を持つ可能性も考えられる。9は一側縁に急角度の剥離が施される。10~12・15・16は側縁部に調整が施される。14は折損品の可能性があるものである。
- 4 類 二次加工のある剥片（図56-18） 厚みのある剥片に二次加工が施されている。3点出土した。下田町中野平遺跡にも類例がみられる（報文151図-291）。
- 5 類 磨製石斧（図57-19~22） 偏刃・両刃のもの（19・21）、直刃・片刃のもの（20）がある。基部はいずれも断面長方形（19）ないしはそれに近い形である。また、全体に器厚は薄い。22は成形時の擦痕が認められる。敲打痕は認められない。基部が三角形を呈しており、未製品とも考えられる。磨製石斧は断面が長方形で器厚が薄いこと、さらには22のように擦痕を持ちながら定型的な石斧の形状を成さないものの存在から擦り切り技法により製作された可能性が高い。
- 6 類 砥石（図57-23・24） 23はスリ面が破断面より新しい。大きさからすれば、石皿とは考えにくく砥石とした。24は砂岩製で、軟質である。
- 7 類 石皿・台石類 石皿・台石類は遺構内から出土した。
- 8 類 敲磨器類
 - a 凹石〔側縁部にタタキのあるもの含む〕（図57-25・26）
 - b 敲石（図57-27）
 - c 円礫を用いる磨石（図57-29）

- d 三角柱状磨石（図58-30~32）
- e 偏平な円礫の長側縁を用いる磨石（図58-33）

9類 石錘（58図-34・35） 長軸上に切込みを持つもののみ出土した。重量はおよそ30~150gの間に分布する。

10類 偏平な円礫の長側縁に敲打痕を持つもの（図58-36~38） 中野平遺跡F類III kに相当する。一側縁にのみ敲打痕を持つもの（37・38）、二側縁に敲打痕をもつもの（36）がある。

11類 角柱状の安山岩礫の一長側縁に敲打痕を持つもの（図58-39）

器種組成比は図56に示した。剥片石器の出土量は少ない。また、定型的な剥片石器は石鏃と石槍のみである。この時期にしばしばみられるトランシェ様石器は出土しなかった。石錘が少ないのは立地を反映している可能性がある。

（中村）

第2節 縄文時代後期初頭以降の遺物

(1) 縄文時代後期初頭~晩期の土器

I・II a・II b層から出土した土器が相当する。主にII a層から出土するが、層位的に把握することが困難であるため一括して分類を行う。確認できる器種として浅鉢、鉢、深鉢、壺、注口土器がある。鉢と深鉢の分類については、復元資料が少ないため、ここでは一括して分類を行う。分類に当たっては、第I群~第IV群・粗製土器に大別し、器種による分類、施文文様による細分を行う。なお大別については、第I群を後期初頭、第II群を後期前葉、第III群を後期中葉、第IV群を晩期以降とする。粗製土器の認識については、文様構成が単純で作りが雑な一群とする。I・II a層からはミニチュア土器や土製品も出土しているので、続いて記述する。

第I群土器（後期初頭の土器）

I 鉢・深鉢形土器（図60・1~14）

口縁部片は山形の波状を呈する。3は外側への折り返し口縁である。4~8は貼付けを施し、5・6は波頂部に刺突を施した貼付けを垂下させる。沈線間は充填技法や磨消技法による縄文帯と無文帯で形成される。

第II群土器（後期前葉の土器）

I 鉢・深鉢形土器

（施文文様による分類）

- A 沈線による方形的文様を施すもの
- B 沈線による曲線的文様を施すもの
- C 並行沈線を施すもの
- D 無文のもの

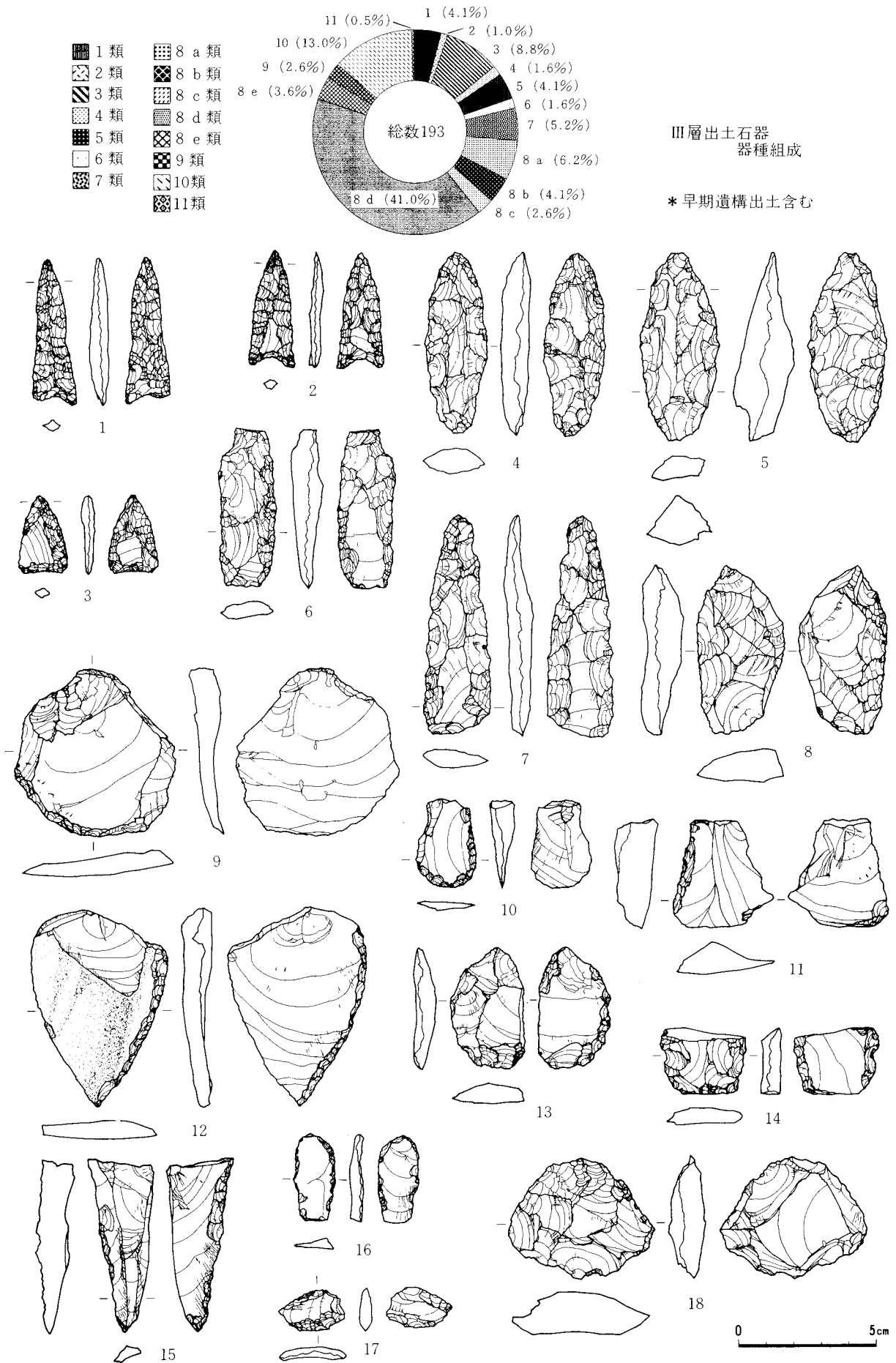


図56 早期の石器(1) (1/2)

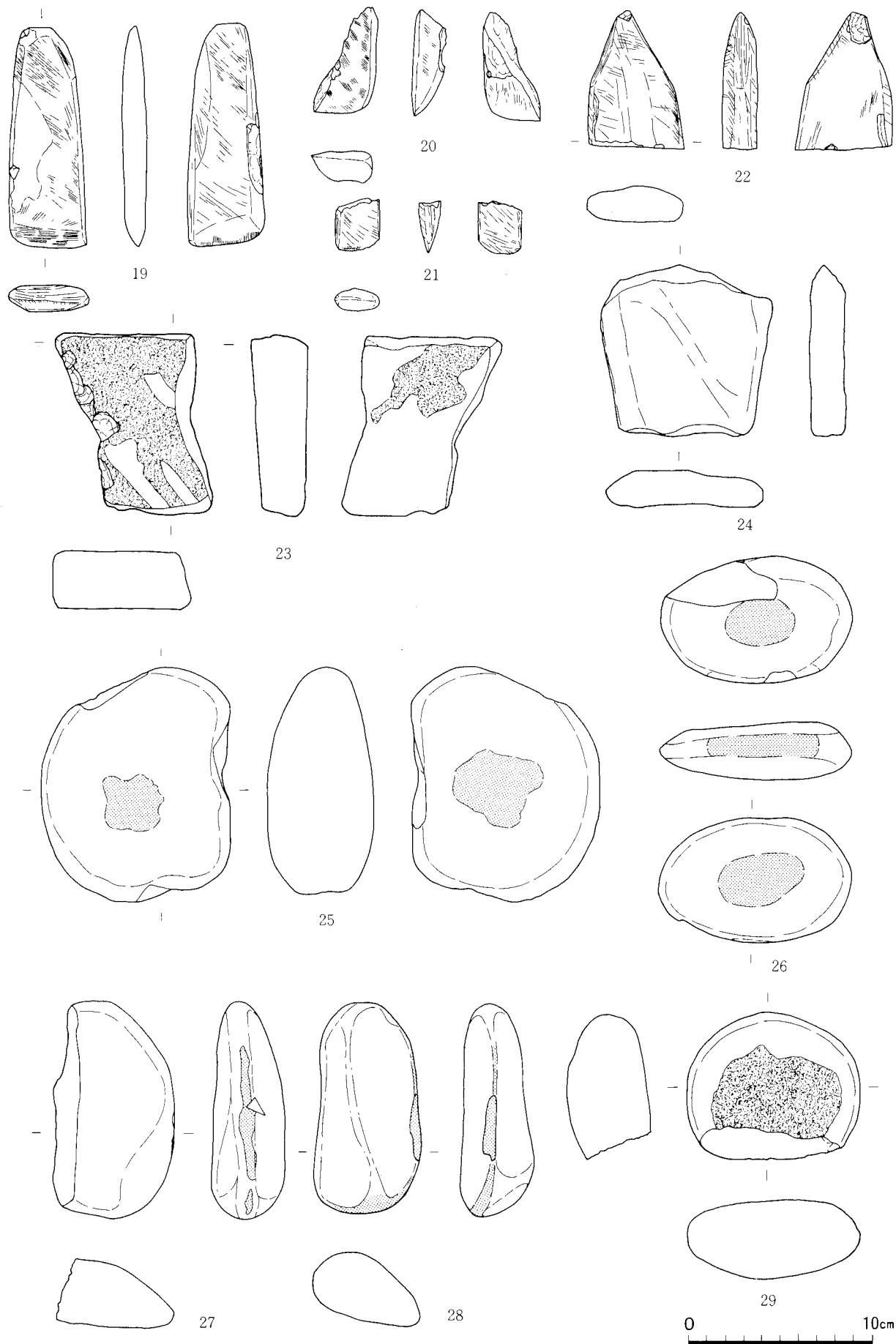


図57 早期の石器(2) (1/3)



図58 早期の石器(3) (1/3)

I A (図60-15) 15は沈線間にLRを充填した縄文帯とミガキによる無文帯を形成する。内面にはナデ調整を施す。

I B (図60-16~22) 16は体部上半に並行化する沈線を逆S字状に横位に連続して施す。全体にRが施されるが、一部ナデにより磨消されている。内面にはナデとミガキ調整を施す。17は頸部から体部上半にかけて横転S字状沈線を施す。文様帯は沈線間に充填によるLの縄文帯とナデによる無文帯で形成される。S字状沈線は横位に3単位施されると思われる。内面にはナデ調整を施す。口縁部は山形の波状を呈し、頸部で屈曲をもって緩やかに外反する。底部は平底で網代痕が残る。

I C (図60-23~26) 23は屈曲部に隆帯が貼付けられ、上下に並行沈線が施される。内外面に丁寧なミガキを施す。24は接合面に刻目を施している。26は最大径部分と思われ、穿孔した貼付けが施される。接合面には刻目が施される。細片であるがこの範疇と思われる。

I D (図60-27) 断面三角形の折返口縁を形成する。外面にミガキ、内面にはナデ調整が施される。

II 壺形土器 (図61-28)

最大径は体部中位にあり、縦長な算盤玉形を呈する。口縁部は外反し、底部はレンズ状に窪む。体部にLRを施し、下半部にはナデを施す。内面にはナデ調整を施す。

III 片口土器 (図61-29)

底部から注口側に前傾して立ち上がる筒状を呈する。口縁部は注口側に傾く。3単位の波状口縁で、緩やかに外反する。後部口縁には2ヶ所の穿孔がある。器表面にはLRが施されるが、体部下半はミガキにより磨消される。底部は中心部に窪みをもつ。内面にはナデ調整を施す。

第III群土器 (後期中葉の土器)

I 鉢・深鉢形土器

(施文文様による分類)

- A 並行沈線を施すもの
- B 沈線による曲線的な文様を施すもの
- C 鋸歯状沈線を施すもの
- D その他

I A (図61-30~36) 30・32~36は体部が直線的に開き、31はラッパ状に開く。並行沈線間には縄文帯が形成される。31は並行沈線間に弧状沈線を連続して垂下させる。32は沈線間にLR 0段多条の縄文帯を形成し、並行沈線をE字状に繋ぐ縦位沈線が施される。33は連続S字状沈線を縦位に垂下させる。35は1段目の縄文帯に刻目を矢羽状に施し、2・3段目には2個1対の刺突を施す。36は2段目以下の縄文帯に刺突を施す。

I B (図61-37~47) 37は体部が緩やかに外反する。LRを地文とし、沈線を施した後に沈線間をミガキによる無文帯とする。無文帯外は地文が一部残存する。38は体部がラッパ状に開く。沈線間にLRの縄文帯とミガキによる無文帯が形成される。内面にはミガキ調整を施す。43は体部が膨らみをもって立ち上がる。文様帯の構成は沈線間にLRを充填した縄文帯、ミガキによる無文帯、斜行する刻

目で形成される。44～46は同一個体と思われる。文様構成はRL0段多条羽状縄文を充填した縄文帯、ミガキによる無文帯、刻目で形成される。内面には接合時のナデ付痕が残る。

I C (図61-48) 5～8条の沈線が交錯する鋸歯状文を形成する。口縁部は山形の波状口縁を呈し、ミガキによる無文帯を形成する。口唇部は丸みをおび若干肥厚する。内面にはミガキ調整を施す。

I D (図62-49～63) 49～52・54・55は山形の波状口縁を呈し、口唇部が肥厚する。49は沈線で区画されたLRとミガキによる文様帯を形成する。内面にはミガキ調整を施す。他は内外面に丁寧なミガキを施す。55は内外面に雑なミガキを施す。58～61は口唇部が丸く肥厚し、端部に刻目を施す。58・59は波状、60・61は平口縁である。56・57は口唇部が断面三角形の山形波状口縁で、内外面にミガキを施す。54は山形の波状口縁で口唇部は肥厚する。沈線により区画され、LRとミガキによる文様帯が形成される。内面にはミガキ調整を施す。53は縁辺部に刻目を施した装飾突起で丁寧なミガキを施す。63は直線的に内傾する底部である。内外面にミガキを施す。

II 浅鉢形土器

(施文文様による分類)

A 並行沈線を施すもの

B 沈線による曲線的文様を施すもの

C その他

II A (図62-64～72) 64～71は体部がほぼ直線的に開く。64は肩部下に8条の沈線を横位に施す。沈線間はLRの縄文帯が形成される。横位沈線間は上下2条目から連続S字条沈線が等間隔で8単位垂下すると思われる。無文帯はミガキにより形成される。口唇部は肥厚し、平坦を呈する。底部はレンズ状に窪む。内面にはミガキ調整を施す。68は破片のため沈線の条数は不明であるが、64と同様な文様構成と思われる。72は体部が膨らみをもち、口縁部は大きく外傾して開く。肩部下に6条の横位沈線を施す。沈線間はLRの縄文帯を形成する。横位沈線間は上2条目から、2条1体の縦位沈線と弧状沈線が交互に4単位垂下すると思われる。口縁部無文帯と内面は丁寧なミガキを施す。

II B (図62-73) 体部は膨らみをもち、口縁部は外傾する。縄文帯はLRを充填し、無文帯はミガキにより形成される。内面にはミガキ調整を施す。

II C (図62-74～78) 74・75はミガキによる無文帯を形成する口縁部で、口唇部は肥厚する。内面にはミガキ調整を施す。76はナデにより無文帯を形成し、波状を呈する。内面にはナデ調整を施す。77・78は口縁部に単一原体による羽状縄文を縦位方向に施す。口唇部は肥厚し、内面にはミガキ調整を施す。

III 壺形土器

(図62・63-79～87)

85は頸部から口縁部にかけて2/3の位置まで内傾し、ほぼ垂直に立ち上がる。体部にコ字状の縄文帯が横位に3単位連続する。縄文帯はLRが充填され、無文帯はミガキにより形成される。口唇部は平坦をなし、底部はレンズ状に窪む。内面にはミガキ調整を施す。86は頸部から口縁部にかけて緩やかに外傾する。体部に逆E字状の縄文帯が横位に3単位連続する。縄文帯はLが充填され、無文帯

はミガキにより形成される。口唇部は平坦をなし、平底を呈する。内面にはミガキ調整が施される。87は沈線による曲線の文様を施す。沈線間は縄文帯と無文帯で形成される。縄文帯には同一原体によるLR羽状を不規則に充填し、無文帯は丁寧なミガキにより形成される。体部は卵形をなし、底部は若干レンズ状に窪む。体部下半に焼成以前に開けられた穿孔がある。無文帯には赤色顔料が残存する。内面にはナデとケズリによる雑な調整を施す。

IV 注口土器 (図63-88~90)

88は口縁部片で外面は丁寧なミガキが施され、内面にはナデ調整を施す。89・90は注口部で沈線が1条巡る。

第IV群土器 (晩期以降の土器)

(図63-91~96) 93~95は沈線による入組状の文様を施す。96は変形工字文を施し、沈線の結束部に瘤状貼付を施す。口縁部内面に1条の横位沈線を施す。

粗製土器

(施文文様による分類)

- A 斜行縄文を施すもの B 羽状縄文を施すもの
C 押圧縄文を施すもの D 条痕を施すもの

A (図63・64-97~117) 97~115は体部から口縁部にかけて緩やかに外傾し、LRを施す。116・117は口縁部がほぼ垂直に立ち上がり、体部にLRを施す。口縁部は横位方向へのミガキによる無文帯を形成する。内面にはミガキ調整を施す。

B (図64-118・119) 体部は外傾し、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。口唇部は肥厚する。単一原体による羽状縄文を縦位方向に施す。

C (図64-120~122) 口縁部は緩やかに外傾する。頸部に撚糸を押圧し、体部に回転施文する。口縁部はミガキによる無文帯を形成する。120は2条の撚糸を押圧する。120・121は口唇部に刻目状に縄文を施す。内面にはミガキ調整を施す。

D (図64-123~126) 123は緩やかに外反する口縁部片で、頸部下に3単位の条痕を施し、口縁部はナデによる無文帯を形成する。内面にはミガキ調整を施す。124は口縁部に4単位の条痕を施す。125は2~6単位のハケ状工具で曲線的に施す。条痕間にはミガキによる無文帯を形成する。内面にはナデ調整を施す。126は5本単位のハケ状工具で縦位方向に施す。

ミニチュア土器 (図64-127~130)

127は口縁部に沈線で区画されたLRの縄文帯を形成する。体部はミガキにより無文帯を形成する。内面にはナデ調整を施す。

土製品 (図64-131~133)

131は土偶の右足と思われ、焼成前に切断されている。132はスタンプ(又はキノコ)状で、円盤部

外面には、へラ状工具によるL字状沈線を4単位数条を施す。摘み部分には穿孔が施される。133はリング状で、外周に山形突起が巡る。

小結

(並行沈線文の分類)

本遺跡の第Ⅲ群土器の施文文様は、並行沈線を施すものと曲線的沈線を施すものが主体となる。沈線間は磨消技法や充填技法による縄文帯・無文帯を形成する。主にこの施文文様は鉢・深鉢、浅鉢に施される。この施文文様は第Ⅲ群の特筆すべき特徴の一つであり、Ⅰ型～Ⅷ型に分類した。並行沈線の条数は破片資料が多いため、ここでは5条と仮定して模式図を作成する。なお文様構成のみの模式図であるため、並行沈線と垂下沈線の施文順序や時期差等については、考慮をせずに作成したものである。Ⅷ型については、2点のみの出土であるため刺突を施すものということだけにとどめて作成した。

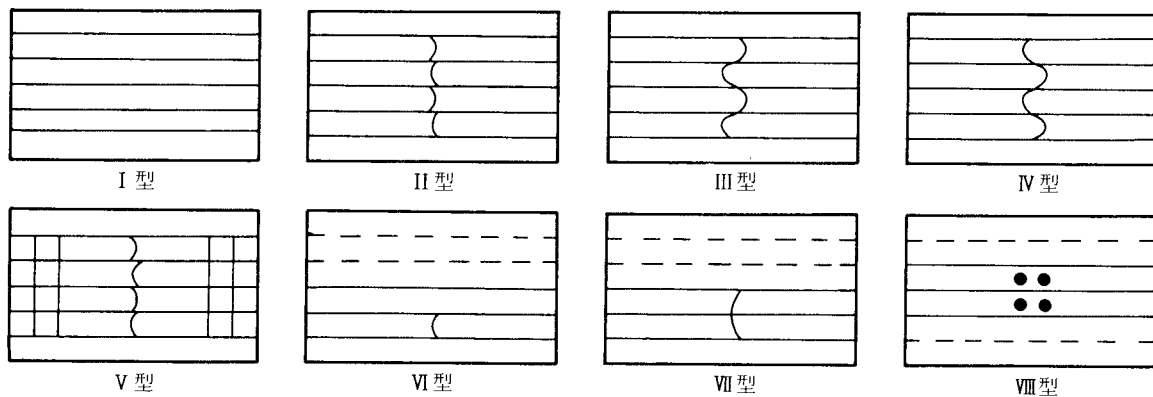


図59 (平行沈線文分類模式図)

Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb層出土土器は縄文時代後期初頭(第Ⅰ群)、後期前葉(第Ⅱ群)、後期中葉(第Ⅲ群)、晩期以降(第Ⅳ群)の4群である。Ⅱ群は十腰内Ⅰ式に並行するものである。文様構成は並行沈線を基本とし、沈線間に磨消技法や充填技法による縄文帯、無文帯を形成する。29は大湯式に類似する器形であることから、その関係を伺い知る資料と言える。第Ⅲ群は十腰内Ⅱ・Ⅲ式に並行するものである。文様構成は並行沈線文と曲線的沈線文を基本とし、沈線間には充填技法や磨消技法による縄文帯、無文帯を形成する。縄文帯には単一原体を一定方向へ施したものと、単一原体を羽状に施したのものがある。本遺跡では前者の割合が高い。口唇部は肥厚するものが多く、内面に肥大する物もある。肥大する口唇部には刻目を施す物もある。十腰内編年に従い本遺跡Ⅲ群土器をⅡ・Ⅲ式の2段階に分類すると十腰内Ⅱ式にⅠA・ⅠB(37~42)・ⅠD(50~53・55~57)・ⅡA・ⅡB・ⅡC(74~76)・Ⅲ(79~81・83・85・86)が含まれる。Ⅲ式にⅠB(44~46・47)・ⅠD(58~61)・ⅡC(77・78)・Ⅲ(87)が含まれる。本遺跡ではⅡ式の割合が高い。なおⅡ・Ⅲ式の分類は確実性があると思われるもののみにとどめる。上記以外の本遺跡Ⅲ群土器は中葉の範疇にとどめ、詳細は今後の課題とする。第Ⅳ群は総出土量に比べて出土量は極めて少なく、91~95は大洞B式と思われ、96は大洞A式以降と思われる。粗製土器は概ね後期中葉と思われるが、条痕を施したものは、後期前葉と思われる。

(野村信生)

(2) 石器

I～II b層より出土した石器が相当する。ただし、本来III層に伴う石器が巻き上げられて一部混在するものと考えられる。

剥片石器 (図65・図版25)

石鏃(1～7・10) 基部形状は突基有茎、平基有茎、凹基無茎、円基のものがある。1は表裏とも器体中心線付近に漆状の物質が付着している。着柄の際の接着剤として用いられたものと考えられる。

石槍(9) 丁寧な調整が施される。器体の厚みは全体に均一である。

石匙(8) 縦長の剥片を用いた縦型石匙。打点側につまみが作出される。

石錐(11～16) つまみのあるもの(11～13)、無いもの(14～16)がある。ただし12は、折損面が加工されており、別の用途に転用されたとも考えられる。

不定形石器(17～27) 二辺の交点付近を刃部とするもの(17・19)、側縁を刃部とするもの(24・25)、折損品の可能性(18)があるもの、表皮を残し丸味を帯びた剥片の端部に剥離が施されるもの(28)、刃部加工のみ施されるもの(26・29)等がある。

二次加工のある剥片(23・30～32) 23は全体に器体調整が施される。30～32は粗い剥離が施される。

(中村)

礫石器 (図66)

磨製石斧(1・2) 1は基部片で頭部が細く、断面は楕円形である。2は刃部片で両面加工された円刃である。

石錘(3) 扁平な礫を使用しており、短軸側部は一端は打ち欠かれており、もう一端は使用痕が残る。

凹石(4) 両面中央部に凹があり、敲打痕と思われる。

磨石(5・6) 柱状で断面が三角形である。頂部一端を使用している。

石皿(7・8) 断面は7が屈曲をもつL字状、8は緩やかなL字状である。 (野村)



図60 後期初頭～晩期の土器(1) (1/3)

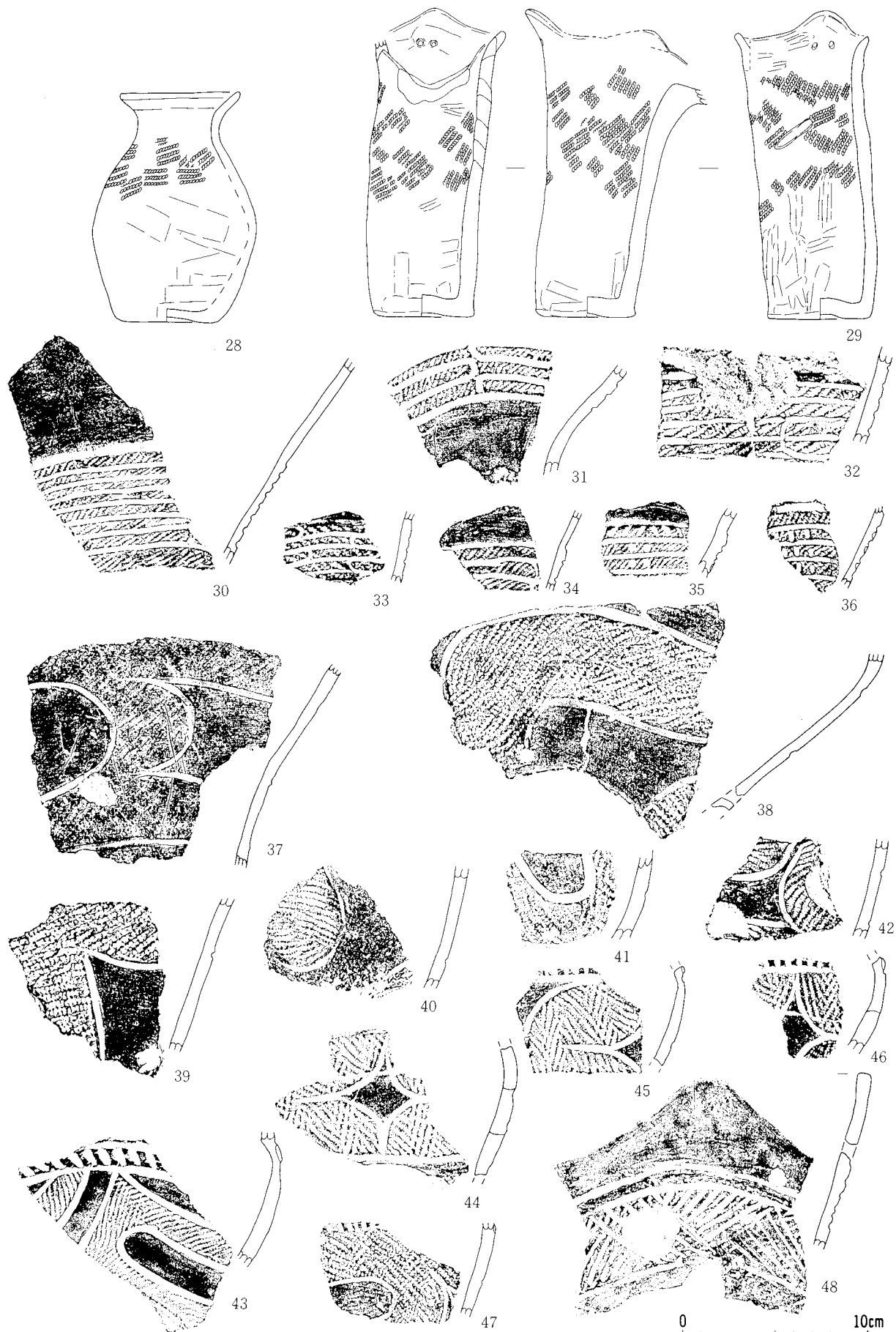


図61 後期初頭～晩期の土器(2) (1/3)

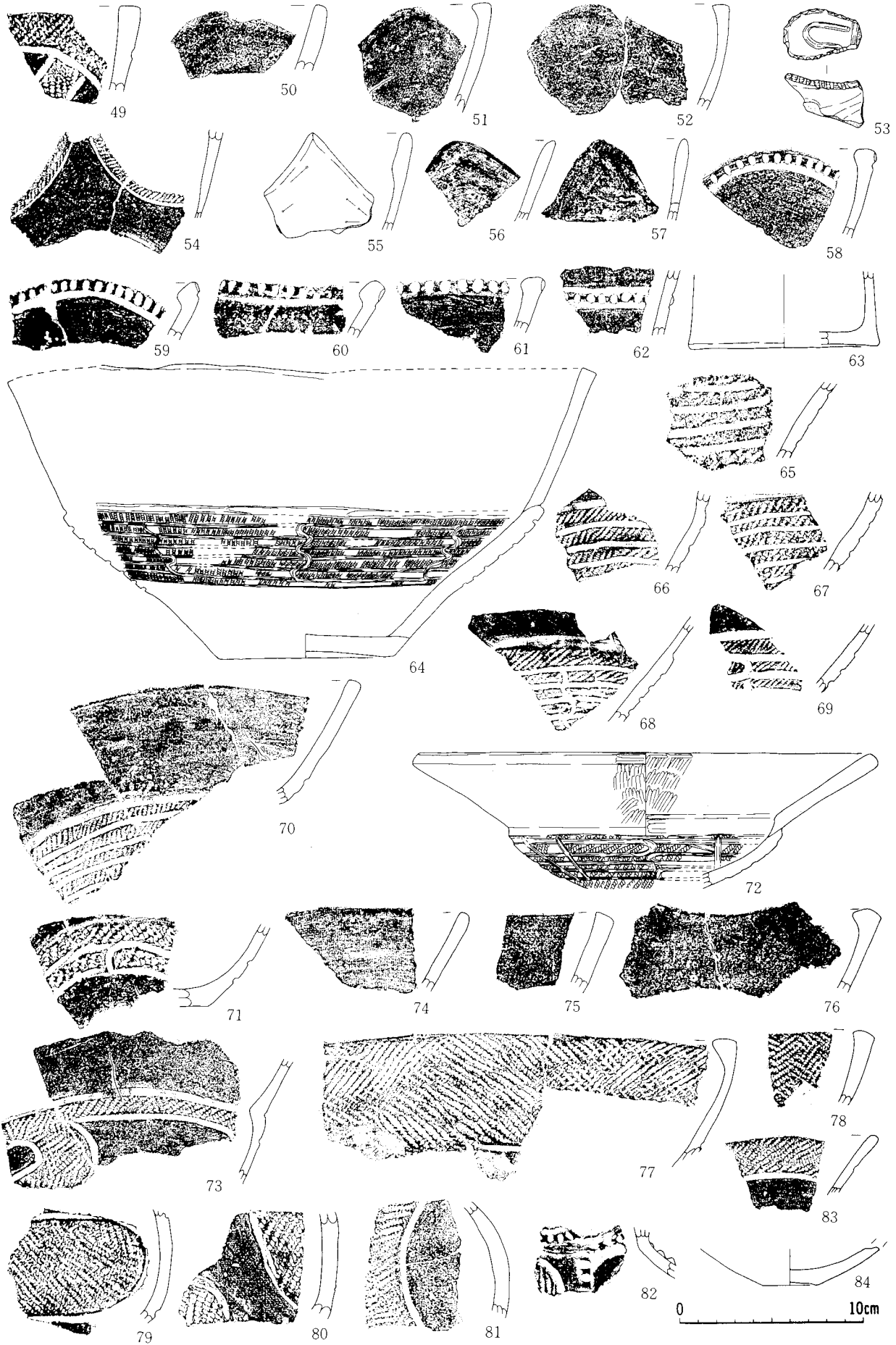


図62 後期初頭～晩期の土器(3) (1/3)

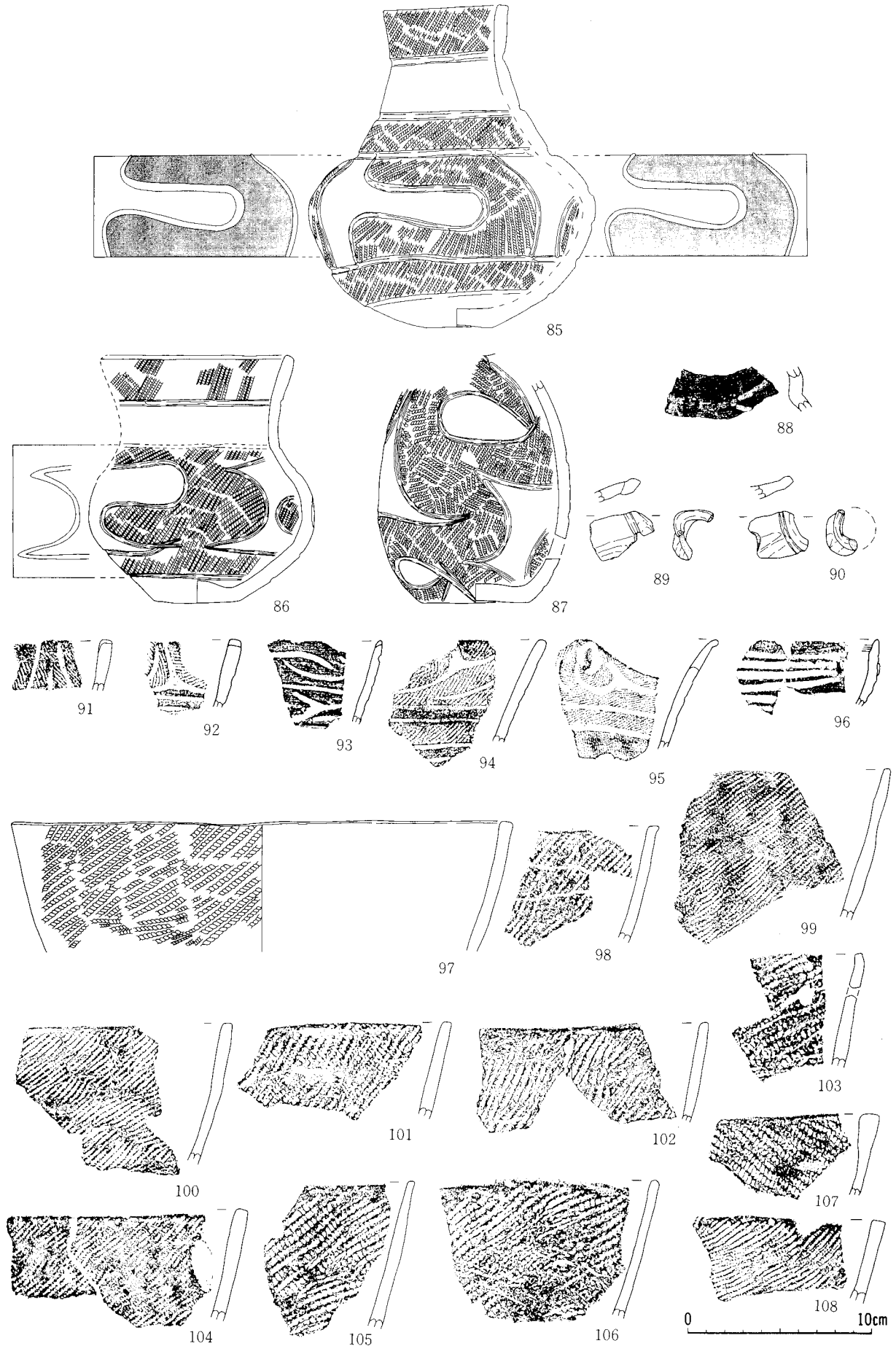


図63 後期初頭～晩期の土器(4) (1/3)

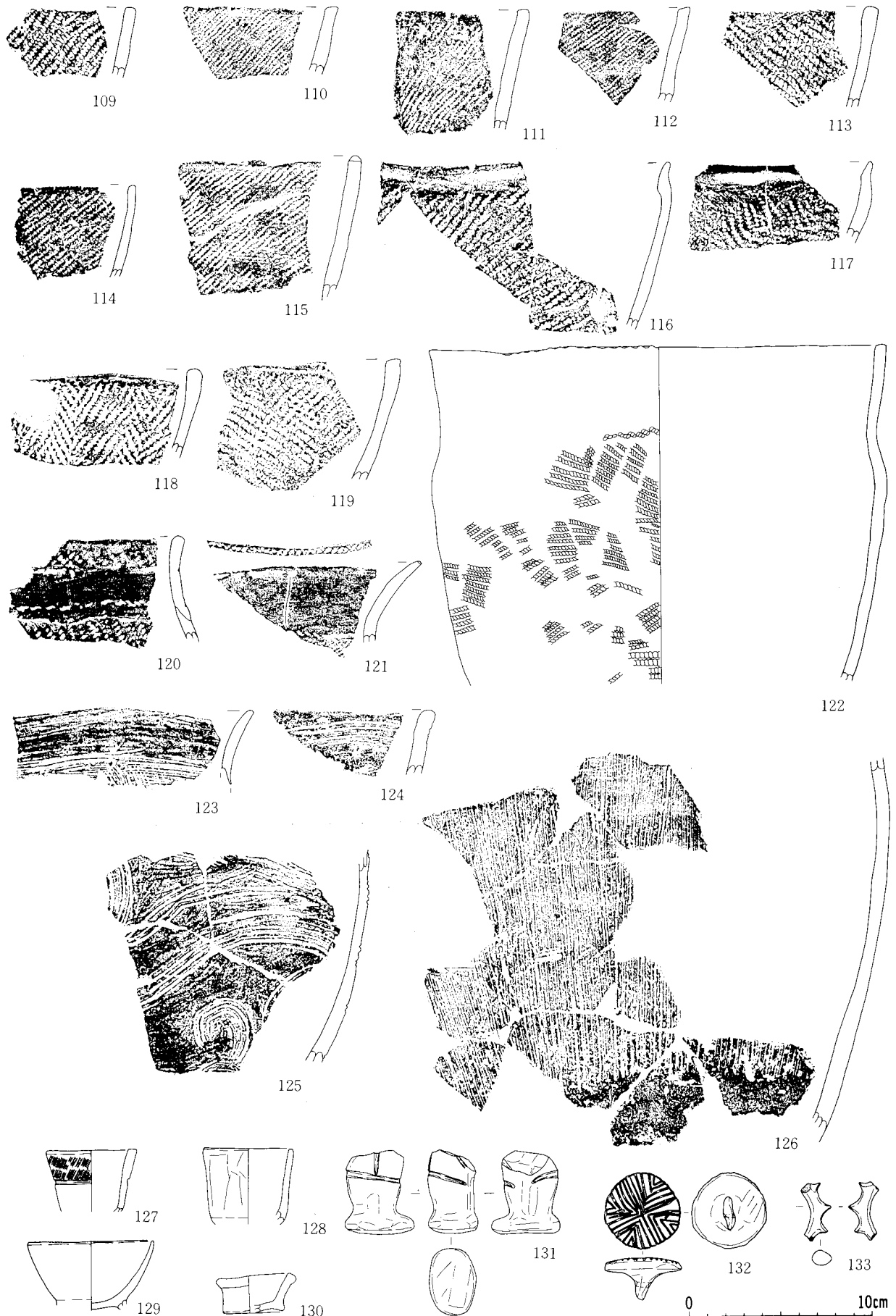


図64 後期初頭～晩期の土器(5)・ミニチュア土器・土偶・土製品 (1/3)

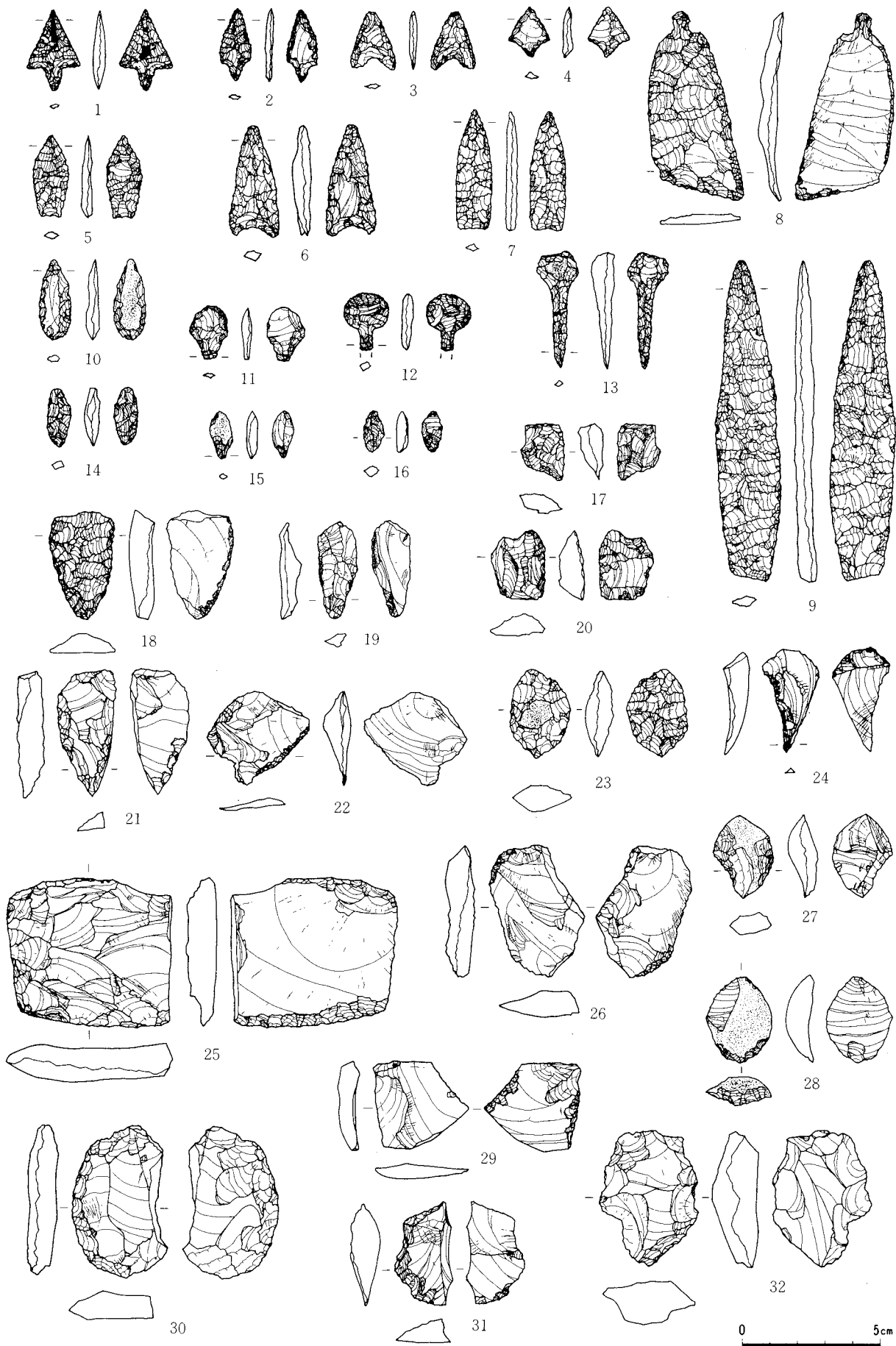


図65 後期初頭の石器(1) (1/2)

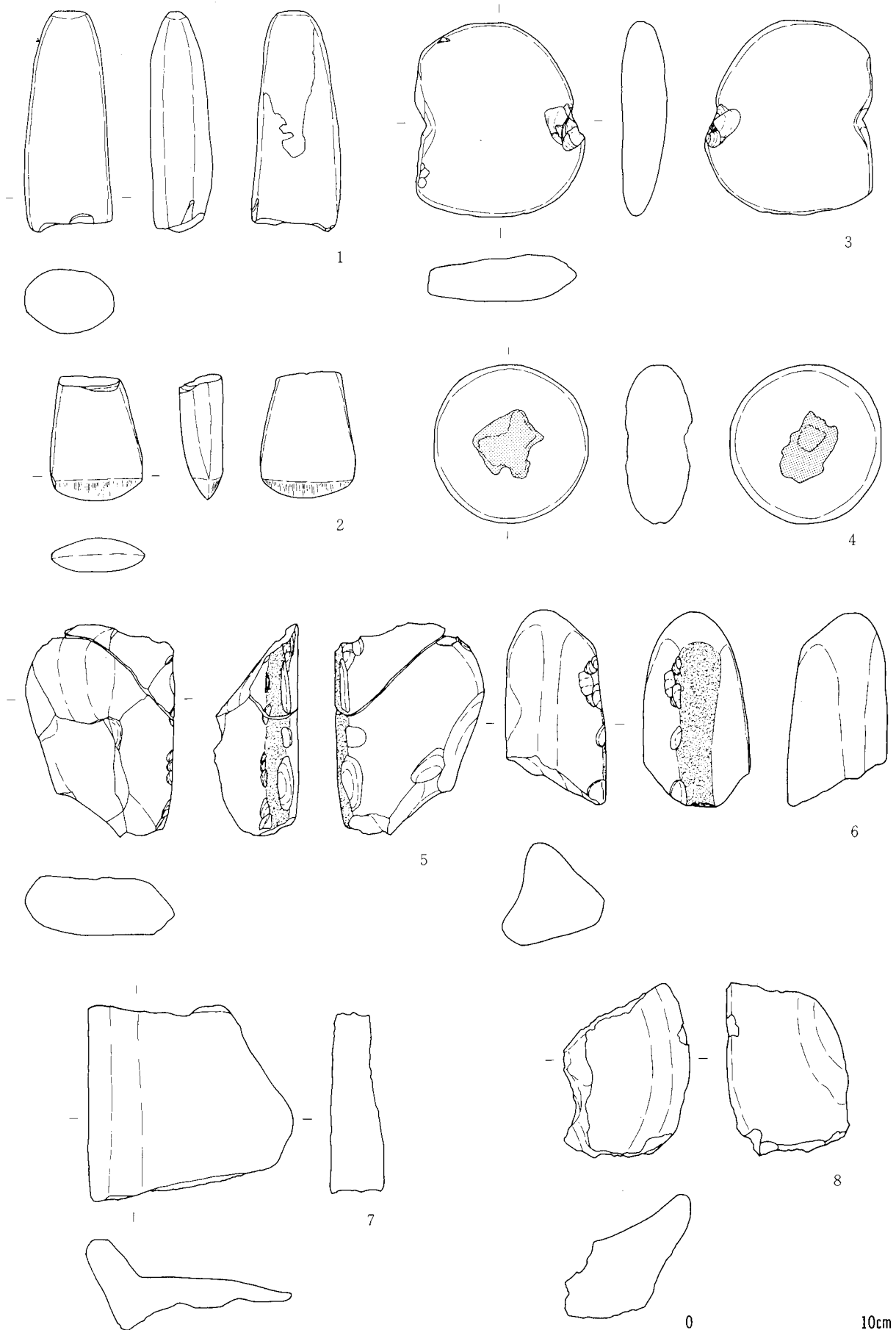


図66 後期初頭の石器(2) (1/3)

遺構外出土早期土器観察表

*座標値はXYとも下6桁のみ表示した。Zは標高である。

爪=爪形刺突 竹管刺突=竹管状工具による円形刺突

図版番号	グリッド	層位	P番	X座標	Y座標	Z座標	口縁部文様	地文	内面調整	胎土	接合	備考
53-1	ⅢD-28	Ⅲ	948	708.965	710.009	26.902	爪+沈線		ナデ	石英・角閃石or輝石多		
53-2	ⅢC-16	Ⅲ	258	758.060	714.349	26.285	爪+沈線		ナデ	石英・角閃石or輝石多		
53-3	ⅡS-28	Ⅲ	1146	708.895	730.164	26.557	爪+沈線		ナデ	石英・角閃石or輝石多		
53-4	ⅢF-24	Ⅲ	754	726.696	702.962	27.019	爪+沈線		ナデ	海面骨針多		
53-5	ⅢD-19	Ⅲ	110	747.594	711.916	26.480	沈線		単絡1類 ミガキ	海面骨針微		R
53-6	ⅡS-21	Ⅲ	1104	739.748	728.978	26.485	爪+沈線		単絡1類 ミガキ	海面骨針微		R
53-7	ⅢA-15	Ⅲ	439	762.073	722.761	26.205	沈線		ミガキ			
53-8	ⅢE-20	Ⅲ	1988	740.797	706.197	26.705	沈線		ミガキ	海面骨針微		
53-9	ⅡS-28	Ⅲ	1136	711.358	730.068	26.452	爪+沈線	条痕	ナデ	海面骨針微 繊維微	P-1136	
53-10	ⅡP-26	Ⅲ	1707	716.955	743.422	26.503	爪+沈線	条痕	ナデ	海面骨針微		
53-11	ⅢD-19	Ⅲ	704	745.163	709.838	26.511	爪+沈線	条痕	条痕	海面骨針微		
53-12	ⅢD-19	Ⅲ	140	745.364	709.423	26.571	沈線	条痕	ナデ	海面骨針微		
53-13	ⅢE-23	Ⅲ	1432	728.018	706.601	26.949	爪+沈線	条痕	ナデ	海面骨針微		
53-14	ⅡQ-20	Ⅲ	534	742.797	737.219	26.439	沈線		ミガキ	海面骨針微		
53-15	ⅡI-23	Ⅲ	1928	731.338	768.706	26.277	沈線	条痕	ナデ			
53-16	ⅡJ-19	Ⅲ	1290	747.147	765.669	25.930	沈線		単絡1類 ナデ	繊維微, 海面骨針微		R
53-17	ⅡP-21	Ⅲ	1633	737.201	740.755	26.290	沈線		単絡1類 ナデ	繊維微		R
53-18	ⅢE-23	Ⅲ	853	730.237	707.197	26.921	爪+沈線	条痕	ミガキ	海面骨針微		
53-19	ⅢD-22	Ⅲ	634	732.801	710.219	27.051	爪+沈線	条痕	ミガキ	海面骨針微 繊維微		
53-20	ⅢE-25	Ⅲ	825	723.921	705.457	26.954	爪+沈線	条痕	ミガキ	海面骨針微		
53-21	ⅢC-17	Ⅲ	218	755.372	713.803	26.342	沈線		ナデ	海面骨針微		
53-22	ⅡT-17	Ⅲ	597	752.120	725.614	26.371	爪+沈線	条痕	ナデ	微砂粒多		波状口縁?
53-23	ⅢB-15	Ⅲ	652	760.326	717.583	26.175	爪+沈線	条痕	ナデ	微砂粒多		
53-24	ⅢD-18	Ⅲ	97	749.666	708.774	26.445	沈線	縄文	ミガキ	海面骨針微		R L R
53-25	ⅢF-21	Ⅲ	690	737.438	702.659	26.826		縄文+条痕	ミガキ	海面骨針微		L R L
53-26	ⅡK-23	Ⅲ	2137	731.781	763.044	26.307	沈線		ミガキ	海面骨針微		
53-27	ⅡL-24	Ⅲ	1902	726.032	757.436	26.398	沈線		単絡1類 ナデ			R
53-28	ⅡQ-17	Ⅲ	556	755.433	738.632	26.222	爪+沈線		ナデ			
53-29	ⅢB-18	Ⅲ	319	748.195	716.948	26.591	爪+沈線		単絡1類 ナデ			L
53-30	ⅡQ-28	Ⅲ	1341	711.449	739.284	26.625	腹縁庄痕+沈線		ミガキ			
53-31	ⅡP-22	Ⅲ	1659	732.999	741.203	26.224	沈線		ナデ			
53-32	ⅡQ-24	Ⅲ	2021	727.860	738.540	26.321	沈線		ナデ			
53-33	ⅡN-19	Ⅲ	2085	747.495	750.266	26.076	爪	条痕	ミガキ	海面骨針微		
53-34	ⅢC-22	Ⅲ	985	734.656	714.276	26.800	爪	条痕	ナデ	海面骨針微		
53-35	ⅡT-21	Ⅲ	1084	737.352	724.145	26.600	爪	条痕	ミガキ	海面骨針微		
53-36	ⅢF-23	Ⅲ	742	728.334	702.566	26.928	爪		単絡1類 ナデ			L
53-37	ⅢE-22	Ⅲ	1439	733.818	706.021	26.901	爪		単絡1類 ミガキ	繊維微		l
53-38	ⅢF-23	Ⅲ	720	728.774	702.088	26.934	爪	縄文	ミガキ	海面骨針微		l
53-39	ⅢD-20	Ⅲ	127	742.894	711.064	26.686	爪		単絡1類 ミガキ	海面骨針微	P-1095	l
53-39	ⅡR-21	Ⅲ	1095	737.637	732.452	26.408	爪		単絡1類 ミガキ	海面骨針微	P-127	l
53-40	ⅡR-22	Ⅲ	1227	735.425	733.178	26.444	爪		ナデ	海面骨針微		
53-41	ⅢB-20	Ⅲ	312	743.795	716.837	26.527	爪		ナデ	海面骨針微	P-362	
53-41	ⅢB-19	Ⅲ	362	746.881	718.180	26.533	爪		ナデ	海面骨針微	P-312	
53-42	ⅡI-19	Ⅲ	66	746.996	768.472	25.970		条痕	ミガキ	海面骨針微	ⅡL-20Ⅲ層	
53-43	ⅢC-22	Ⅲ	988	735.548	714.354	26.791	爪		ナデ	海面骨針微		
53-44	ⅡK-24	Ⅲ	2099	727.099	762.795	26.297	爪+沈線	条痕	ミガキ	海面骨針微		胴部 条痕→沈線
53-45	ⅢC-15	Ⅲ	238	760.634	714.098	26.111	爪	条痕				

遺構外出土早期土器観察表

図版番号	グリッド	層位	P番	X座標	Y座標	Z座標	口縁部文様	地文	内面調整	胎土	接合	備考
54-46	III E-23	III	643	731.669	706.967	26.978	爪	条痕	ミガキ	海面骨針微		
54-47	II R-28	III	1157	708.882	732.424	26.557	爪	条痕	ミガキ	海面骨針微	繊維微	
54-48	II S-20	III	496	742.920	729.917	26.593	爪	条痕	ナデ	海面骨針微	繊維微	P-501 533 589
54-48	II S-19	III	501	744.748	731.117	26.480	爪	条痕	ナデ	海面骨針微	繊維微	P-496 533 589
54-48	II Q-20	III	533	742.720	737.067	26.423	爪	条痕	ナデ	海面骨針微	繊維微	P-496 501 589
54-48	III A-18	III	589	749.424	720.896	26.434	爪	条痕	ナデ	海面骨針微	繊維微	P-496 501 533
54-49	II T-16	III	444	757.797	725.451	26.423	爪	条痕	ミガキ	海面骨針微		
54-50	II H-20	III	71	741.449	775.093	25.907	爪	条痕	ミガキ	海面骨針微		
54-51	III D-19	III	123	744.462	711.536	26.685	沈線	単絡1類	ナデ	海面骨針微		R
54-52	III C-16	III	223	757.024	714.283	26.242	爪	条痕	ナデ	海面骨針微		
54-53	III F-25	III	784	720.898	703.393	27.088	爪	条痕	ミガキ	海面骨針微		
54-54	II L-21	III	2139	738.143	757.417	26.294	爪	条痕	ナデ	海面骨針微		
54-55	II Q-28	III	1348	711.092	737.578	26.636	爪+腹縁圧痕	条痕	ナデ	海面骨針微	砂礫多	
54-56	III C-18	III	204	750.782	712.530	26.480	爪	腹縁圧痕	ナデ	海面骨針微		
54-56	II L-21	III	1949	736.544	758.322	26.308	爪	条痕	ナデ	海面骨針微	繊維微	
54-57	II T-19	III	464	745.620	725.800	26.633	爪	条痕	ミガキ	海面骨針微		0多LR
54-58	III D-20	III	128	742.219	710.787	26.668	爪	縄文	ミガキ	海面骨針微		LR L
54-59	II J-17	III	1291	755.305	764.017	25.771	爪	縄文	ナデ	海面骨針微		LR
54-60	III D-20	III	132	741.516	708.396	26.699	爪	単絡1類	ミガキ	海面骨針微	P-139	R
54-60	III D-19	III	139	745.447	709.448	26.555	爪	単絡1類	ミガキ	海面骨針微	P-132	RL
54-61	III D-16	III	93	757.489	709.408	26.147	爪	縄文	ナデ	海面骨針微		LR L
54-62	III B-18	III	331	749.956	717.527	26.532	爪	単絡1類	ミガキ	海面骨針微		R
54-63	II S-20	III	2040	740.299	731.104	26.708	爪	単絡1類	ナデ	海面骨針微		R
54-64	III A-17	III	435	752.998	722.967	26.348	爪	単絡1類	ミガキ	海面骨針微	P-2057	L
54-64	III A-17	III	2057	752.998	722.974	26.351	爪	単絡1類	ミガキ	海面骨針微	P-435	L
54-65	III E-25	III	924	722.989	706.892	26.901	爪	条痕	ナデ	海面骨針微	繊維微	
54-66	II L-21	III	1949	736.544	758.322	26.308	爪	条痕	ナデ	海面骨針微	繊維微	
54-67	III B-21	III	1016	738.994	716.546	26.768		条痕	ミガキ	海面骨針微	繊維微	
54-68	II P-17	III	1	755.372	742.785	26.294		条痕	ナデ	海面骨針微	砂礫多	P-3 6 7 51
54-69	II K-24	III	1916	725.295	762.249	26.340		条痕	ナデ	海面骨針微	P-1921 II I-24 II層	条痕原体植物質?
54-69	II K-24	III	1921	726.123	761.183	26.377		条痕	ナデ	海面骨針微	P-1916 II I-24 II層	条痕原体植物質?
54-70	III B-21	III	1497	739.705	716.841	26.740		条痕	ナデ	海面骨針微	褐色礫 III C-19 III層	
54-71	III D-16	III	94	756.441	709.827	26.158		縄文+条痕	ミガキ	海面骨針微	P-269	
54-71	III B-16	III	269	756.595	716.420	26.290		縄文+条痕	ミガキ	海面骨針微	P-94	
54-72	III D-19	III	101	747.447	711.420	26.421		縄文	ナデ	海面骨針微	P-1459	L横位
54-72	III D-22	III	1459	732.502	709.488	26.920		縄文	ナデ	海面骨針微	P-101	L横位
54-73	II M-24	III	1755	726.181	753.262	26.309		縄文	条痕	海面骨針微		
54-74	III B-19	III	369	747.446	719.565	26.510		縄文	ミガキ	海面骨針微		LR横位回転
54-75	III C-16	III	656	758.802	714.831	26.143		縄文	ミガキ	海面骨針多		R横位回転
54-76	II I-19	III	64	747.022	770.180	26.072		条痕	ナデ	海面骨針微	砂礫多	P-65
54-76	II I-19	III	65	746.950	769.585	25.993		条痕	ナデ	海面骨針微	砂礫多	P-64
55-77	II S-28	III	1152	708.736	730.776	26.564		単絡1類	ナデ	海面骨針微		R
55-78	III D-16	III	670	756.109	708.442	26.142		単絡1類	ミガキ	海面骨針微		L横位回転
55-79	III B-20	III	384	741.275	718.023	26.587		単絡1類	ミガキ	海面骨針微		R横位回転 自縄自巻?
55-80	II T-19	III	474	744.916	724.781	26.640		単絡1類	ナデ	海面骨針微	P-1635	R 自縄自巻?
55-80	II P-21	III	1635	736.099	740.637	26.278		単絡1類	ナデ	海面骨針微	P-474	R 自縄自巻?
55-81	III C-28	III	1479	711.123	712.896	26.708		条痕	ミガキ	海面骨針微		
55-82	II T-21	III	1954	737.553	726.930	26.567		ミガキ	ミガキ	海面骨針微		
55-83	II I-21	III	1869	739.986	771.699	26.206		ミガキ	ミガキ	海面骨針微	P-1867 1932 2148	

遺構外出土早期土器観察表

図版番号	グリッド	層位	P番	X座標	Y座標	Z座標	口縁部文様	地文	内面調整	胎土	接合	備考
55-83	II I-21	III	1867	738.481	771.497	26.208		ミガキ	ミガキ	海面骨針微	P-1869 1932 2148	
55-83	II H-21	III	1932	739.638	772.471	26.014		ミガキ	ミガキ	海面骨針微	P-1867 1869 2148	
55-83	II I-21	III	2148	738.816	768.829	26.24		ミガキ	ミガキ	海面骨針微	P-1867 1869 1932	
55-84	III B-28	III	1037	709.793	716.498	26.678		ミガキ	ナデ	海面骨針微	P-2246 III A-28 III層	外面条痕→ミガキ
55-84	III A-24	III	2246	727.187	719.175	26.676		ミガキ	ナデ	海面骨針微		
55-85	III D-19	III	561	747.588	711.498	26.405		縄文+条痕	ナデ	海面骨針微		R L横位回転
55-86	III B-20	III	303	741.668	716.198	26.614						R L R横位回転
55-87	III B-20	III	304	741.380	716.411	26.571		縄文+条痕	ミガキ	海面骨針微	P-736	R L R
56-87	III F-23	III	736	729.121	703.143	26.918		縄文	ミガキ	海面骨針微	P-304	R L R
55-88	III E-21	III	1442	736.823	705.865	26.818		縄文+条痕	ナデ	海面骨針微		L R横位回転
55-89	III B-19	III	314	744.942	716.949	26.640		腹縁圧痕	ミガキ	海面骨針微		
55-90	II S-28	III	1129	711.587	728.342	26.480		腹縁圧痕	ミガキ	海面骨針微 繊維微		
55-91	II Q-20	III	2028	740.653	738.758	26.385		縄文	ミガキ	海面骨針微		L R横位回転
55-92	III C-28	III	1476	708.692	713.031	26.701	竹管刺突	単絡1類	ミガキ	繊維微 海面骨針微		R
55-93	III C-28	III	970	709.893	713.270	26.741	竹管刺突	単絡1類	ミガキ	繊維微 海面骨針微		R
55-94	II K-21	III	1824	737.084	763.673	26.318	爪+竹管刺突	条痕	ミガキ			
55-95	II L-21	III	1784	737.389	756.541	26.291	沈線		ナデ	海面骨針微	P-1822	
55-95	II K-21	III	1822	736.661	762.234	26.323	沈線		ナデ	海面骨針微	P-1784	
55-96	III A-15	III	247	763.026	720.198	26.230		単絡1類	ミガキ	海面骨針微		R斜位回転
55-97	III E-21	III	878	739.652	707.982	26.716		単絡1類	ミガキ	海面骨針微	P-1980 1982	R 一部で原体を引きずる
55-97	III D-20	III	1980	740.531	708.447	26.748		単絡1類	ミガキ	海面骨針微	P-878 1982	R 一部で原体を引きずる
55-97	III E-20	III	1982	740.192	707.589	26.650		単絡1類	ミガキ	海面骨針微	P-878 1980	R 一部で原体を引きずる
55-98	III E-22	III	639	732.441	707.959	26.988		単絡1類	ミガキ	海面骨針微 繊維微		R横位回転 白縄白巻?
55-99	III D-19	III	112	747.329	711.598	26.462		単絡1類	ミガキ	海面骨針微	P-111	R横位回転
55-99	III D-19	III	111	747.41	711.793	26.422		絡条体	ミガキ	海面骨針微	P-112	R横位回転
55-100	III D-20	III	126	742.909	711.839	26.711		単絡1類	ナデ	海面骨針微	P-2043	R横位回転
55-100	II S-20	III	2043	740.081	729.651	26.652		単絡1類	ナデ	海面骨針微	P-126	R横位回転
55-101	III C-17	III	213	754.342	712.285	26.285		縄文+条痕	ミガキ	海面骨針微	P-575	条痕→0多L R横位回転
55-101	III C-17	III	575	753.748	714.062	26.291		縄文+条痕	ミガキ	海面骨針微	P-213	条痕→0多L R横位回転
55-102	III C-16	III	221	756.121	714.290	26.282		腹縁圧痕	ミガキ	海面骨針微		
55-103	III A-20	III	401	743.299	721.361	26.611		条痕+腹縁	ミガキ	海面骨針微		
55-104	II K-18	III	62	748.947	763.830	25.991		腹縁刺突	ナデ	海面骨針微	II M-20 II層下位	
55-105	III F-24	III	764	725.175	702.138	27.129		ミガキ	ナデ	海面骨針微 繊維微	P-1404	
55-105	III F-23	III	1404	728.344	703.012	26.945		ミガキ	ナデ	海面骨針微 繊維微	P-764	
55-106	III C-16	III	272	756.480	715.770	26.328		ミガキ	ナデ	海面骨針微		
55-107	III C-19	III	574	747.293	714.006	26.514		ミガキ	ミガキ	海面骨針微	P-121 293	
55-107	III D-19	III	121	744.639	711.842	26.553		ミガキ	ミガキ	海面骨針微	P-293 574	
55-107	III C-19	III	293	747.288	714	26.552		ミガキ	ミガキ	海面骨針微	P-121 574	
55-108	II M-19	III	2095	744.774	752.454	25.881		単絡1類	ミガキ	海面骨針微	P-24	R横位回転
55-108	II M+19	III	24	744.857	752.425	26.034		絡条体	ミガキ	海面骨針微	P-2095	R横位回転
55-109	III D-23	III	622	728.495	709.499	27.007		ミガキ	ナデ	海面骨針微		
55-110	II S-20	III						ミガキ	ナデ			
55-111	III F-23	III	723	728.560	702.497	26.978		条痕	ナデ		P-721	
55-111	III F-23	III	721	728.601	702.39	26.962		条痕	ナデ		P-723	
55-112	II L-28	III						ミガキ	ナデ	海面骨針微		竹管刺突
55-113	III F-25	III	1415	722.061	703.535	27.044		縄文	指押え→ナデ	繊維多 海面骨針微		R L
55-114	III D-24	III	921	724.033	710.866	26.868		縄文	指押え→ナデ	繊維多		R L

遺構外出土早期石器観察表

図版番号	整理番号	グリッド	層位	S番	X座標	Y座標	Z座標	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	分類	備考
56-1	64	ⅡR-28	Ⅲ	78	709.589	730.463	26.607	5.3	1.6	5.3	4.2	珪頁	1	
56-2	60	ⅡS-20	Ⅲ	1	743.725	726.323	26.672	4.2	1.7	0.5	2.9	珪頁	1	
56-3	63	ⅢA-22	Ⅲ	44	732.932	719.487	26.688	2.8	1.8	0.5	2	珪頁	1	
56-4	68	ⅢC-23	Ⅲ	37	731.412	708.928	26.947	6.6	1.8	1	15.4	珪頁	2	
56-5	71	ⅡL-21	Ⅲ	110	737.05	753.009	26.327	6.8	2.9	2.2	30.4	珪頁	2	
56-6	70	ⅡT-21	Ⅲ	42	736.77	720.334	26.655	5.7	2.1	1.2	12.6	珪頁	3	
56-7	69	ⅢD-21	Ⅲ	77	736.185	706.149	26.831	7.9	2.4	0.7	16.5	珪頁	3	
56-8	80	ⅡP-28	Ⅲ	100	711.664	738.253	26.589	6.1	3.2	1.5	24.6	珪頁	3	
56-9	72	ⅢA-19	Ⅲ	8	746.889	718.182	26.5	6	5.9	1.2	35	珪頁	3	
56-10	73	ⅢA-17	Ⅲ	13	752.261	716.293	26.322	3.2	2.2	0.9	4.4	珪頁	3	
56-11	77	ⅡS-20	Ⅲ	62	741.404	727.263	26.599	3.9	3.7	1.4	19.3	珪頁	3	
56-12	75	ⅢB-19	Ⅲ	25	746.576	713.816	26.492	7.2	5	1	28.6	珪頁	3	
56-13	74	ⅢB-17	Ⅲ	21	754.634	715.001	26.353	4.4	2.7	0.9	8.5	珪頁	3	
56-14	83	ⅢB-20	Ⅲ	117	740.328	713.376	26.815	2.4	3.1	0.7	6.8	珪頁	3	
56-15	79	ⅡR-28	Ⅲ	79	710.197	731.351	26.591	6.2	2.4	1.4	14.8	珪頁	3	
56-16	78	ⅡS-19	Ⅲ	63	744.775	726.087	26.507	3.2	1.5	0.5	2.4	珪頁	3	
56-17	86	ⅢB-23	Ⅲ	50	730.338	712.733	26.797	1.5	2.4	0.4	35	珪頁	3	
56-18	76	ⅢC-28	Ⅲ	52	709.412	708.527	26.914	4.4	5.3	1.9	30.6	珪頁	4	
57-19	130	ⅢA-28	Ⅲ	72	708.36	716.739	26.77	11.9	4.2	1.4	134.4	緑細凝	5	
57-20	131	ⅡK-16	Ⅲ	93	756.157	758.964	25.85	5.7	3.3	1.7	31.4	緑細凝	5	
57-21	128	ⅢC-21	Ⅲ	56	737.695	710.749	26.823	2.8	2.4	1.2	12.1	頁岩	5	
57-22	132	ⅢI-29	Ⅲ	101	707.993	658.057	26.908	7.4	5.3	1.9	116	緑細凝	5	
57-23	138	ⅢB-15	Ⅲ	15	763.131	714.95	26.085	9.7	8.5	3.1	363.8	砂岩	6	
57-24	137	ⅡT-19	Ⅲ	6	747.542	723.579	26.546	9.2	9.2	2	183.8	砂岩	6	
57-25	145	ⅢC-28	Ⅲ	(181)	708.322	712.023	26.867	12.5	10.2	5.8	1036.8	安山岩	8 a	
57-26	140	ⅡK-17	Ⅲ	91	752.979	758.464	25.854	10.3	6.8	3.2	252.4	安山岩	8 a	
57-27	156	ⅡS-21	Ⅲ	(442)	737.835	727.153	26.62	11.6	6.6	4	375.4	砂岩	8 b	
57-28	159	ⅢA-19	Ⅲ	(102)	747.1	716.269	26.565	11.3	5.8	4	327.6	砂岩	8 b	
57-29	148	ⅡK-17	Ⅲ	90	752.173	757.859	25.828	9.3	7.9	4.5	463.3	砂岩	8 c	
58-30	179	ⅢB-16	Ⅲ	19	758.131	714.63	26.236	17.3	7.4	5.3	858.2	砂岩	8 d	S-130と接合
58-31	184	ⅢD-18	Ⅲ	30	751.517	705.096	26.336	14.2	5.5	6.7	607.2	砂岩	8 d	
58-32	206	ⅢB-17	Ⅲ	(81)	754.954	712.55	26.269	14.3	6.2	3.8	419	安山岩	8 d	
58-33	151	ⅢE-22	Ⅲ	(303)	734.589	701.046	26.755	9.4	8.1	3.5	373.8	砂岩	8 e	
58-34	133	ⅢB-21	Ⅲ	73	739.538	714.395	26.789	8.3	5.5	1.5	98.1	砂岩	9	
58-35	321	ⅢB-20	Ⅲ	26	742.57	714.785	26.627	7.2	4.7	1.4	66.6		9	
58-36	161	ⅢC-28	Ⅲ	(183)	707.88	711.256	26.882	11.2	4.9	2.2	177	砂岩	10	
58-37	164	ⅡT-22	Ⅲ	40	733.004	720.957	26.656	8.1	3.4	2.1	76.4	凝灰	10	
58-38	260	ⅢB-18	Ⅲ	(73)	748.723	714.936	26.463	11.9	5.4	2.6	202.6	安山岩	10	
58-39	157	ⅡJ-21	Ⅲ	(555)	737.35	761.698	26.299	11.3	6.5	3.4	196	安山岩	11	

遺構外出土後期以降土器観察表

図版番号	整理番号	グリッド	層位	分類	施文文様および調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	沈線幅(mm)	備考
60-1	27	ⅢL-23	Ⅱa	I・I	LR横位, 沈線, ミガキ	ミガキ				3.5	
60-2	122	ⅢN-32	Ⅱa	I・I	LR横位, 沈線, ナデ	ナデ				3.0~3.5	
60-3	7	ⅢB-26	I	I・I	LR縦横位, 沈線, ナデ	ナデ				3.0	
60-4	47	ⅢM-23	Ⅱa	I・I	LR横位, 沈線, 貼付, ナデ	ナデ				2.0	
60-5	33	ⅢL-25	Ⅱa	I・I	RL横位, 貼付, 沈線, 刺突, ミガキ	ミガキ				3.5	穿孔痕あり
60-6	163	ⅢO-30	I	I・I	LR縦横位, 貼付, 沈線, 刺突, ミガキ	ミガキ				2.5	
60-7	24	ⅢL-22	I	I・I	LR横斜位, 沈線, ナデ	ミガキ				3.0	
60-8	8	ⅢB-27	I	I・I	貼付突帯, 沈線	ナデ				3.0	
60-9	120	ⅢN-33	Ⅱa	I・I	ナデ, 沈線, LR横位	ミガキ				4.0	
60-10	22	ⅢK-26	Ⅱa	I・I	沈線, ミガキ, LR縦横位	ナデ				3.0	
60-11	123	ⅢN-32	Ⅱa	I・I	沈線, RL縦横位, ナデ	ナデ				3.0	外面スス状炭化物付着
60-12	181	ⅢP-32	I	I・I	沈線, L斜位, ミガキ	ナデ				3.5	
60-13	67	ⅢM-32	Ⅱa	I・I	沈線, LR横位, ミガキ	ミガキ				3.0	
60-14	78	ⅢN-28	Ⅱa	I・I	沈線, ミガキ	ミガキ				4.0	
60-15	211	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅱ・IA	沈線, LR縦横位, ミガキ	ナデ				3.0	
60-16	202	ⅢL-25	Ⅱa	Ⅱ・IB	L横位, 沈線, ナデ	ナデ・ミガキ		(9.1)		3.0	外面スス状炭化物付着
60-17	208	ⅢP-29	I・Ⅱa	Ⅱ・IB	沈線, L横位, ナデ	ナデ	19.0	6.7	18.5	2.0	底部網代痕あり
60-18	124	ⅢN-32	Ⅱa	Ⅱ・IB	沈線, RL横位, ナデ	ミガキ				3.0	
60-19	34	ⅢP-25	Ⅱa	Ⅱ・IB	沈線, LR縦位, ミガキ	ミガキ				3.0~4.0	
60-20	49	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅱ・IB	沈線, LR横位, ナデ	ナデ				2.0	
60-21	26	ⅢL-23	Ⅱa	Ⅱ・IB	LR縦位, 沈線	ナデ				3.0	
60-22	53	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅱ・IB	沈線, LR横位, ミガキ	ミガキ				2.0	外面スス状炭化物付着
60-23	36	ⅢL-26	カクラン	Ⅱ・IC	貼付隆帯, 沈線, ミガキ	ミガキ				3.5	
60-24	50	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅱ・IC	沈線, ナデ	ミガキ				2.0	接合面刻目あり
60-25	147	ⅢN-33	Ⅱa	Ⅱ・IC	ナデ, ミガキ, 沈線	ミガキ				2.0	
60-26	40	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅱ・IC	貼付, 沈線, 穿孔, ナデ	ナデ				3.0	穿孔痕あり
61-27	37	ⅢL-32	Ⅱa	Ⅱ・ID	ミガキ	ナデ	(15.6)				
61-28	199	ⅢP-29	Ⅱa	Ⅱ・Ⅱ	LR横位, ナデ	ナデ	6.3	5.0	12.4		最大径8.8cm
61-29	198	ⅢM-33	Ⅱa	Ⅱ・Ⅲ	LR横位, ミガキ	ナデ		5.2	16.5		2カ所穿孔痕あり
61-30	150	ⅢN-33	Ⅱa	Ⅲ・IA	LR横位, 沈線, ミガキ	ミガキ				2.0	外面スス状炭化物付着
61-31	179	ⅢP-32	I	Ⅲ・IA	LR横位, 沈線, ミガキ	ミガキ				3.0	
61-32	54	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅲ・IA	LR0段多条横位, 沈線	ミガキ				3.0	外面スス状炭化物付着
61-33	111	ⅢN-30	Ⅱa	Ⅲ・IA	RL横位, 沈線, ミガキ	ミガキ				2.0	
61-34	72	ⅢM-32	Ⅱb	Ⅲ・IA	LR横位, 沈線, ナデ	ミガキ				2.5	
61-35	149	ⅢN-33	Ⅱa	Ⅲ・IA	LR横位, 刻目, 刺突, 沈線, ミガキ	ミガキ				2.0	
61-36	55	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅲ・IA	LR横位, 沈線, 刺突	ミガキ				3.0	
61-37	23	ⅢK-32	Ⅲ	Ⅲ・IB	LR横位, 沈線, ミガキ	ミガキ				3.0	
61-38	71	ⅢM-32	Ⅱa	Ⅲ・IB	沈線, LR横位, ミガキ	ミガキ				4.5	穿孔痕あり
61-39	152	ⅡO-27	Ⅱa	Ⅲ・IB	沈線, LR横斜位, ミガキ	ミガキ				3.5	
61-40	140	ⅢN-33	Ⅱa	Ⅲ・IB	沈線, LR横位, ミガキ	ミガキ				2.0	
61-41	98	ⅢN-30	Ⅱa	Ⅲ・IB	LR縦位, 沈線, ミガキ	ミガキ				4.0~5.0	
61-42	126	ⅢN-32	Ⅱa	Ⅲ・IB	LR横斜位, 沈線, ミガキ	ミガキ				3.0	
61-43	70	ⅢM-32	Ⅱa	Ⅲ・IB	沈線, LR横斜位, 刻目, ミガキ	ミガキ				2.5~4.0	
61-44	94	ⅢN-30	Ⅱa	Ⅲ・IB	沈線, RL0段多条羽状, ミガキ	ナデ付け				2.0	整理番号94.95.96は同一個体

図版番号	整理番号	グリッド	層位	分類	施文文様および調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	沈線幅(mm)	備考
61-45	96		Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ B	沈線, R L 0 段多条羽状, 刻目, ミガキ	ナデ				2.0	整理番号94.95.96は同一個体
61-46	95	Ⅲ N-30	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ B	沈線, R L 0 段多条羽状, 刻目	ナデ付け				2.0	整理番号94.95.96は同一個体
61-47	51	Ⅲ M-23	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ B	沈線, R L 羽状, ミガキ, 刻目	ミガキ				2.0	
61-48	73	Ⅲ M-33	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ C	沈線, ミガキ	ミガキ				3.0	穿孔痕あり
62-49	117	Ⅲ N-32	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	沈線, L R 横位, ミガキ	ミガキ					
62-50	32	Ⅲ L-25	I	Ⅲ・Ⅰ D	ミガキ	ミガキ					
62-51	45	Ⅲ M-23	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	ミガキ	ミガキ					
62-52	116	Ⅲ N-32	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	ミガキ	ミガキ					
62-53	183	Ⅱ Q-26	I	Ⅲ・Ⅰ D	沈線, 刻目, ミガキ						
62-54	132	Ⅲ N-32	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	沈線, L R 横位, ミガキ	ミガキ					
62-55	127	Ⅲ N-33	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	ミガキ	ミガキ					
62-56	115	Ⅲ N-32	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	ミガキ	ミガキ					
62-57	135	Ⅲ N-33	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	ミガキ	ミガキ					
62-58	128	Ⅲ N-33	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	沈線, 刻目, ミガキ	ミガキ				3.0	
62-59	107	Ⅲ N-30	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	沈線, 刻目, ミガキ	ミガキ				3.0	
62-60	60	Ⅲ M-32	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	沈線, 刻目	ミガキ				3.5	
62-61	61	Ⅲ M-32	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	刻目, ミガキ	ミガキ					
62-62	38	Ⅲ L-32	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅰ D	沈線, 刻目, ミガキ	ミガキ				2.5~3.5	
62-63	178	Ⅲ P-32	I	Ⅲ・Ⅰ D	ミガキ	ミガキ					
62-64	218	Ⅲ O-24	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ A	L R 横位, 沈線, ミガキ	ミガキ	(32.0)	9.2	15.4	2.0~3.0	
62-65	68	Ⅲ M-32	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ A	L R 横位, 沈線	ナデ				3.0	
62-66	52	Ⅲ M-23	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ A	L R 横位, 沈線, ミガキ	ミガキ				3.0	
62-67	143	Ⅲ N-33	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ A	L R 横位, 沈線	ミガキ				3.0	
62-68	174	Ⅲ P-29	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ A	L R 横位, 沈線, ミガキ	ミガキ				3.0	
62-69	142	Ⅲ N-33	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ A	L R 横位, 沈線, ミガキ	ミガキ				3.5	外面スス状炭化物付着
62-70	41	Ⅲ M-23	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ A	L R 横位, 沈線, ミガキ	ミガキ	(23.0)			3.0	内面スス状炭化物付着
62-71	137	Ⅲ N-33	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ A	L R 0 段多条, 沈線, ミガキ	ミガキ		(5.6)		3.0	内面炭化物付着
62-72	206	Ⅲ L-32	Ⅲ	Ⅲ・Ⅱ A	L R 横位, 沈線, ミガキ	ミガキ	(24.4)			2.0~3.0	
62-73	169	Ⅲ O-30	I	Ⅲ・Ⅱ B	沈線, L R 横位, ミガキ	ミガキ				3.0	
62-74	65	Ⅲ M-32	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ C	ミガキ	ミガキ					
62-75	104	Ⅲ N-30	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ C	ミガキ	ミガキ					
62-76	177	Ⅲ P-32	I	Ⅲ・Ⅱ C	ナデ	ナデ					
62-77	162	Ⅲ O-29-30	I・Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ C	R L 羽状, 沈線, ミガキ	ミガキ	(34.0)				
62-78	134	Ⅲ N-33	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅱ C	R L 羽状	ミガキ					
62-79	160	Ⅱ O-29	I	Ⅲ・Ⅲ	沈線, R L 横位, ミガキ	ミガキ				3.0~4.0	
62-80	19	Ⅲ J-29	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅲ	沈線, L R 横位, ミガキ	ミガキ				3.0	
62-81	159	Ⅲ O・P-29	I・Ⅱ a	Ⅲ・Ⅲ	沈線, R L 縦位, ミガキ	ミガキ				3.0	
62-82	101	Ⅲ N-30	I	Ⅲ・Ⅲ	L R 斜位, 沈線, ミガキ, 刻目	ナデ				5.0	
62-83	12	Ⅲ C-23	I	Ⅲ・Ⅲ	沈線, L R 横位, ミガキ	ミガキ				3.0	
62-84	48	Ⅲ M-23	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅲ				3.0			
63-85	197	Ⅲ N-32	I	Ⅲ・Ⅲ	沈線, L R 横位, ミガキ	ミガキ	6.6	3.6	17.3	4.0	最大径15.5cm
63-86	215	Ⅲ O-24	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅲ	沈線, L 横位, ミガキ	ミガキ	9.6	4.3	13.3	2.0~3.0	最大径12.2cm
63-87	204	Ⅲ N-33	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅲ	沈線, L R 羽状, ミガキ	ナデ		5.7		2.5~3.0	最大径10.4cm
63-88	20	Ⅲ J-30	Ⅱ a	Ⅲ・Ⅳ	沈線, ミガキ	ナデ				3.0	

図版番号	整理番号	グリッド	層位	分類	施文文様および調整	内面調整	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	沈線幅(mm)	備考
63-89	39	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅲ・Ⅳ	沈線, ミガキ, ナデ	ナデ				3.0	
63-90	57	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅲ・Ⅳ	沈線, ナデ	ナデ				3.0	
63-91	109	ⅢN-30	I	V	LR縦位, 沈線					2.0	
63-92	359	ⅡO-27	Ⅱa	V	LR横・斜位, 沈線, ミガキ	ナデ				1.5~3.0	
63-93	358	ⅢM-32	I	V	沈線, ミガキ	ミガキ				2.0	
63-94	356	ⅢO-30	I	V	LR横位, 沈線, ミガキ	ミガキ				2.5	
63-95	355	ⅢN-29	I	V	LR横・斜位, 沈線, ミガキ	ミガキ				2.5	
63-96	357	ⅢO-29	I	V	沈線, 貼付, ミガキ	ミガキ	(20.0)			2.5~4.0	
63-97	227	ⅢM-33	Ⅱa	Ⅳ・A	LR横位	ミガキ	26.5				
63-98	105	ⅢN-30	Ⅱa	Ⅳ・A	LR横位	ナデ					
63-99	80	ⅢN-29	I	Ⅳ・A	LR横位	ナデ・ミガキ	(16.5)				外面スス状炭化物付着
63-100	82	ⅢN-29	I	Ⅳ・A	LR横位	ナデ	(20.2)				
63-101	130	ⅢN-33	Ⅱa	Ⅳ・A	LR0段多条横位	ミガキ	(18.4)				
63-102	46	ⅡM-23	Ⅱa	Ⅳ・A	LR横位	ナデ	(29.0)				外面スス状炭化物付着
63-103	118	ⅢN-32-33	Ⅱa	Ⅳ・A	LR横位	ナデ					穿孔痕あり
63-104	172	ⅢP-29	Ⅱa	Ⅳ・A	LR横位	ナデ	(29.0)				外面スス状炭化物付着
63-105	43	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅳ・A	LR横位	ナデ					
63-106	74	ⅢM-33	Ⅱa	Ⅳ・A	LR横位	ミガキ	(18.8)				外面スス状炭化物付着
63-107	64	ⅢM-32	Ⅱa	Ⅳ・A	RL横位	ミガキ					
63-108	164	ⅢO-30	I	Ⅳ・A	LR横位	ミガキ	(35.6)				
64-109	165	ⅢO-30	I	Ⅳ・A	LR0段多条横位	ナデ					
64-110	30	ⅢL-24	Ⅱa	Ⅳ・A	LR横位	ナデ	(20.6)				外面スス状炭化物付着
64-111	62	ⅢM-32	Ⅱa	Ⅳ・A	L横位	ミガキ					
64-112	81	ⅢN-29	I	Ⅳ・A	LR横位	ナデ					外面スス状炭化物付着
64-113	76	ⅢN-28	Ⅱa	Ⅳ・A	RL横位	ミガキ	(29.0)				
64-114	100	ⅢN-30	I	Ⅳ・A	LR横位	ナデ					
64-115	83	ⅢN-29	I	Ⅳ・A	LR横位, 口唇部貼付	ナデ	(18.0)				
64-116	212	ⅢP-29	I	Ⅳ・A	LR横位, ミガキ	ミガキ	(25.0)				外面スス状炭化物付着
64-117	153	ⅢO・P-29	I	Ⅳ・A	LR斜位, ミガキ	ミガキ	(17.6)				
64-118	75	ⅢM-33	Ⅱa	Ⅳ・B	LR羽状	ミガキ	(24.0)				
64-119	42	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅳ・B	LR羽状	ミガキ・ケズリ					
64-120	21	ⅢK-23	Ⅱa	Ⅳ・C	RL横位, RL押圧, ミガキ	ミガキ	(13.6)				
64-121	131	ⅢN-33	Ⅱa	Ⅳ・C	LR押圧, ミガキ	ミガキ	(26.0)				
64-122	214	ⅢM-32	Ⅱa	Ⅳ・C	LR縦斜位, LR押圧, ミガキ	ミガキ	(25.0)				
64-123	173	ⅢP-29	Ⅱa	Ⅳ・D	ナデ, 条痕	ミガキ					外面スス状炭化物付着
64-124	44	ⅢM-23	Ⅱa	Ⅳ・D	ナデ, 条痕	ミガキ					
64-125	220	ⅢP-29	I・Ⅱa	Ⅳ・D	条痕, ミガキ	ナデ				1.0	
64-126	219	ⅢO・P-29-30	I・Ⅱa	Ⅳ・D	条痕, ナデ	ミガキ				1.0	
64-127	189	ⅢM-32-33	Ⅱa	ミニチュア	LR横位, 沈線, ミガキ	ナデ	(5.0)	(3.4)		2.0	
64-128	193	ⅢO-27	Ⅱa	ミニチュア	ナデ	ナデ	(5.0)				
64-129	190	ⅢN-30	Ⅱa	ミニチュア	ナデ	ミガキ	(6.8)				
64-130	185	ⅡL-18	I	ミニチュア	ナデ	ナデ	(5.0)	(3.6)		2.0	
64-131	354	ⅢN-32	Ⅱa	土製品	ナデ, 沈線						足底部3.5cm×2.6cm
64-132	353	不明	不明	土製品	沈線, ナデ				2.3	1.0	穿孔痕あり直径4.1cm
64-133	194	不明	不明	土製品	ナデ						

遺構外出土石器（後期以降）観察表

図版番号	整理番号	グリッド	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	分類	備考
65-1	15	ⅢM-23	Ⅱa	3	1.4	0.5	1.3	珪頁	石鏃	
65-2	3	ⅡC-7	Ⅱ	2.6	1.1	0.3	0.7	珪頁	石鏃	
65-3	10	ⅢM-23	Ⅱa	2.1	1.6	0.3	1	珪頁	石鏃	
65-4	14	ⅢN-32	Ⅱa	1.8	1.5	0.4	0.7	珪頁	石鏃	
65-5	2	ⅡJ-11	Ⅱ	3	1.3	0.4	1.3	玉珪	石鏃	
65-6	4	ⅢD-17	Ⅱ	4	1.3	1	4.7	珪頁	石鏃	
65-7	17	ⅢM-23	Ⅱa	4.3	1.3	0.4	19.5	珪頁	石鏃	
65-8	6	ⅢN-32	Ⅱa	6.8	3.5	0.9	13.6	珪頁	石匙	
65-9	23	ⅢJ-27	カクラン	11.5	2.4	0.8	19.5	珪頁	石槍	
65-10	1	ⅢA-28	I	2.9	1.2	0.5	1.5	珪頁	石鏃	自然面残存
65-11	16	ⅢM-23	Ⅱa	1.9	1.4	0.4	0.8	珪頁	石錘	
65-12	20	ⅢM-23	Ⅱa	3	1.3	0.4	1	黒曜石	石錘	
65-13	7	ⅢM-23	Ⅱa	4.2	1.5	0.8	2.5	珪頁	石錘	
65-14	11	ⅢM-23	Ⅱa	2.1	0.9	0.5	1.1	珪頁	石鏃	
65-15	8	ⅢM-23	Ⅱa	1.7	0.8	0.4	0.6	珪頁	石鏃	
65-16	9	ⅢN-32	Ⅱa	1.4	0.7	0.4	0.4	珪頁	石鏃	
65-17	49	ⅢN-32	Ⅱa	2	1.6	0.9	2.4	珪頁	不定形	
65-18	21	ⅢI-24	Ⅱb	3.9	2.4	0.9	8.2	珪頁	石槍	
65-19	36	ⅢM-23	Ⅱa	3.5	1.4	0.8	2.8	珪頁	不定形	
65-20	26	ⅢP-32	I	1.5	2	1	3.2	珪頁	不定形	
65-21	47	ⅢN-32	Ⅱa	4.5	2.2	1	10	珪頁	不定形	
65-22	50	ⅢN-32	Ⅱa	3.2	2.2	1	5.9	珪頁	不定形	
65-23	29	ⅢP-27	I	3.3	3.7	1	5.9	珪頁	不定形	
65-24	40	ⅢN-32	Ⅱa	3.7	1	1	3.6	珪頁	不定形	
65-25	24	ⅢL-32	I	5.4	6	1.4	52.4	珪頁	不定形	
65-26	34	ⅢM-32	Ⅱa	4.7	3.4	1.1	10.7	珪頁	不定形	
65-27	35	ⅢM-23	Ⅱa	3	1.7	1.1	4.8	珪頁	不定形	
65-28	42	ⅢN-32	Ⅱa	3.1	2.4	1	6.1	珪頁	不定形	
65-29	25	ⅢN-30	I	3.2	3.5	0.8	7	珪頁	不定形	
65-30	52	ⅢE-25	Ⅱa	5.4	3.5	1.1	23.9	珪頁	不定形	
65-31	43	ⅡT-20	Ⅱa	3.7	2.1	1.1	7.1	珪頁	不定形	
65-32	51	ⅢJ-28	Ⅱa	4.9	3.6	1.2	24.5	珪頁	不定形	
66-1	88	ⅢO-30	I	11.9	4.8	3.4	320.9	安山岩	磨製石斧	
66-2	87	ⅢO-30	I	6.7	5	2.3	114.4	輝緑	磨製石斧	
66-3	91	ⅢQ-30	I	10.4	9	2.5	331.6	安山岩	石錘	
66-4	94	ⅢN-28	カクラン	8.5	8.2	3.6	320.2	流紋岩	凹石	
66-5	112	ⅢJ-21	Ⅱb	11.4	8	4.6	468.8	砂岩	三角柱状磨石	ⅢF-23Ⅱa層と接合
66-6	114	ⅢA-28	Ⅱb	10.4	5.3	5.5	381.1	砂岩	敲磨器	
66-7	123	ⅢN-32	Ⅱa	10.5	11	5.2	285.6	砂岩	石皿	
66-8	122	ⅢD-24	I	9.2	6.7	6.6	313.2	安山岩	石皿	

引用・参考文献

地質について

- 松山力 1983 『八戸の地質』文化財シリーズ第24号 八戸市教育委員会
 大池昭二・中川久夫 1979 『地質調査報告書』東北農政局計画部
 通商産業省工業技術院地質調査所 1991 『20万分の1地質図 八戸』
 青森県教育委員会 1994 『畑内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』青森県埋蔵文化財調査報告第161集

縄文時代早期について

- 青森県教育委員会 1976 『千歳遺跡(t3)発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第27集
 1990 『表館(1)遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第127集
 1991 『中野平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第134集
 岩手県埋蔵文化財センター 1982 『二戸市長瀬B遺跡』二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書岩手県埋蔵文化財調査報告書 第36集
 1983 『小堀内Ⅰ遺跡遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財調査報告書第52集
 1984 『平船Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財調査報告書第76集
 1985 『小井田Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財調査報告書第85集
 岡本東三 1997 「関東・北の沈線文と関・東北の押型文」
 杉山武 1980 「白浜式・小舟渡平式土器にかかわる館平遺跡出土の早期貝殻文土器について」『奥南』1
 芹沢長介・林謙作 1965 「岩手県蛇王洞洞穴」『石器時代』7
 竹島国基 1958 「福島県双葉郡大平遺跡略報」『石器時代』5
 中野拓大 1995 「三戸式土器の成立と展開をめぐる試論」『みちのく発掘』菅原文也先生還暦記念論集刊行会
 名久井文明 1974 「北日本縄文式早期編年に関する一試考」『考古学雑誌』60-3
 八戸市教育委員会 1982 『長七谷地遺跡発掘調査報告書』八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集
 1983 『史跡根城跡発掘調査報告書』Ⅳ
 1983 『史跡根城跡発掘調査報告書』Ⅴ
 福島県教育委員会 1991 『国営総合農地開発事業 矢吹地区遺跡発掘調査報告8』福島県文化財調査報告書第249集
 1993 『東北横断自動車道遺跡調査報告』20 福島県文化財調査報告書第291集
 北海道第四紀研究会 1974 『西股』
 三沢市教育委員会 1988 『根井沼(1)遺跡緊急発掘調査報告書Ⅱ』三沢市埋蔵文化財調査報告書第4集

- 三沢市教育委員会 1988 『根井沼(1)遺跡発掘調査報告書Ⅲ』三沢市埋蔵文化財調査報告書第5集
1988 『小田内沼(1)・(4)遺跡発掘調査報告書』三沢市埋蔵文化財調査報告書第10集
- 盛岡市教育委員会 1983 『大館遺跡群(大新町遺跡)』昭和57年度発掘調査概報
1985 『大館遺跡群(大新町遺跡)』昭和59年度発掘調査概報
1990 『大館遺跡群(大新町遺跡)』平成元年度発掘調査概報
- 領塚正浩 1992 「「三戸式」と「日計式」」『人間・遺跡・遺物』2 発掘者談話会
1996 「東北地方北部に於ける縄文時代早期前半の土器編年」『史館』27・28
- 縄文時代後期について**
- 青森市蛭沢遺跡発掘調査団 1979 『青森市蛭沢遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1985 『大石平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第90集
1986 『沖附(2)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第101集
- 青森県八戸市教育委員会 1986 『八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ—丹後谷地遺跡—』八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集
- 青森県三沢市教育委員会 1992 『小田内沼(1)・(4)遺跡発掘調査報告書』三沢市埋蔵文化財調査報告書第10集
- 秋田県鹿角市教育委員会 1991 『大湯環状列石発掘調査報告書(7)』鹿角市文化財調査資料42
1996 『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(12)』鹿角市文化財調査資料56
- 磯崎正彦他 1968 「十腰内遺跡」『岩木山』
- 小山彦逸 1993 「青森県七戸町出土の弥生土器」『青森県考古学』第7号
- 春日信興 1983 「三戸郡南郷村出土の十腰内Ⅱ群土器a類について」『遺址』第3号
- 財団法人齋藤報恩会 1991 『宝ヶ峯』
- 鈴木克彦 1996 「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究—十腰内2式土器の研究—」『考古学雑誌』第81巻第4号
- 福島県いわき市他 1993 『久世原館・番匠地遺跡第Ⅱ篇』いわき市埋蔵文化財調査報告第33冊
- 福島県教育委員会他 1990 『東北横断自動車道遺跡調査報告8』福島県文化財調査報告書第240集
- 福島県立博物館 1988 『三貫地貝塚』福島県立博物館調査報告書第17集
- 福島県教育委員会他 1975 『東北自動車道遺跡調査報告』福島県文化財調査報告書第47集
- 本間宏 1985 「東北地方北部における縄文後期前葉土器群の実態」『よねしろ考古』第1号
- 本間宏 1987 「縄文時代後期初頭土器群の研究(1)—東北地方北部を中心に—」『よねしろ考古』第3号
- 三浦栄一郎、鈴木克彦 1984 「五戸町次郎左衛門長根遺跡の十腰内Ⅱ式土器」『青森県考古学』第1号
- 八戸市教育委員会 1986 『風張(1)遺跡Ⅱ』
- 米沢市教育委員会 1984 『左沢遺跡』米沢市埋蔵文化財調査報告書第11集

付編 西張遺跡(2)から出土した大型植物化石

新山 雅広 (パレオ・ラボ)

1. 出土した大型植物化石

検討した資料はビンNo.001～013の計13資料である。資料は非常に細かな破片であり、同定に至らないものも多数あった。同定した分類群数は木本2分類群であり、オニグルミとサンショウ属?であった。オニグルミは3資料(ビンNo.007、009、013)から、サンショウ属?は2資料(ビンNo.003、010)から出土した。これら、出土した大型植物化石の一覧は表1に示した。

2. 大型植物化石の記載

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核

出土したものは細かな破片であるが、完形であれば、球形から楕円球形。核壁は緻密で堅く、炭化すると割れ口に光沢が見られることが多い。表面は滑らかだが凹凸があり、不規則な細い筋が入る。

サンショウ属 *Zanthoxylum* 種子

完形であれば、側面観は楕円形、上面観は卵形。表面には細かな網目模様があり、一方の側面にはへそがある。出土したものは、表面に細かな網目模様があり、種子片の内側は大きくくぼみ、完形であれば、内部は空洞のようである。非常に細かな破片であるため、サンショウ属?とした。

表1. 出土種実一覧(数字は個数、()内は破片の数)

地 点	グリッド等	ビンNo.	分 類 群 と 個 数
6 H 床	A 3 - 1	0 0 1	不明炭化物、(3)
6 H 床	B 0 - 1	0 0 2	不明炭化物、(2)
6 H 床	B 1 - 1	0 0 3	サンショウ属?、種子、(2)
6 H 床	C 0 - 1	0 0 4	不明炭化物、(1)
		0 0 5	不明、炭化種子?、1
		0 0 6	不明炭化物、(1)
6 H 床	C 1 - 1	0 0 7	オニグルミ、炭化核、(1)
		0 0 8	不明炭化物、(3)
6 H 床	D 2 - 1	0 0 9	オニグルミ、炭化核、(1)
		0 1 0	サンショウ属?、種子、(1)
		0 1 1	不明、炭化種子?、(1)
		0 1 2	不明炭化物、(小片多数)
1 H	5 層	0 1 3	オニグルミ、炭化核、(多数) …約1個分

*付記 第6号住居跡選別資料は、貼床に含まれた炭化物を対象とした。グリッドは、1×1mを19区設定し、貼床を全て回収した。貼床は、可能な限りブロック状で回収した。水洗選別に当たり、事前に室内で貼床のブロックの表面を削り、資料採取時の混入を除去するよう努めた。回収した土壌のうち1グリッドにつき500cc×2サンプルを水洗したが、上記分のみ分析を実施した。(中村)

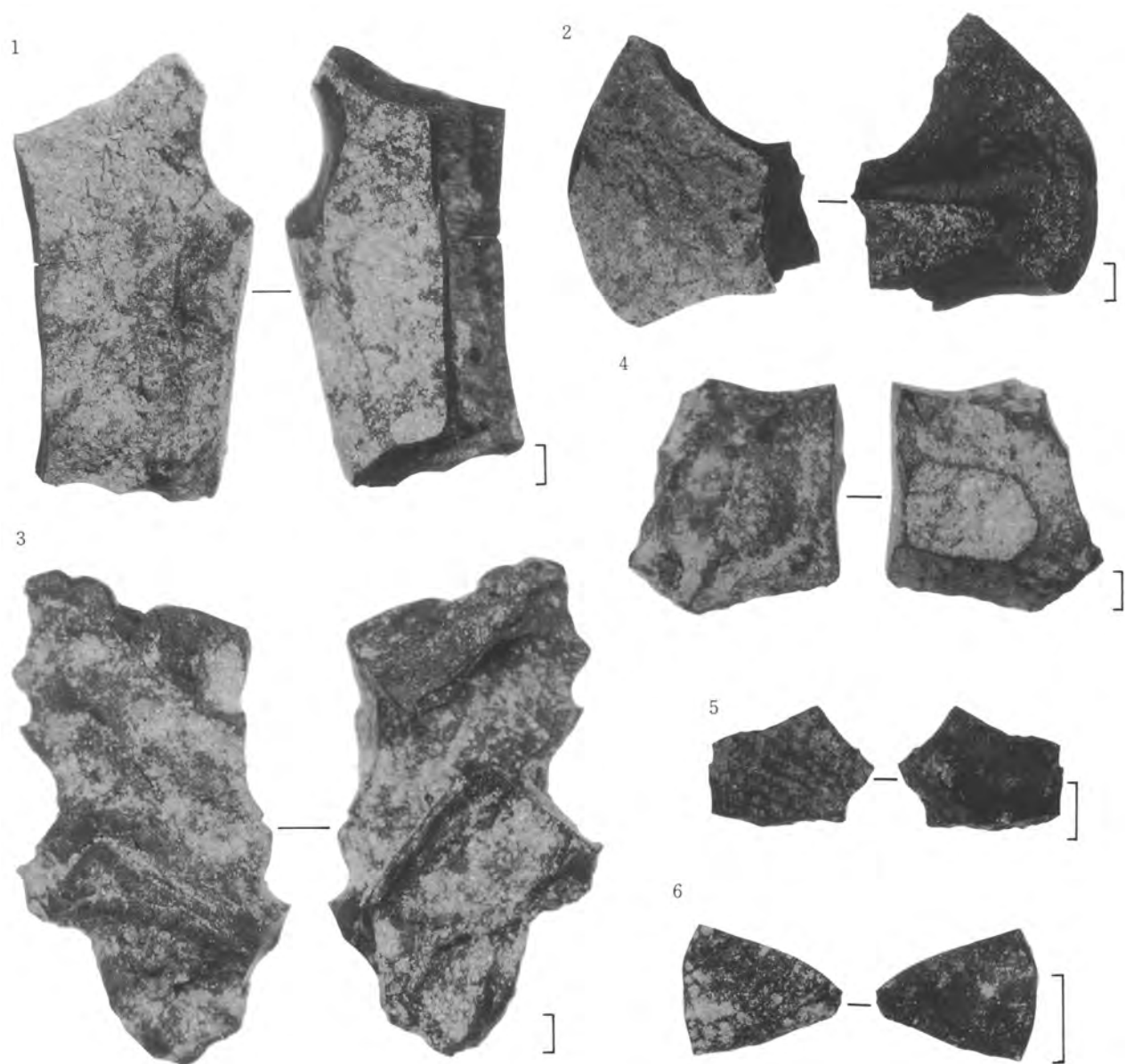


図1 西張(2)遺跡から出土した大型植物化石 (スケールは1mm)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1・2、オニグルミ、炭化核 (1H、5層、013) | 3、オニグルミ、炭化核 (6H床、C1-1、007) |
| 4、オニグルミ、炭化核 (6H床、D2-1、009) | 5、サンショウ属?、種子 (6H床、D2-1、010) |
| 6、サンショウ属?、種子 (6H床、B1-1、003) | |



第1号住居跡 東西セクション (S→)



第1号住居跡 南北セクション (E→)



第1号住居跡 遺物出土状況 (E→)



第1号住居跡 炭化クルミ出土 (N→)



第1号住居跡 完掘 (S→)



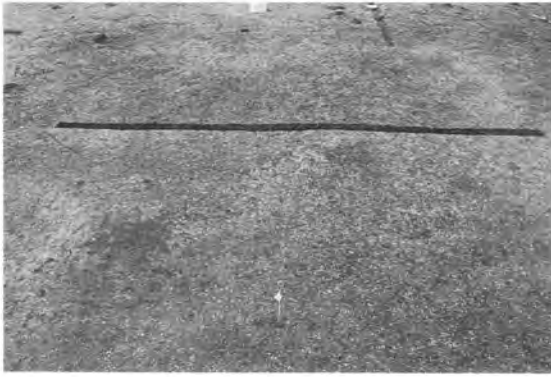
第2号住居跡 東西セクション (S→)



第2号住居跡 南北セクション (E→)



第2号住居跡 完掘 (E→)



第3号住居跡 確認 (W→)



第3号住居跡 東西セクション (S→)



第3号住居跡 南北セクション (E→)



第3号住居跡 完掘 (E→)



第4号住居跡 東西セクション (N→)



第4号住居跡 遺物出土状況 (E→)



第4号住居跡 炭化材・焼土出土状況 (N→)



第4号住居跡 炉セクション (S→)



第4号住居跡 炉セクション (S→)



第4号住居跡 炉完掘 (E→)



第4号住居跡 完掘 (E→)



第4号住居跡 炉・盛土・住居内1号土坑 (N→)



第4号住居跡 炉・盛土・住居内1号土坑セクション (N→)



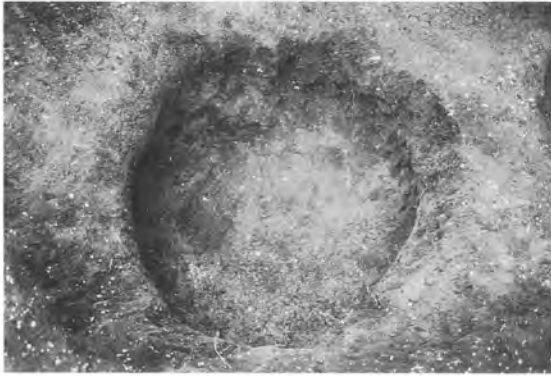
第4号住居跡 住居内1号土坑遺物出土状況 (N→)



第4号住居跡 住居内1号土坑完掘 (N→)



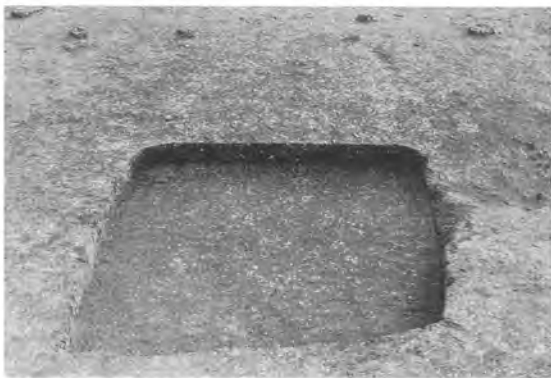
第4号住居跡 住居内2号土坑セクション (E→)



第4号住居跡 住居内2号土坑完掘 (N→)



第4号住居跡 完掘 (E→)



第5号住居跡 検出 (N→)



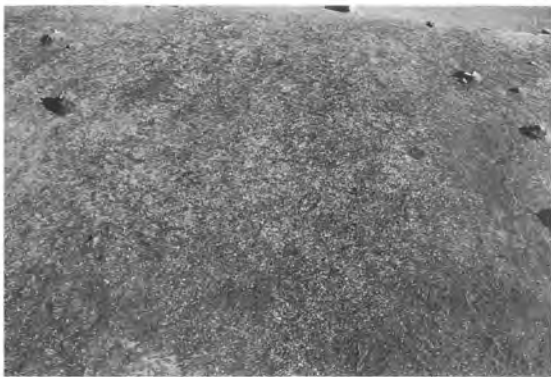
第5号住居跡 東西セクション (S→)



第5号住居跡 南北セクション (E→)



第5号住居跡 完掘 (E→)



第6号住居跡 確認 (W→)



第6号住居跡 東西セクション (S→)

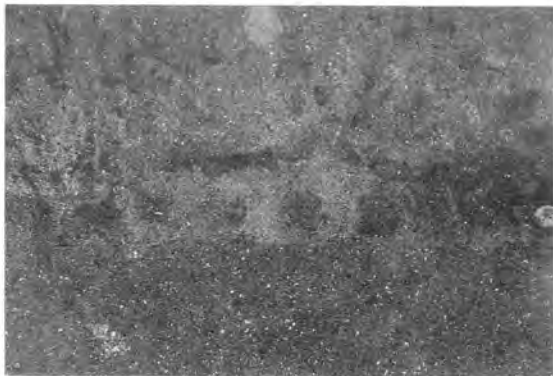
図版 4



第6号住居跡 南北セクション (E→)



第6号住居跡 完掘 (E→)



第6号住居跡 壁柱穴確認 (W→)



第6号住居跡 壁柱穴半截 (N→)



第6号住居跡 壁柱穴 (S→)



第6号住居跡 貼床東西セクション (S→)



第6号住居跡 貼床南北セクション (E→)



第6号住居跡 完掘 (E→)



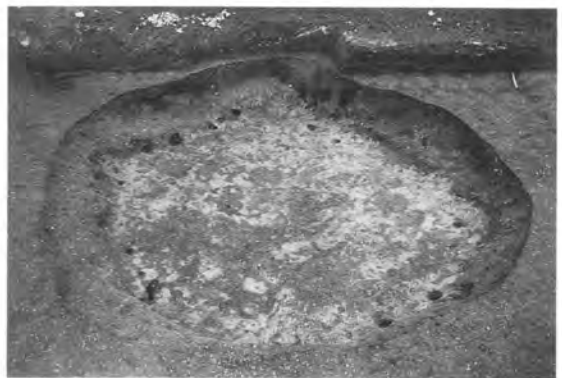
第6号住居跡 完掘 (W→)



第7号住居跡 東西セクション (N→)



第7号住居跡 南北セクション (E→)



第7号住居跡 完掘 (N→)



第8号住居跡 セクション (SE→)



第8号住居跡 炉セクション (SE→)



第8号住居跡 炉完掘 (S→)



第8号住居跡 遺物出土状況 (S→)



第8号住居跡 完掘 (SE→)



第9号住居跡 セクション (E→)



第9号住居跡 完掘 (SE→)



第1号土坑 完掘 (W→)



第2号土坑 セクション (N→)



第2号土坑 完掘 (N→)



第3号土坑 セクション (E→)



第3号土坑 完掘 (S→)



第4号土坑 セクション (SE→)



第4号土坑 完掘 (SW→)



第5号土坑 完掘 (S→)



第6号土坑 セクション (NW→)



第6号土坑 完掘 (SE→)



第7号土坑 セクション (E→)



第7・10号土坑 完掘 (E→)



第8号土坑 セクション (E→)



第8号土坑 完掘 (S→)



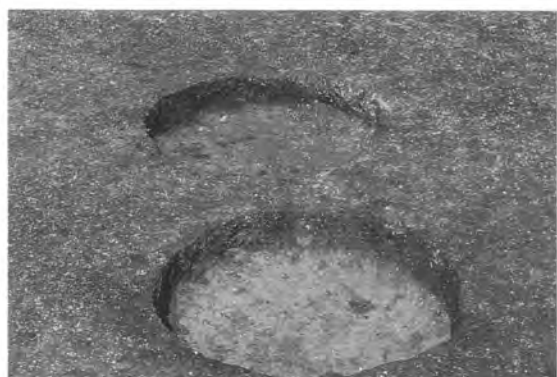
第9号土坑 セクション (NW→)



第11号土坑 セクション (E→)



第12号土坑 セクション (E→)



第11・12号土坑 完掘 (S→)



第13号土坑 セクション (E→)



第13号土坑 完掘 (E→)



第14号土坑 南北セクション (W→)



第14号土坑 完掘 (NW→)



第15号土坑 セクション (NW→)



第15号土坑 完掘 (W→)



第16・17号土坑 セクション (W→)



第16・17号土坑 完掘 (W→)



第18号土坑 セクション (E→)



第18号土坑 完掘 (N→)



第19号土坑 南壁セクション (S→)



第19号土坑 完掘 (S→)



第20号土坑 セクション (E→)



第20号土坑 完掘 (E→)



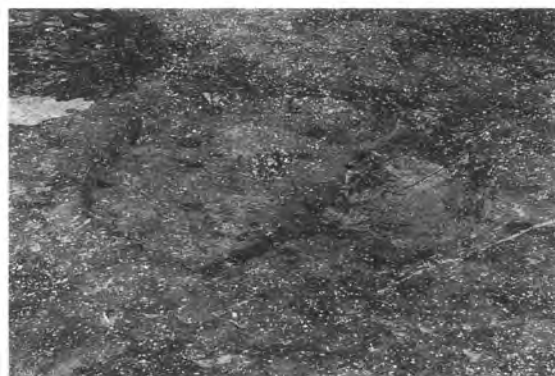
第21号土坑 セクション (W→)



第21号土坑 完掘 (W→)



第22号土坑 セクション (E→)



第22号土坑 完掘 (SE→)



第23号土坑 セクション (E→)



第23号土坑 完掘 (E→)



第24号土坑 セクション (W→)



第24号土坑 完掘 (W→)



第25号土坑 セクション (E→)



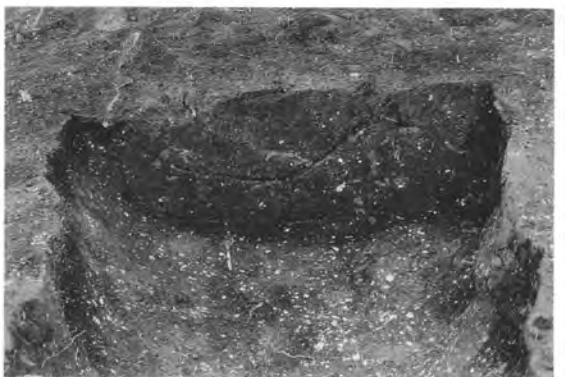
第25号土坑 完掘 (N→)



第26・27号土坑 セクション (SW→)



第26・27号土坑 完掘 (NW→)



第28号土坑 セクション (E→)



第28号土坑 完掘 (S→)



第29号土坑 セクション (E→)



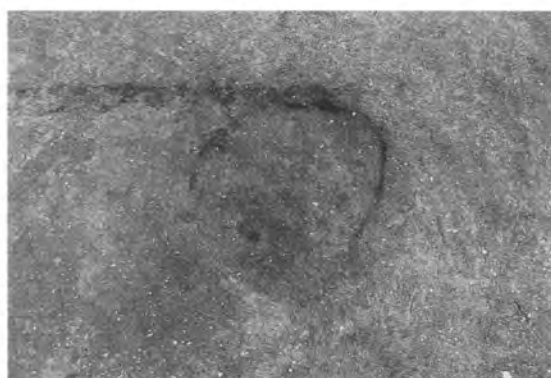
第29号土坑 完掘 (E→)



第30・31号土坑 セクション (S→)



第32号土坑 セクション (E→)



第32号土坑 完掘 (W→)



第33号土坑 東西セクション (S→)



第33号土坑 完掘 (E→)



集石遺構① (W→)



集石遺構② (W→)



集石遺構③ (W→)



集石遺構④ (NE→)



集石遺構⑤ (N→)



集石遺構⑥ (E→)



集石遺構⑦ (E→)



集石遺構⑨ (E→)



集石遺構① (E→)



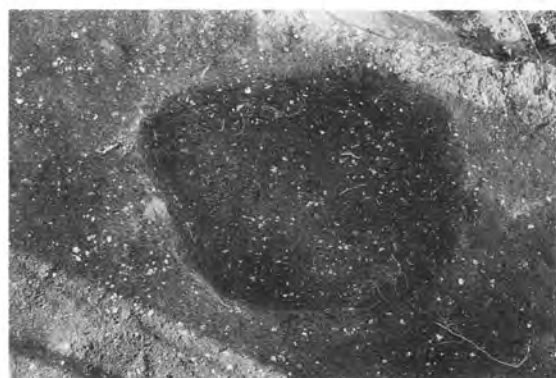
集石遺構全景 (III L-31) (W→)



第1号焼土 確認 (SW→)



第1号焼土 セクション (W→)



第1号焼土 完掘 (W→)



第2号焼土 セクション (E→)



第2号焼土 完掘 (S→)



溝状遺構 完掘 (S→)



道路状遺構 完掘 (N→)



畝状遺構 セクション (S→)



畝状遺構 セクション (S→)



畝状遺構 完掘 (W→)



壺出土状況



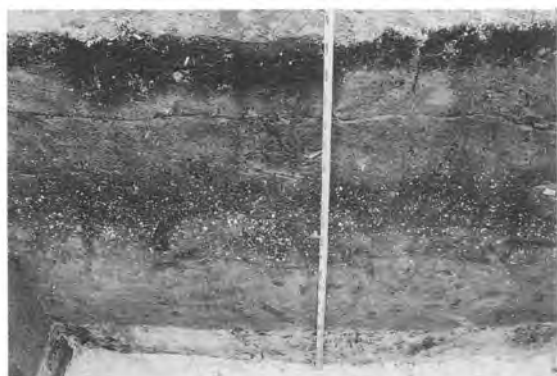
壺出土状況 (NE→)



遺物出土状況 (S→)



遺物出土状況



基本層序 (N→)



作業風景



作業風景



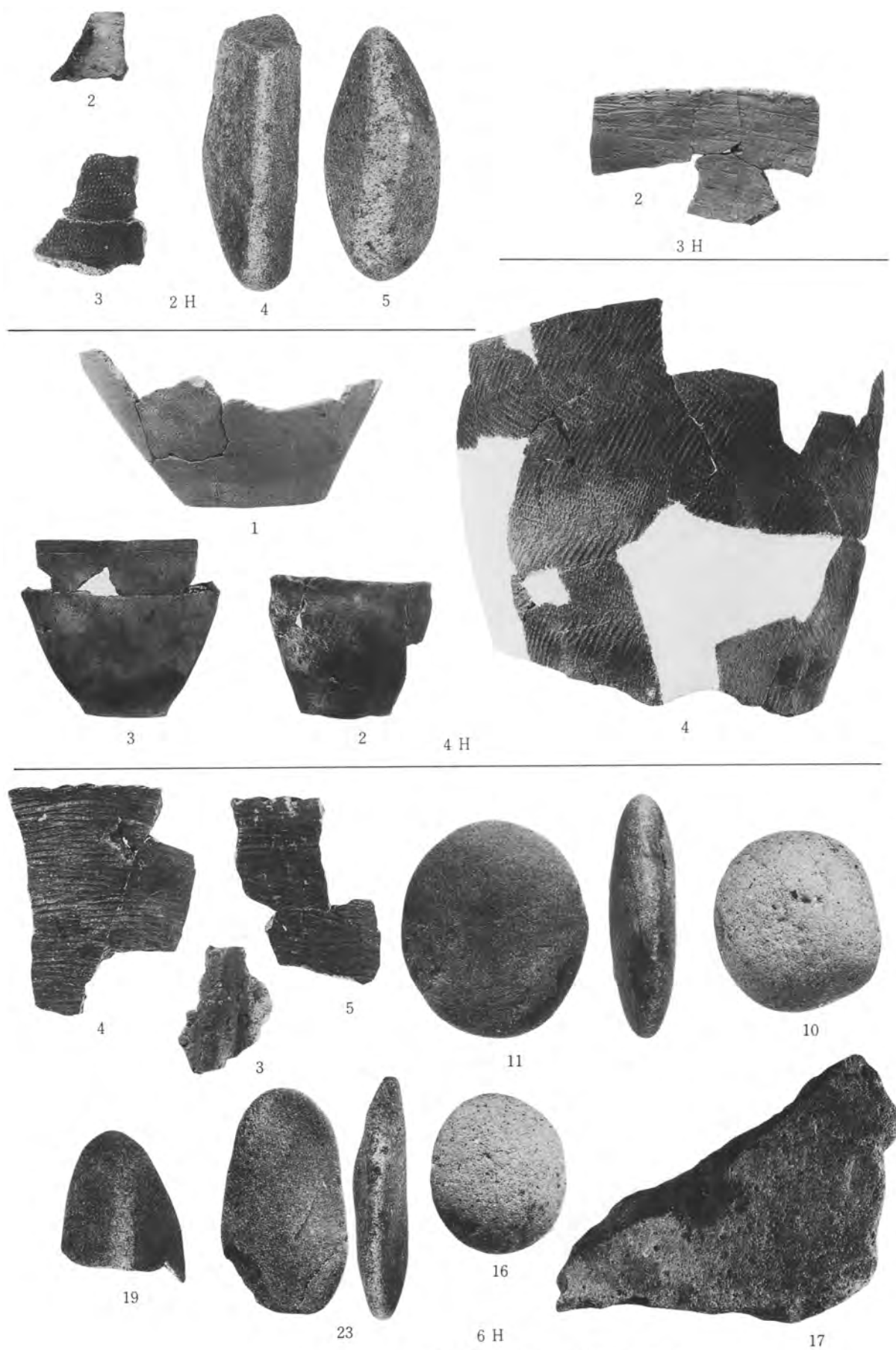
作業風景



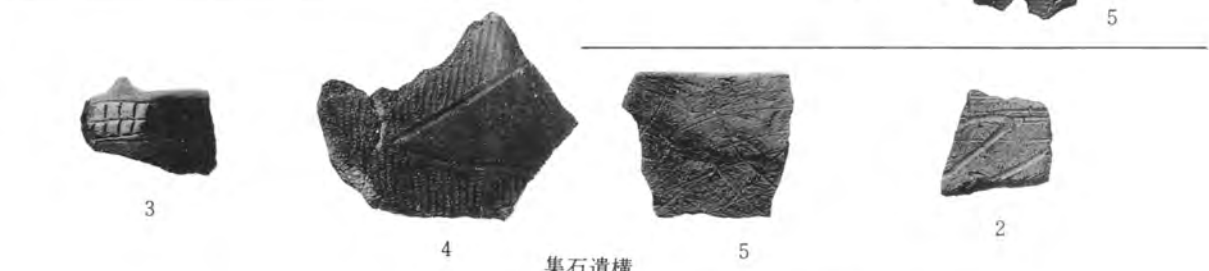
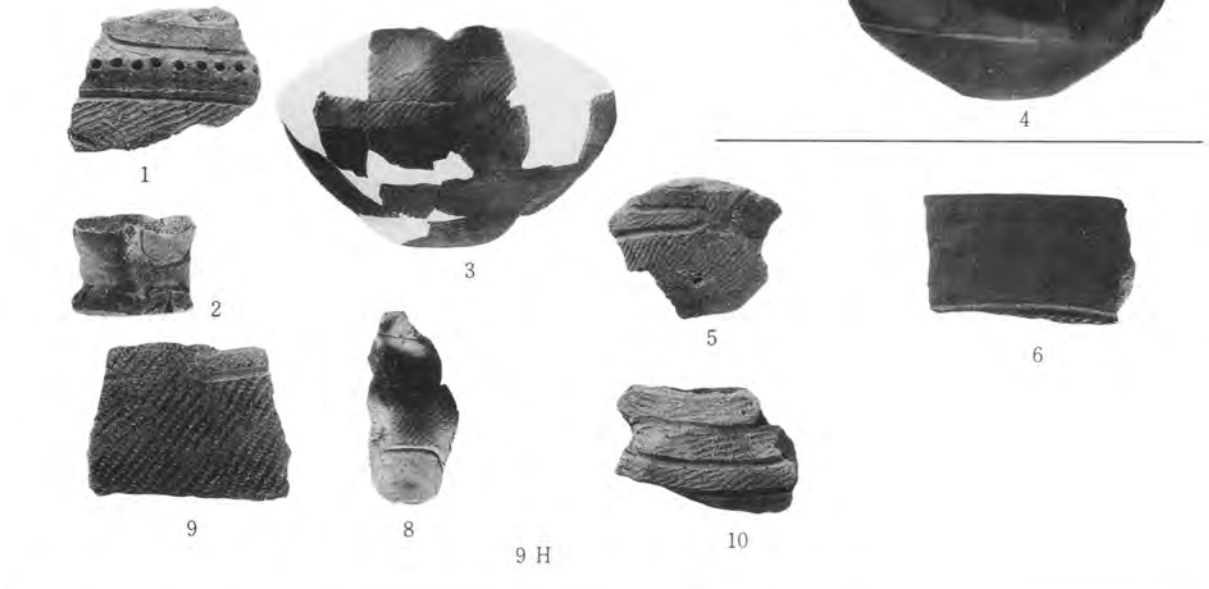
作業風景



作業風景

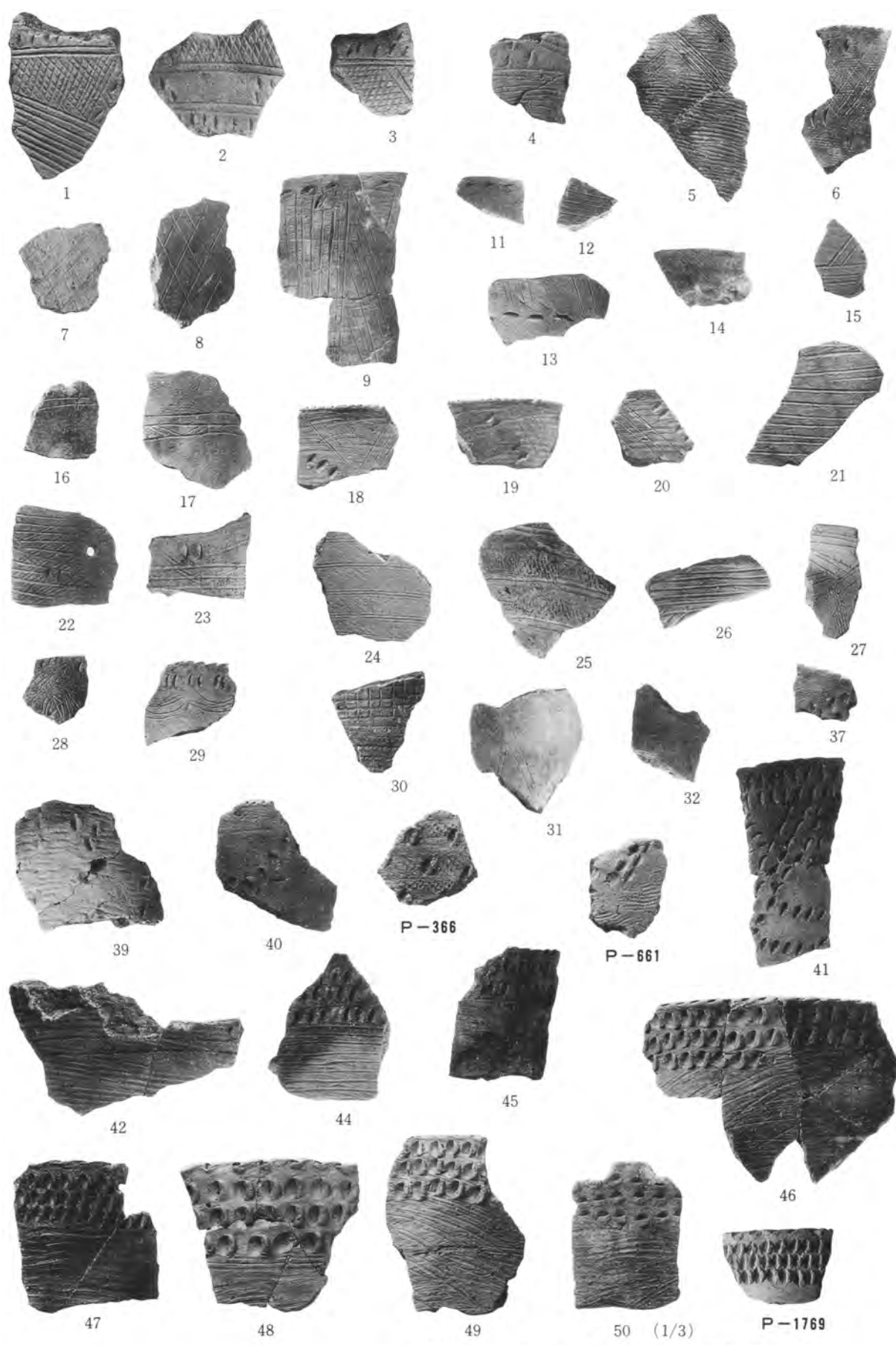


図版18 (1/3 ただし3のみ2/3)

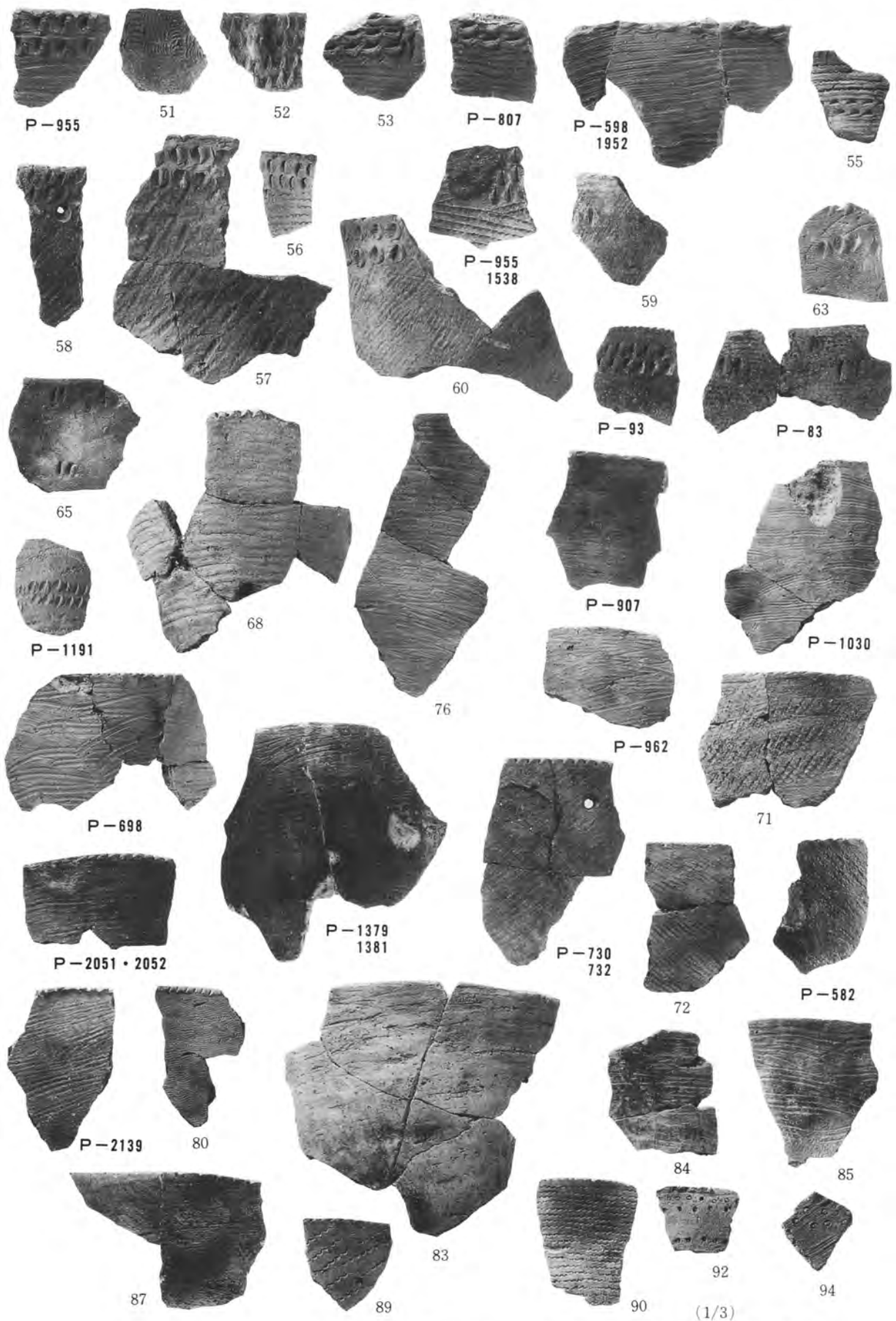


集石遺構

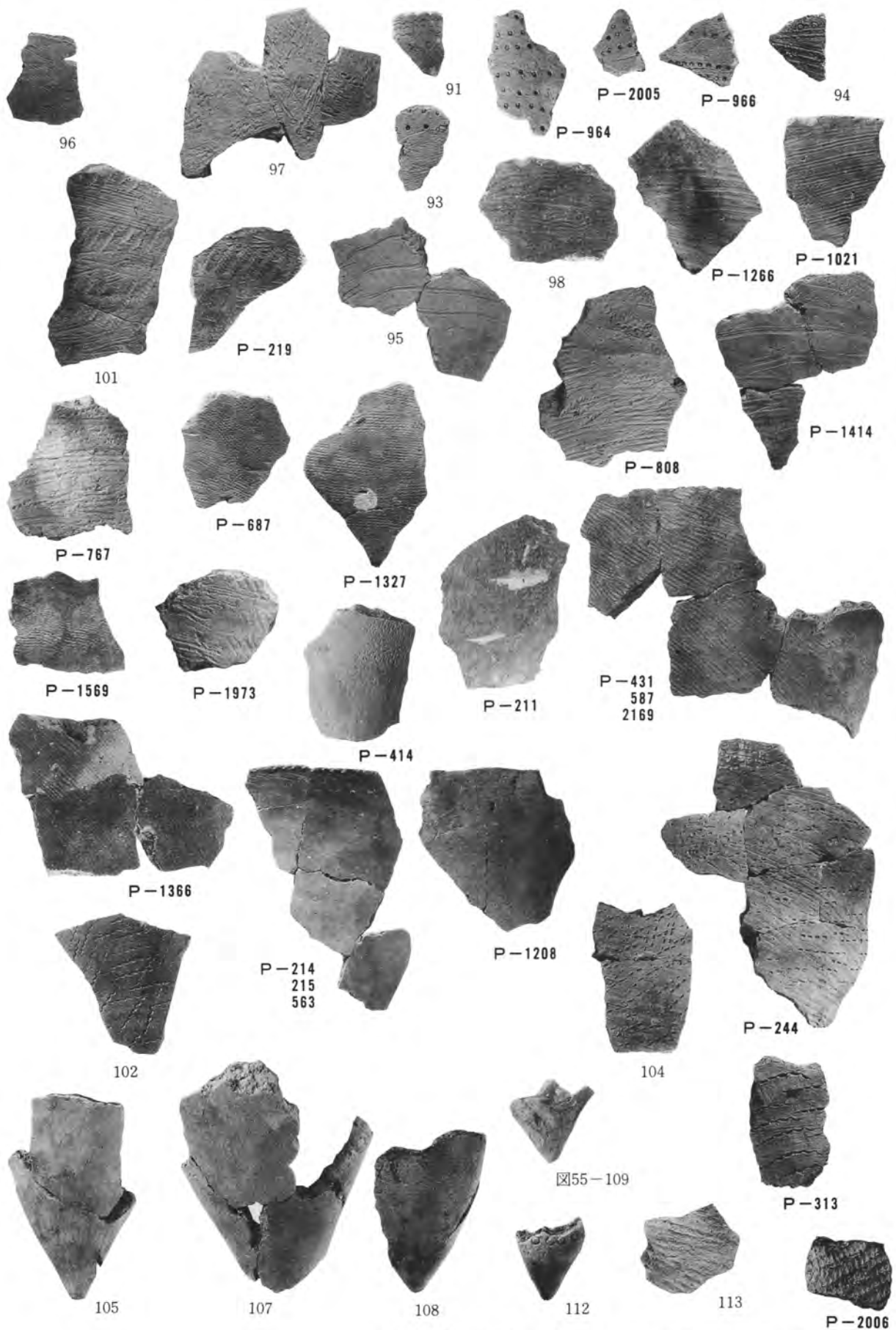
図版19 S=1/3 但し9H-4のみ1/4



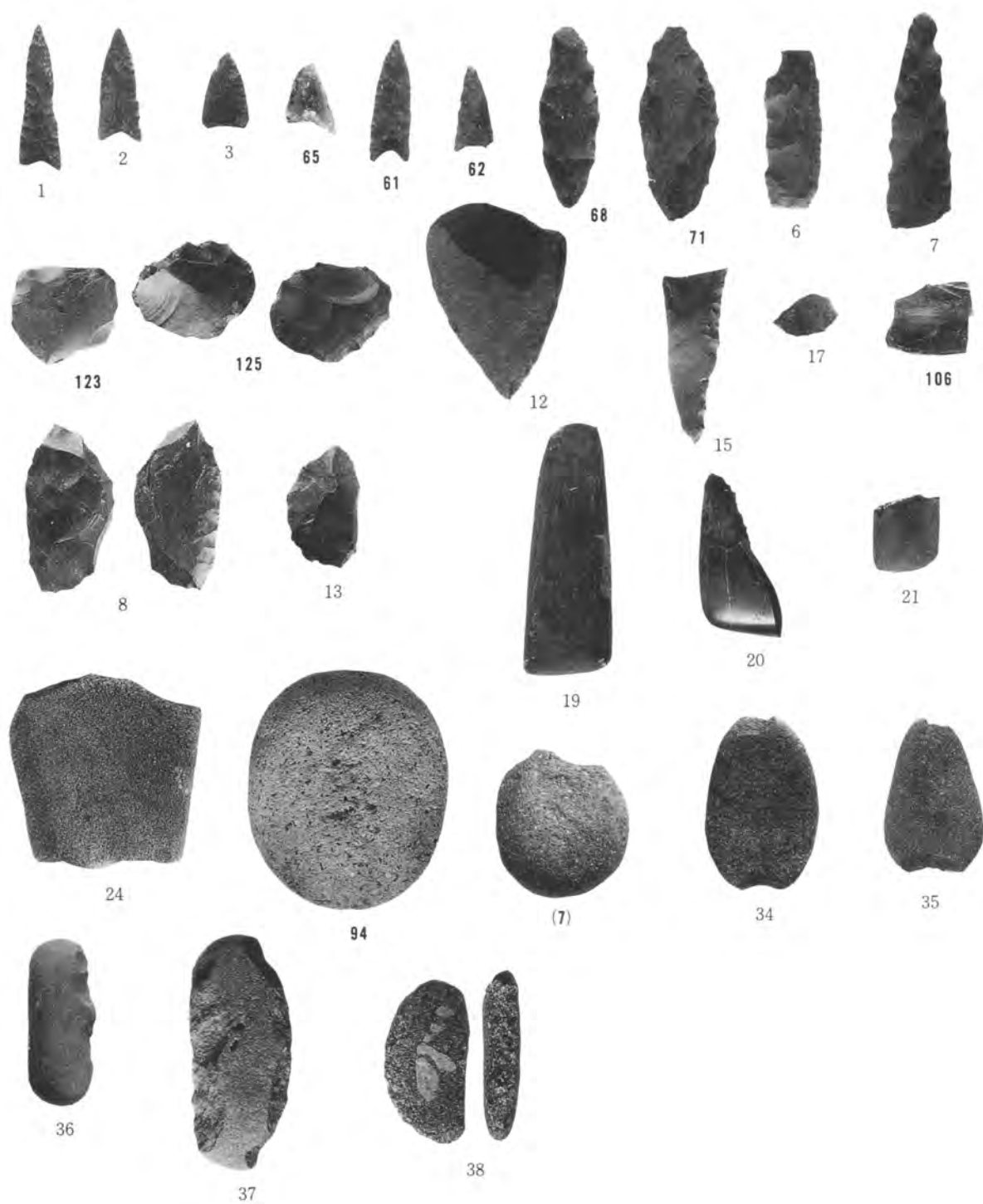
図版20 ゴシック 実測図不掲載、現場取り上げ番号



図版21 ゴシック 実測図不掲載 現場取り上げ番号



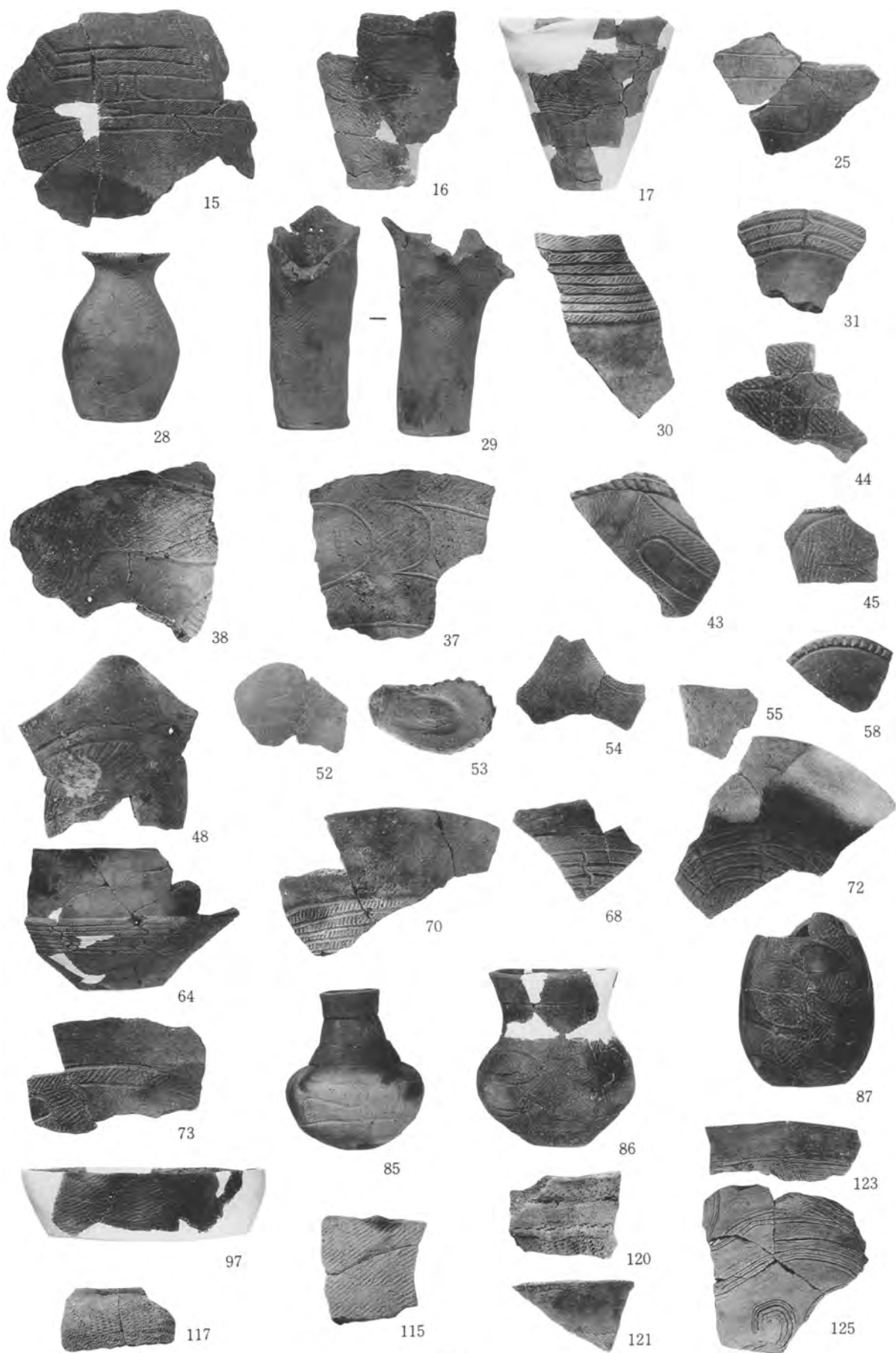
図版22 (1/3) ゴシック 実測図不掲載 現場とり上げ番号



剥片石器 S=4/9 礫石器 S=1/3

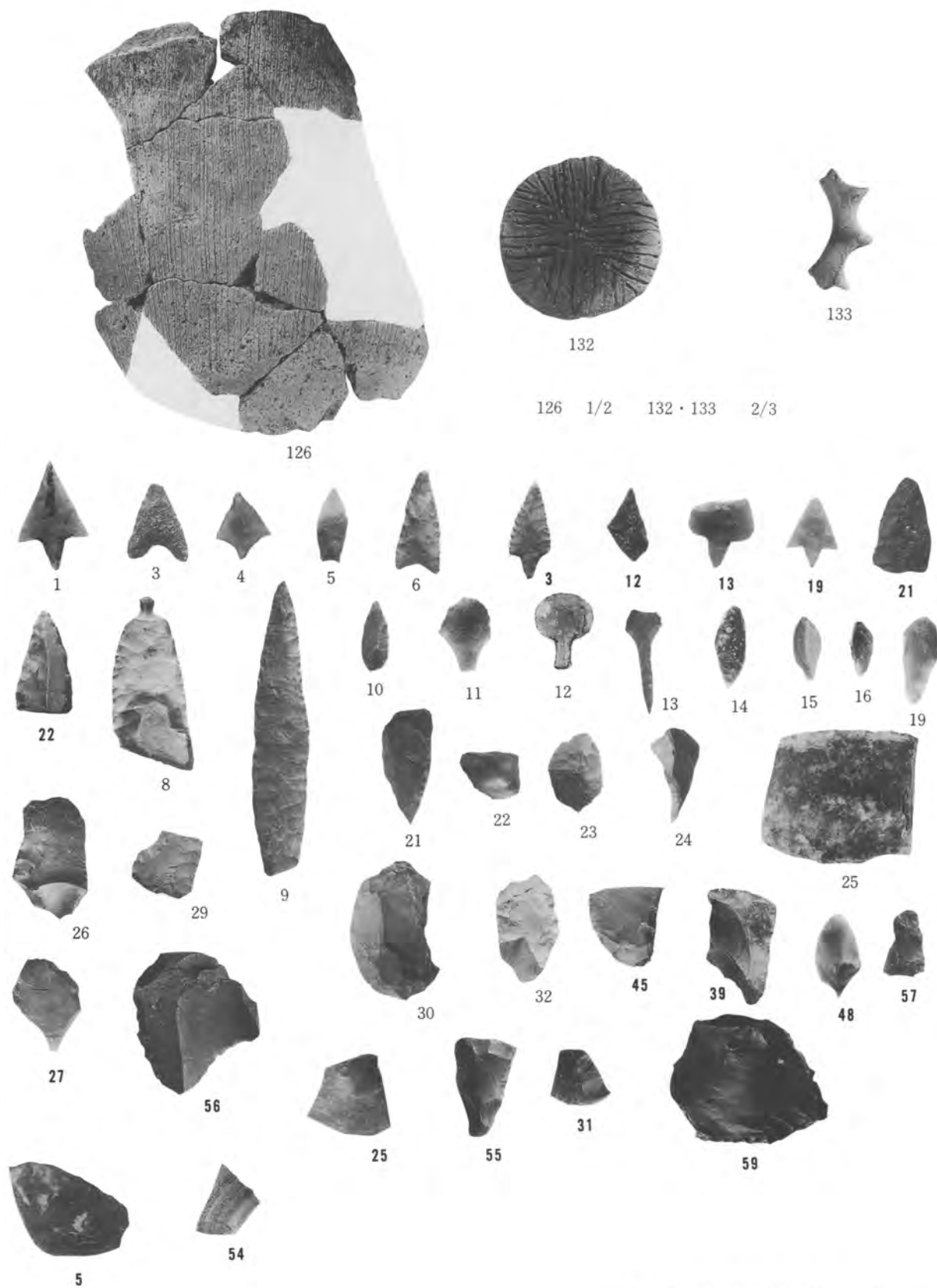
ゴシック 実測図不掲載・整理番号

図版23



图版24

S=1/4 (53 S=1/2, 15·16·64·85·97 S=1/6)



1・3・4・11・12・14～16・29
 13・19 2/3 上記以外1/1

ゴシック 実測図不掲載・整理番号

図版25

報告書抄録

ふりがな	にしはり							
書名	西張(2)遺跡							
副書名	東北新幹線建設事業に係る遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第233集							
編著者名	中村 哲也、野村 信生							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15 TEL 0177-88-5701 FAX 0177-88-5702							
発行年月日	平成10年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査 期間	調査 面積	調査 原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
にしはり 西張(2)遺跡	あおもりけんさんのへぐんみく 青森県三戸郡福 地村大字法師岡 あざにしはり 字西張57-1、 外	02-447	64-007	40° 27' 43"	141° 24' 30"	960709 961101	7435m ²	東北新幹線 建設工事に 伴う事前調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西張(2)遺跡	集落	縄文時代 早期 後期	住居跡6軒 住居跡3軒 集石遺構 土坑	白浜式土器 十腰内II・III式土器		早期住居跡からクルミ 殻・サンショウ属種子 出土		

青森県埋蔵文化財調査報告書第233集

西張(2)遺跡

—東北新幹線建設工事に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日	平成10年3月31日
発行	青森県教育委員会 〒030-0801 青森市新町二丁目3-1
編集	青森県埋蔵文化財調査センター 〒038-0042 青森市新城字天田内152-15
印刷	高金印刷株式会社 〒038-0015 青森市千刈二丁目1-30